

令和 4 年度

# 業 務 年 報

令和 6 年 3 月

宮崎県総合農業試験場



# 目 次

|     |                           |     |                  |                                       |     |
|-----|---------------------------|-----|------------------|---------------------------------------|-----|
| I   | 宮崎県総合農業試験場組織機構・<br>位置及び規模 | 1   | 3) 土 壌 環 境 部     | 2 6                                   |     |
|     |                           |     | 4) 生 物 環 境 部     | 2 8                                   |     |
|     |                           |     | 5) 生 物 工 学 部     | 3 0                                   |     |
|     |                           |     | 6) 作 物 部         | 3 2                                   |     |
| II  | 気象及び作況                    |     | 7) 野 菜 部         | 3 5                                   |     |
| 1.  | 気象概況                      | 2   | 8) 花 き 部         | 3 7                                   |     |
| 2.  | 病虫害の発生状況                  | 5   | 9) 果 樹 部         | 4 0                                   |     |
| 3.  | 作 況                       |     | 10) 畑作園芸支場       | 4 5                                   |     |
| 1)  | 水 稻                       | 7   | 11) 茶 業 支 場      | 4 7                                   |     |
| 2)  | 畑 作                       | 7   | 12) 亜熱帯作物支場      | 4 9                                   |     |
| 3)  | 野 菜                       | 7   | 13) 薬草・地域作物センター  | 5 1                                   |     |
| 4)  | 花 き                       | 8   | 14) 病虫害防除・肥料検査課  | 5 2                                   |     |
| 5)  | 果 樹                       | 9   | 15) 鳥獣被害対策支援センター | 5 3                                   |     |
| 6)  | 茶                         | 1 0 | 16) 専門技術センター     | 5 3                                   |     |
| III | 試験研究の方向                   |     | V                | 試験研究の成果発表・情報発信等                       |     |
| 1.  | 試験研究基本方針                  | 1 1 | 1.               | 令和4年度主要刊行物                            | 5 4 |
| 2.  | 部門別試験研究の具体的推進方向<br>.....  | 1 1 | 2.               | 各部・支場成績書                              | 5 4 |
| IV  | 令和4年度試験研究及び事業の実績<br>..... | 1 5 | 3.               | 宮崎県「農水産業における普及技術」<br>及び「九州農業研究成果情報」・・ | 5 5 |
| 1.  | 各部・支場等の実績概要               |     | 4.               | 学術論文(学会誌及び研究報告)・・                     | 5 7 |
| 1)  | 企 画 情 報 室                 | 1 5 | 5.               | 業界誌等への成果発表                            | 5 7 |
| 2)  | 生 産 流 通 部                 | 1 5 | 6.               | 学会等での発表及び要旨                           | 5 8 |
| 3)  | 土 壌 環 境 部                 | 1 5 | 7.               | 新聞、一般広報誌等掲載                           | 6 1 |
| 4)  | 生 物 環 境 部                 | 1 5 | 8.               | 県で開催された農試関係会議等・・                      | 6 1 |
| 5)  | 生 物 工 学 部                 | 1 6 | 9.               | 県関係講習会、研修会                            | 6 2 |
| 6)  | 作 物 部                     | 1 6 | 10.              | 受賞・学位取得関係                             | 6 8 |
| 7)  | 野 菜 部                     | 1 7 | 11.              | 品種登録・特許                               | 6 8 |
| 8)  | 花 き 部                     | 1 7 | 12.              | 依頼分析と技術相談                             | 6 8 |
| 9)  | 果 樹 部                     | 1 8 | 13.              | 病虫害、生育障害診断件数                          | 6 8 |
| 10) | 畑作園芸支場                    | 1 9 | 14.              | 見学・視察者の年度別実績                          | 6 9 |
| 11) | 茶 業 支 場                   | 1 9 | VI               | 総 務                                   |     |
| 12) | 亜熱帯作物支場                   | 2 0 | 1.               | 令和4年度派遣研修実績                           | 7 0 |
| 13) | 薬草・地域作物センター               | 2 0 | 2.               | 令和4年度予算(本場・支場)・・                      | 7 1 |
| 14) | 病虫害防除・肥料検査課               | 2 1 | 3.               | 職員の配置                                 | 7 2 |
| 15) | 鳥獣被害対策支援センター              | 2 1 | 4.               | 退職者・転出者                               | 7 4 |
| 16) | 専門技術センター                  | 2 1 | 5.               | 県有財産(土地、建物)                           | 7 4 |
| 2.  | 試験研究課題及び事業一覧              | 2 2 | 6.               | 令和4年度購入備品                             | 7 4 |
| 3.  | 試験研究課題及び事業別の成果等           |     |                  |                                       |     |
| 1)  | 企 画 情 報 室                 | 2 5 |                  |                                       |     |
| 2)  | 生 産 流 通 部                 | 2 5 |                  |                                       |     |



# I 宮崎県総合農業試験場組織機構・位置及び規模

## 1. 組織機構（令和5年3月31日現在）

主管部・課 農政水産部・農業普及技術課

場 長

副場長（総括）

副場長（研究）

副場長（専門技術）

管 理 課

総務担当

会計担当

病虫害防除・肥料検査課

鳥獣被害対策支援センター

企 画 情 報 室

生 産 流 通 部

土 壌 環 境 部

生 物 環 境 部

生 物 工 学 部

作 物 部

野 菜 部

花 き 部

果 樹 部

専門技術センター

畑作園芸支場

茶 業 支 場

亜熱帯作物支場

薬草・地域作物センター

栽培加工科

育種科



宮崎県総合農業試験場本場及び支場位置図

## 2. 所在地等

| 名 称         | 郵便番号      | 所 在 地              | 電話番号         | F A X        |
|-------------|-----------|--------------------|--------------|--------------|
| 本 場         | 〒880-0212 | 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂5805  | 0985-73-2121 | 0985-73-2127 |
| 畑 作 園 芸 支 場 | 〒885-0091 | 宮崎県都城市横市町10683     | 0986-22-1743 | 0986-22-1744 |
| 茶 業 支 場     | 〒889-1301 | 宮崎県児湯郡川南町大字川南17070 | 0983-27-0355 | 0983-27-1314 |
| 亜熱帯作物支場     | 〒889-3211 | 宮崎県日南市南郷町賛波3236-3  | 0987-64-0012 | 0987-64-0657 |
| 薬草・地域作物センター | 〒886-0212 | 宮崎県小林市野尻町東麓2581-88 | 0984-21-6061 | 0984-21-6063 |

## 3. 用地面積

令和5年3月31日現在（単位：ha）

|             | 総面積                           | 水田   | 畑   | 樹園地  | ハウス | 建 物 | 山 林  | その他  |
|-------------|-------------------------------|------|-----|------|-----|-----|------|------|
| 本 場         | 61.0                          | 11.0 | 5.3 | 6.3  | 2.4 | 1.7 | 17.5 | 16.8 |
| 畑 作 園 芸 支 場 | 11.9                          |      | 2.9 |      | 0.3 | 0.3 | 2.6  | 5.8  |
| 茶 業 支 場     | 12.7                          |      |     | 10.0 |     | 0.3 | 0.2  | 2.2  |
| 亜熱帯作物支場     | 試験用地<br>18.9<br>有用植物園<br>18.9 |      |     | 4.3  | 0.4 | 0.3 |      | 13.9 |
|             |                               |      |     |      |     |     |      | 18.9 |
| 薬草・地域作物センター | 1.8                           |      | 0.4 | 0.6  | 0.2 | 0.2 |      | 0.4  |
| 合 計         | 125.2                         | 11.0 | 8.6 | 21.2 | 3.3 | 2.8 | 20.3 | 58.0 |

## Ⅱ 気象及び作況

### 1. 気象概況

令和4年4月：期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多く、後半の天気は短い周期で変化し、前線や低気圧の影響を受けて雨や曇りが多く、大雨となった日もあった。

各地の月平均気温は平年差+0.5℃～+1.5℃で西米良は平年よりかなり高く、その他は平年並か平年より高かった。月降水量は163.0ミリ～438.0ミリ（平年比80%～180%）で都農では平年より少なかったが、加久藤、小林は平年よりかなり多く、その他は平年並か平年より多かった。月間日照時間は平年比97%～108%で高千穂は平年より多く、その他は平年並だった。

5月：期間を通して高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や湿った空気等の影響を受けて雨や曇りが多く、大雨となった日もあった。生物季節観測では、30日にあじさいの開花を平年より3日早く、昨年より1日早く観測した。

各地の月平均気温は平年差-0.9℃～-0.1℃で高千穂、串間は平年並で、その他は平年より低いか、かなり低かった。月降水量は154.0ミリ～516.5ミリ（平年比72%～177%）で西米良は平年より少なく、宮崎、油津、日向、都農では平年よりかなり多く、他は平年並か平年より多かった。月間日照時間は平年比66%～88%で全ての観測点で平年より少なかった。

6月：期間の中頃にかけて高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や梅雨前線の影響等を受けて曇りや雨の日が多く大雨となった日もあった。期間の終わりは高気圧の周辺部で暖かく湿った空気の流れ込みや上空に寒気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定で雨や雷雨となった日があった。

九州南部（宮崎県を含む）は、6月27日ごろに梅雨明けしたとみられると発表した。平年より18日早く、昨年より14日早かった。

各地の月平均気温は平年差+0.3℃～+1.0℃で油津、鞍岡は平年並、その他は平年より高いかかなり高かった。月降水量は286.0ミリ～589.5ミリ（平年比52%～91%）でえびの、深瀬は平年よりかなり少なく、その他は平年並か平年より少なかった。月間日照時間は平年比112%～142%で鞍岡、西米良は平年並、その他は平年より多いかかなり多かった。

7月：高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風第4号、台風第5号や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く大雨となった日もあった。

各地の月平均気温は平年差+0.1℃～+0.9℃で全ての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は218.0ミリ～1078.0ミリ（平年比54%～190%）で高千穂、鞍岡、日之影、都農は平年より少なく、その他は平年並か平年より多かった。月間日照時間は平年比66%～91%で油津、西米良、小林は平年並、その他は平年より少なかった。

8月：高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、日射や湿った空気の影響を受けて大気の状態が不安定となり、雷を伴う日があった。

各地の月平均気温は平年差+0.6℃～+1.6℃で全ての観測点で平年より高いか、かなり高かった。月降水量は31.0ミリ～393.0ミリ（平年比12%～115%）で加久藤は平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。月間日照時間は平年比102%～128%で高千穂、古江、鞍岡、加久藤は平年並、その他は平年より多かった。

9月：高気圧に覆われて晴れの日もあったが、気圧の谷や湿った空気の影響を受けて曇りや雨の日もあった。5日から6日にかけて台風第11号、17日から19日にかけて台風第14号の影響を受け、山沿いでは局地的に月降水量1000ミリを超える大雨が降り、神門で1512.0ミリ、西米良で1088.5ミリを観測し、月降水量の多い方からの極値を更新。また、日最大瞬間風速や日降水量等の極値も併せて更新した。

各地の月平均気温は平年差+0.7℃～+1.4℃で全ての観測点で平年より高いか、かなり高かった。月降水量は382.5ミリ～1512.0ミリ（平年比124%～295%）で加久藤は平年並、その他は平年より多いか、かなり

多かった。月間日照時間は平年比75%～100%で全ての観測点で平年並か平年より少なかった。

10月：高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、気圧の谷や湿った空気、前線の影響を受けて曇りや雨で大雨となった日もあった。4日は日向で33.4℃を観測し、日最高気温の高い方からの10月の極値を更新した。

各地の月平均気温は平年差-0.6℃～+0.8℃で全ての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は24.0ミリ～87.5ミリ（平年比13%～55%）で野尻は平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

月間日照時間は平年比110%～123%で全ての観測点で平年より多かった。

11月：高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、気圧の谷や湿った空気、低気圧や前線の影響を受けて曇りや雨で大雨となった日もあった。

各地の月平均気温は平年差+1.8℃～+2.5℃で全ての観測点で平年よりかなり高かった。月降水量は53.0ミリ～265.0ミリ（平年比48%～199%）で鞍岡、高千穂、諸塚は平年より少ないか、かなり少なく、その他は平年並か平年より多いか、かなり多かった。月間日照時間は平年比87%～123%で高千穂、鞍岡は平年より多く、他は平年並か平年より少なかった。

12月：高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気等の影響を受けて曇りや雨となった日もあり、特に後半は強い寒気の影響を受けて、15日は初氷、18日は初冠雪（鰐塚山）、23日は初雪を観測した。

各地の月平均気温は平年差-1.6℃～-1.0℃ですべての観測点で平年より低かった。月降水量は22.5ミリ～95.0ミリ（平年比35%～88%）ですべての観測点で平年並か平年より少なかった。月間日照時間は平年比90%～110%で延岡、古江、神門は平年より多く、他は平年並だった。

令和5年1月：高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気等の影響を受けて曇りや雨となった日もあり、特に24日から25日にかけてこの冬一番の強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まった影響により各地で厳しい冷え込みとなった。

各地の月平均気温は平年差-0.2℃～+0.4℃で高千穂は平年より高く、その他は平年並か平年より低かった。月降水量は27.5ミリ～195.0ミリ（平年比40%～166%）でえびの、都城、加久藤は平年より多いかかなり多く、その他は平年並か平年より少なかった。月間日照時間は平年比101%～114%ですべての観測点で平年並か平年より多かった。

2月：期間の前半は高気圧と気圧の谷や低気圧の影響を交互に受けて天気は短い周期で変化したが、後半は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

各地の月平均気温は平年差+0.3℃～+1.6℃、すべての観測点で平年並か平年より高かった。月降水量は114.5ミリ～190.0ミリ（平年比90%～215%）でえびの、小林で平年並、その他は平年より多いか、かなり多かった。月間日照時間は平年比81%～101%で古江、日向は平年よりかなり少なく、その他は平年並か平年より少なかった。

3月：期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多く、後半は気圧の谷や湿った空気、低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。

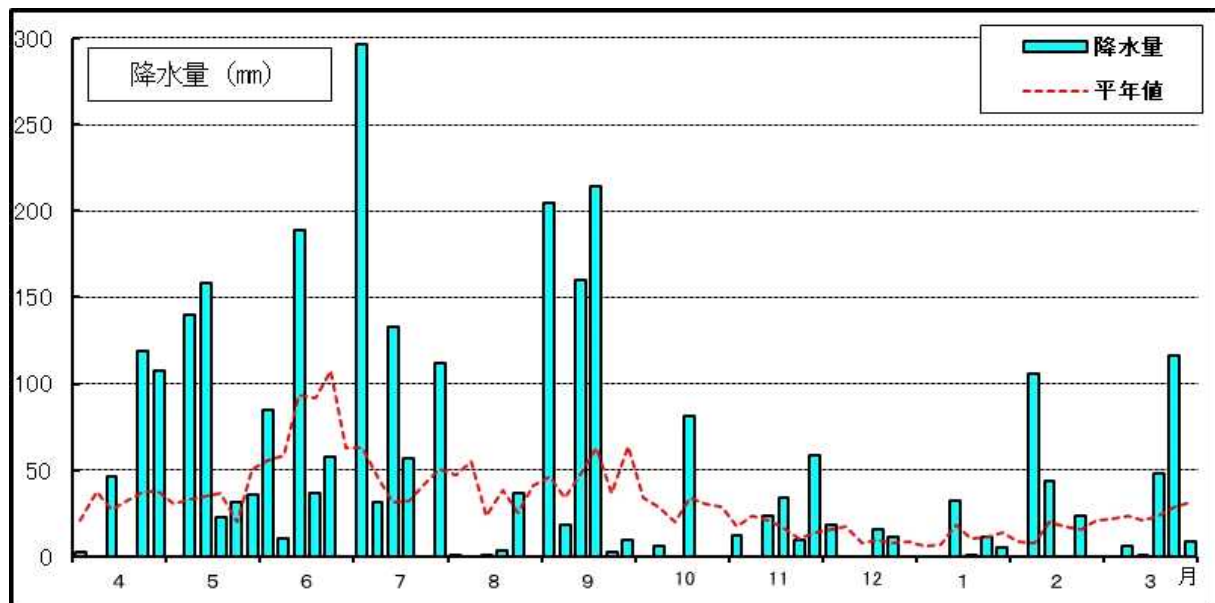
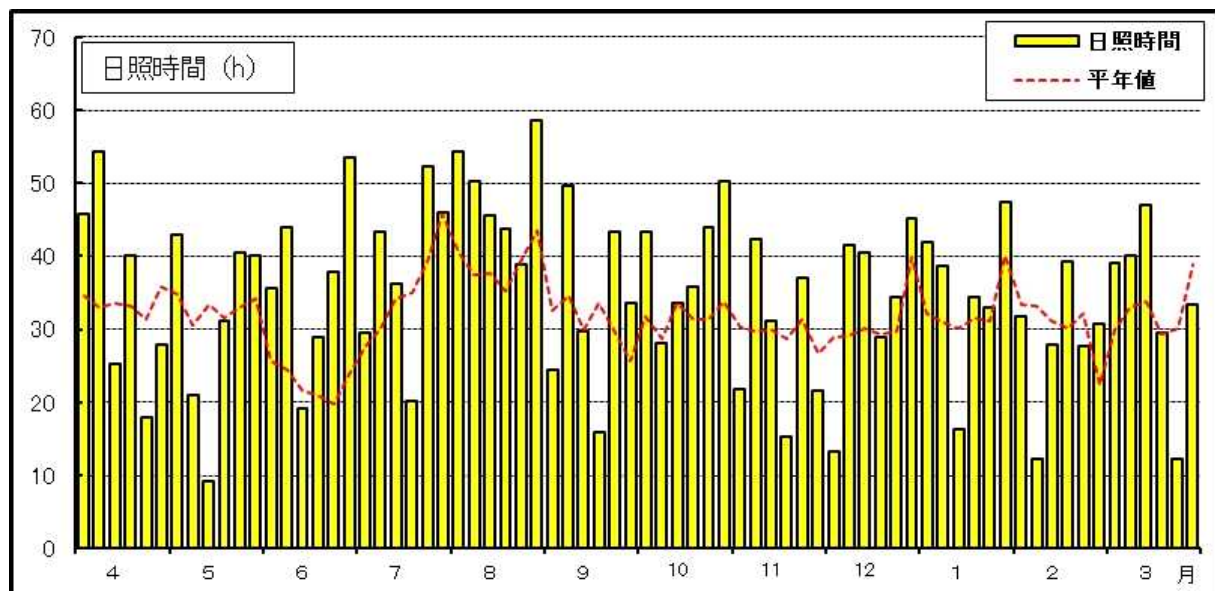
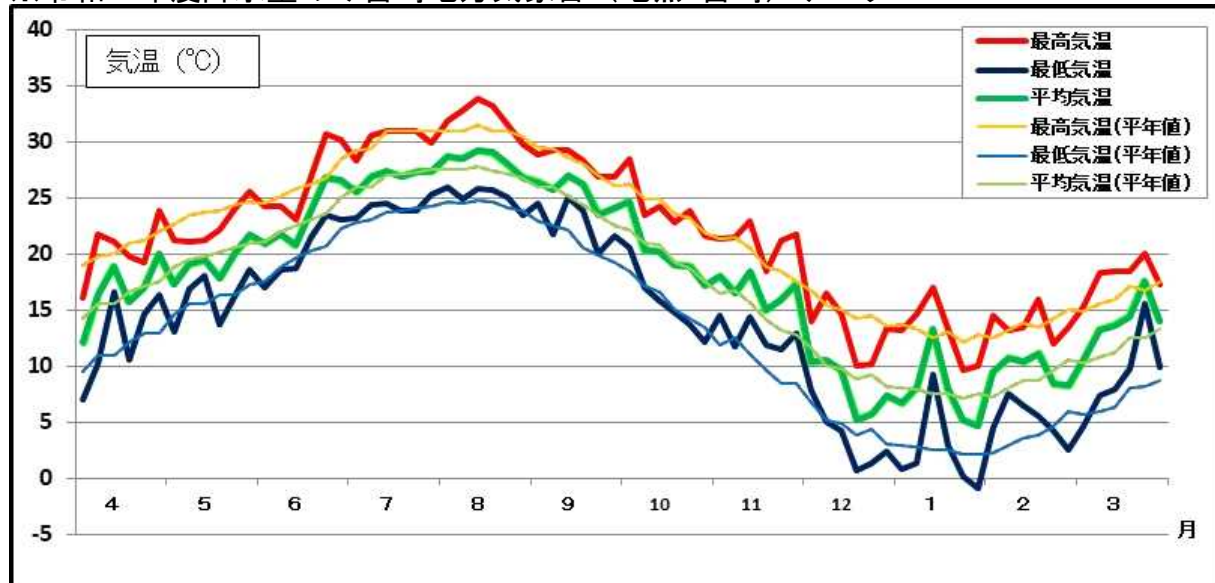
各地の月平均気温は平年差+1.8℃～+2.7℃、すべての観測点で平年よりかなり高かった。月降水量は97.5ミリ～234.5ミリ（平年比70%～149%）油津、鞍岡、西米良、小林、深瀬は平年より少なく、その他は平年並か平年より多かった。月間日照時間は平年比91%～108%ですべての観測点で平年並か平年より少なかった。

生物季節観測では、19日にさくら（ソメイヨシノ）の開花を観測（平年より4日早く、昨年より1日遅い）、30日にはさくら（ソメイヨシノ）の満開を観測（平年より3日早く、昨年より2日遅い）した。

出典：農業気象月報（宮崎地方気象台）

# 令和4年度 気象経過図(場内露天観測)

※令和4年度降水量のみ宮崎地方气象台(地点:宮崎)データ



平年値 (1991~2020年)

# 令和4年度 気象表（宮崎県総合農業試験場）

| 月  | 旬 | 最高気温(℃) |      |      | 最低気温(℃) |      |      | 平均気温(℃) |      |      | 日照時間(h) |      |       | 降水量(mm) |       |        | 日射量(MJ/m <sup>2</sup> ) |      |      |
|----|---|---------|------|------|---------|------|------|---------|------|------|---------|------|-------|---------|-------|--------|-------------------------|------|------|
|    |   | 本年      | 平年   | 差    | 本年      | 平年   | 差    | 本年      | 平年   | 差    | 本年      | 平年   | 差     | 本年      | 平年    | 差      | 本年                      | 平年   | 差    |
| 4  | 上 | 19.0    | 19.4 | -0.4 | 8.6     | 10.2 | -1.6 | 14.2    | 14.9 | -0.7 | 100.1   | 67.6 | 32.5  | 2.5     | 58.2  | -55.7  | 30.6                    | 19.2 | 11.4 |
|    | 中 | 20.4    | 20.4 | 0.0  | 13.6    | 11.6 | 2.0  | 17.3    | 16.1 | 1.2  | 65.3    | 66.8 | -1.5  | 46.5    | 59.7  | -13.2  | 21.3                    | 19.3 | 2.0  |
|    | 下 | 21.6    | 21.6 | 0.0  | 15.5    | 12.9 | 2.6  | 18.5    | 17.4 | 1.1  | 45.9    | 67.1 | -21.2 | 226.5   | 75.7  | 150.8  | 16.8                    | 19.8 | -3.0 |
| 5  | 上 | 21.1    | 23.1 | -2.0 | 15.0    | 15.1 | -0.1 | 18.2    | 19.2 | -1.0 | 63.8    | 65.2 | -1.4  | 140.0   | 63.2  | 76.8   | 22.3                    | 19.7 | 2.6  |
|    | 中 | 21.7    | 23.8 | -2.1 | 15.9    | 15.9 | 0.0  | 18.6    | 20.0 | -1.4 | 40.3    | 64.9 | -24.6 | 181.0   | 72.4  | 108.6  | 16.8                    | 20.3 | -3.5 |
|    | 下 | 24.8    | 24.6 | 0.2  | 17.5    | 16.9 | 0.6  | 21.0    | 20.8 | 0.2  | 80.6    | 67.2 | 13.4  | 67.0    | 70.6  | -3.6   | 23.5                    | 20.1 | 3.4  |
| 6  | 上 | 24.3    | 24.8 | -0.5 | 17.8    | 18.2 | -0.4 | 21.4    | 21.5 | -0.1 | 79.6    | 50.0 | 29.6  | 95.5    | 114.5 | -19.0  | 25.6                    | 18.0 | 7.6  |
|    | 中 | 25.0    | 26.0 | -1.0 | 20.1    | 19.9 | 0.2  | 22.3    | 22.9 | -0.6 | 48.2    | 42.5 | 5.6   | 225.5   | 185.3 | 40.2   | 15.9                    | 15.9 | 0.0  |
|    | 下 | 30.4    | 27.6 | 2.8  | 23.3    | 21.5 | 1.8  | 26.7    | 24.4 | 2.3  | 91.4    | 43.7 | 47.6  | 57.5    | 170.8 | -113.3 | 29.0                    | 15.7 | 13.3 |
| 7  | 上 | 29.4    | 29.4 | 0.0  | 23.8    | 23.0 | 0.8  | 26.2    | 26.0 | 0.2  | 72.9    | 58.0 | 15.0  | 328.0   | 109.2 | 218.8  | 23.2                    | 18.3 | 4.9  |
|    | 中 | 30.9    | 30.9 | 0.0  | 24.2    | 23.7 | 0.5  | 27.1    | 27.1 | 0.0  | 56.3    | 69.3 | -13.0 | 189.0   | 64.2  | 124.8  | 19.6                    | 22.0 | -2.4 |
|    | 下 | 30.3    | 31.0 | -0.7 | 24.6    | 24.2 | 0.4  | 27.3    | 27.4 | -0.1 | 98.3    | 85.1 | 13.2  | 112.0   | 92.8  | 19.2   | 28.1                    | 23.5 | 4.6  |
| 8  | 上 | 32.3    | 31.0 | 1.3  | 25.4    | 24.6 | 0.8  | 28.6    | 27.5 | 1.1  | 104.7   | 77.9 | 26.8  | 1.0     | 102.5 | -101.5 | 32.5                    | 22.8 | 9.7  |
|    | 中 | 33.5    | 31.2 | 2.3  | 25.8    | 24.7 | 1.1  | 29.1    | 27.6 | 1.5  | 89.4    | 72.7 | 16.6  | 4.0     | 62.2  | -58.2  | 25.6                    | 21.6 | 4.0  |
|    | 下 | 30.6    | 30.6 | 0.0  | 24.2    | 24.0 | 0.2  | 27.3    | 27.0 | 0.3  | 97.6    | 82.8 | 14.7  | 36.5    | 66.3  | -29.8  | 27.6                    | 20.8 | 6.8  |
| 9  | 上 | 29.1    | 29.5 | -0.4 | 23.1    | 22.8 | 0.3  | 26.1    | 25.9 | 0.2  | 74.3    | 67.0 | 7.2   | 223.0   | 79.9  | 143.1  | 22.4                    | 18.8 | 3.6  |
|    | 中 | 28.8    | 28.3 | 0.5  | 24.4    | 21.3 | 3.1  | 26.6    | 24.8 | 1.8  | 45.7    | 63.5 | -17.8 | 374.5   | 111.0 | 263.5  | 14.3                    | 17.5 | -3.2 |
|    | 下 | 26.9    | 26.5 | 0.4  | 20.8    | 19.6 | 1.2  | 23.8    | 23.0 | 0.8  | 77.0    | 55.1 | 21.9  | 12.5    | 100.4 | -87.9  | 22.5                    | 15.4 | 7.1  |
| 10 | 上 | 26.0    | 25.5 | 0.5  | 18.8    | 17.8 | 1.0  | 22.5    | 21.6 | 0.9  | 71.4    | 60.6 | 10.8  | 6.0     | 62.5  | -56.5  | 19.7                    | 15.6 | 4.1  |
|    | 中 | 23.5    | 24.3 | -0.8 | 15.3    | 15.8 | -0.5 | 19.6    | 20.0 | -0.4 | 69.5    | 64.9 | 4.7   | 81.0    | 54.5  | 26.5   | 18.7                    | 15.3 | 3.4  |
|    | 下 | 22.6    | 22.5 | 0.1  | 12.9    | 13.8 | -0.9 | 18.0    | 18.0 | 0.0  | 94.1    | 65.2 | 28.9  | 0.0     | 58.9  | -58.9  | 20.6                    | 13.7 | 6.9  |
| 11 | 上 | 21.5    | 21.4 | 0.1  | 13.1    | 12.2 | 0.9  | 17.2    | 16.7 | 0.5  | 64.0    | 60.1 | 3.9   | 12.5    | 40.4  | -27.9  | 16.4                    | 13.3 | 3.1  |
|    | 中 | 20.7    | 19.7 | 1.0  | 13.1    | 10.4 | 2.7  | 16.7    | 14.9 | 1.8  | 46.4    | 58.8 | -12.4 | 58.5    | 37.9  | 20.6   | 11.4                    | 12.3 | -0.9 |
|    | 下 | 21.5    | 17.9 | 3.6  | 12.2    | 8.4  | 3.8  | 16.6    | 13.0 | 3.6  | 58.7    | 58.1 | 0.5   | 68.5    | 24.1  | 44.4   | 13.7                    | 11.2 | 2.5  |
| 12 | 上 | 15.2    | 16.0 | -0.8 | 6.5     | 6.0  | 0.5  | 10.5    | 10.9 | -0.4 | 54.7    | 58.1 | -3.3  | 18.5    | 33.6  | -15.1  | 12.5                    | 10.6 | 1.9  |
|    | 中 | 12.3    | 14.6 | -2.3 | 2.4     | 4.4  | -2.0 | 7.5     | 9.3  | -1.8 | 69.5    | 59.3 | 10.2  | 16.0    | 17.8  | -1.8   | 14.5                    | 10.9 | 3.6  |
|    | 下 | 11.9    | 14.0 | -2.1 | 1.9     | 3.6  | -1.7 | 6.6     | 8.7  | -2.1 | 79.7    | 69.5 | 10.2  | 11.5    | 16.4  | -4.9   | 15.0                    | 11.1 | 3.9  |
| 1  | 上 | 13.9    | 13.5 | 0.4  | 1.1     | 2.8  | -1.7 | 7.4     | 8.0  | -0.6 | 80.6    | 63.2 | 17.4  | 0.0     | 12.9  | -12.9  | 16.7                    | 11.5 | 5.2  |
|    | 中 | 15.1    | 12.7 | 2.4  | 6.1     | 2.6  | 3.5  | 10.6    | 7.5  | 3.1  | 50.7    | 61.6 | -10.9 | 32.5    | 28.6  | 3.9    | 12.4                    | 11.8 | 0.6  |
|    | 下 | 9.8     | 12.5 | -2.7 | -0.4    | 2.2  | -2.6 | 4.9     | 7.3  | -2.4 | 80.3    | 71.1 | 9.2   | 16.0    | 25.7  | -9.7   | 16.3                    | 12.6 | 3.7  |
| 2  | 上 | 13.8    | 12.9 | 0.9  | 6.0     | 2.6  | 3.4  | 10.1    | 7.7  | 2.4  | 44.1    | 66.6 | -22.5 | 105.5   | 16.9  | 88.6   | 11.8                    | 13.6 | -1.8 |
|    | 中 | 14.8    | 13.7 | 1.1  | 6.0     | 3.7  | 2.3  | 10.7    | 8.7  | 2.0  | 67.1    | 61.3 | 5.8   | 44.0    | 37.9  | 6.1    | 16.7                    | 13.6 | 3.1  |
|    | 下 | 12.6    | 14.6 | -2.0 | 3.7     | 5.2  | -1.5 | 8.4     | 10.0 | -1.6 | 58.3    | 54.5 | 3.8   | 24.0    | 36.7  | -12.7  | 19.3                    | 14.1 | 5.2  |
| 3  | 上 | 16.8    | 15.3 | 1.5  | 6.0     | 5.8  | 0.2  | 11.9    | 10.6 | 1.3  | 79.2    | 62.9 | 16.2  | 6.5     | 46.2  | -39.7  | 21.9                    | 15.7 | 6.2  |
|    | 中 | 18.5    | 16.5 | 2.0  | 8.8     | 7.1  | 1.7  | 14.0    | 11.9 | 2.1  | 76.5    | 63.2 | 13.2  | 49.5    | 44.0  | 5.5    | 21.5                    | 16.6 | 4.9  |
|    | 下 | 18.6    | 17.2 | 1.4  | 12.5    | 8.5  | 4.0  | 15.6    | 12.9 | 2.7  | 45.7    | 68.9 | -23.2 | 125.0   | 60.5  | 64.5   | 14.7                    | 17.3 | -2.6 |

注) 平年値は1991～2020年。ただし、日射量は1991～2020年(1999、2000年を除く)

注) 令和4年度降水量データのみ宮崎地方気象台（地点：宮崎）データを使用。ほかは全て場内データ

| 月  | 最高気温(℃) |      |      | 最低気温(℃) |      |      | 平均気温(℃) |      |      | 日照時間(h) |       |       | 降水量(mm) |       |        | 日射量(MJ/m <sup>2</sup> ) |      |     |
|----|---------|------|------|---------|------|------|---------|------|------|---------|-------|-------|---------|-------|--------|-------------------------|------|-----|
|    | 本年      | 平年   | 差    | 本年      | 平年   | 差    | 本年      | 平年   | 差    | 本年      | 平年    | 差     | 本年      | 平年    | 差      | 本年                      | 平年   | 差   |
| 4  | 20.3    | 20.5 | -0.2 | 12.6    | 11.6 | 1.0  | 16.7    | 16.1 | 0.6  | 211.3   | 201.6 | 9.8   | 275.5   | 193.6 | 81.9   | 22.9                    | 19.4 | 3.5 |
| 5  | 22.6    | 23.8 | -1.2 | 16.2    | 16.0 | 0.2  | 19.3    | 20.0 | -0.7 | 184.7   | 197.4 | -12.6 | 388.0   | 206.1 | 181.9  | 20.9                    | 20.1 | 0.8 |
| 6  | 26.6    | 26.2 | 0.4  | 20.4    | 19.9 | 0.5  | 23.4    | 22.9 | 0.5  | 219.1   | 136.3 | 82.8  | 378.5   | 470.6 | -92.1  | 23.5                    | 16.5 | 7.0 |
| 7  | 30.2    | 30.4 | -0.2 | 24.2    | 23.6 | 0.6  | 26.9    | 26.8 | 0.1  | 227.6   | 212.4 | 15.2  | 629.0   | 266.2 | 362.8  | 23.8                    | 21.4 | 2.4 |
| 8  | 32.1    | 30.9 | 1.2  | 25.1    | 24.4 | 0.7  | 28.3    | 27.4 | 0.9  | 291.6   | 233.5 | 58.1  | 41.5    | 231.0 | -189.5 | 28.5                    | 21.7 | 6.8 |
| 9  | 28.3    | 28.1 | 0.2  | 22.8    | 21.2 | 1.6  | 25.5    | 24.6 | 0.9  | 196.9   | 185.6 | 11.3  | 610.0   | 291.2 | 318.8  | 19.7                    | 17.2 | 2.5 |
| 10 | 24.0    | 24.1 | -0.1 | 15.6    | 15.8 | -0.2 | 20.0    | 19.8 | 0.2  | 235.0   | 190.7 | 44.3  | 87.0    | 175.8 | -88.8  | 19.7                    | 14.8 | 4.9 |
| 11 | 21.2    | 19.7 | 1.5  | 12.8    | 10.3 | 2.5  | 16.9    | 14.8 | 2.1  | 169.1   | 177.0 | -7.9  | 139.5   | 102.4 | 37.1   | 13.8                    | 12.3 | 1.5 |
| 12 | 13.1    | 14.9 | -1.8 | 3.5     | 4.6  | -1.1 | 8.1     | 9.6  | -1.5 | 204.0   | 186.9 | 17.0  | 46.0    | 67.9  | -21.9  | 14.0                    | 10.9 | 3.1 |
| 1  | 12.8    | 12.9 | -0.1 | 2.2     | 2.5  | -0.3 | 7.6     | 7.6  | 0.0  | 211.7   | 195.9 | 15.7  | 48.5    | 67.2  | -18.7  | 15.2                    | 12.0 | 3.2 |
| 2  | 13.8    | 13.7 | 0.1  | 5.3     | 3.8  | 1.5  | 9.8     | 8.8  | 1.0  | 169.6   | 182.5 | -13.0 | 173.5   | 91.5  | 82.0   | 15.7                    | 13.8 | 1.9 |
| 3  | 18.0    | 16.4 | 1.6  | 9.2     | 7.2  | 2.0  | 13.9    | 11.8 | 2.1  | 201.3   | 195.1 | 6.2   | 181.0   | 150.7 | 30.3   | 19.2                    | 16.5 | 2.7 |

注) 平年値は1991～2020年。ただし、日射量は1991～2020年(1999、2000年を除く)

注) 令和4年度降水量データのみ宮崎地方気象台（地点：宮崎）データを使用。ほかは全て場内データ

## 2. 病害虫の発生状況

### 1) 水稻

**早期水稻：**スクミリンゴガイは、4～5月の発生面積率は平年比やや少～少、発生程度（㎡当たり貝数）は平年並～やや少で推移した。一部では、食害が確認された。

葉いもち病は、初発生が5月25日ではほぼ平年並であった（平年：5月27日）。6月中旬の発生面積率は平年比多、発生程度は平年比やや多の発生であり、一部のほ場ではずり込み症状が確認されたことから、病害虫発生予察注意報第1号（R4.6.15）を発表した。その後もいもち病に好適な条件が続き、上位葉や穂への進展が助長され、7月中旬の穂いもちの発生面積率及び発生程度はいずれも平年比多であった。

紋枯病は7月中旬頃から発生が見られ、7～8月の発生面積率及び発生程度はいずれも平年並～やや少であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度は平年比やや少、6～7月の本田での発生面積率及び発生程度はいずれも平年並～やや少で推移した。一部ほ場では多発生が確認された。

**普通期水稻：**葉いもち病は、7月中旬から発生が確認された。苗いもちが散見されたことから、7月中旬の発生面積率及び発生程度はいずれも平年比やや多の発生であったが、7～8月は好天によりいもち病の好適条件日は平年より少なかったことから、発生は落ち着き、平年並～やや少で推移した。9月中旬の穂いもちの発生も平年並であった。

紋枯病は、7月下旬から確認され、8～9月の気温が平年より高めで推移したことから発生が助長されたと推測され、8～9月の発生は平年比やや多～並で推移した。

セジロウンカは、初飛来が平年並の6月5日（平年：6月6日）に確認され、その後も断続的に予察灯での誘殺が確認されたが、総じてみると本年の誘殺数は平年より少なかった（6～9月の県内予察灯誘殺数合計 本年：798頭、平年：1192.6頭）。本田では、7月中旬から確認され、7～9月の発生は平年並～やや少で推移した。

トビイロウンカは、初飛来が平年より早い4月27日（平年：6月20日）に確認され、しばらくは誘殺は確認されなかったが、6月5半旬から断続的に誘殺が確認されるようになった。予察灯での誘殺数は、平年より少なかった（6～9月の県内予察灯誘殺数合計 本年：205頭、平年：603.4頭）。本田では、7月下旬から発生が確認され、7～9月の発生は平年並～やや少で推移した。

コブノメイガは、初飛来が6月30日（平年：6月24日）に確認された。本田では、7月下旬から被害が確認され、8月下旬までは平年並～やや少の発生であったが、9月中旬

から一部で被害がやや目立った。

斑点米カメムシ類は、7月中旬から発生が確認され、8月中旬の発生面積率及び発生程度はいずれも平年比多であり、過去10年で2番目に多い発生であったことから病害虫発生予察注意報第2号（R4.8.23）を発表した。また、一部地域において、モチ品種やWC S等の晩生品種でイネカメムシによる青立ち（不稔）が確認された。

### 2) 畑作

**大豆：**べと病の9月（着莢期）の発生面積率は平年並、発生程度（発病度）は平年比やや多であった。

ハスモンヨトウの発生量は調査期間を通して発生面積は平年比やや少～少、発生程度は平年並～少で推移した。吸汁性カメムシは9月中旬から発生がみられ、9月中旬の発生は平年比やや多であった。

**かんしょ：**ナカジロシタバやハスモンヨトウ、イモキバガの発生面積率及び発生程度（被害葉率）はいずれも、調査期間を通して平年並～やや少で推移した。一部地域では甚発生ほ場が確認された。

サツマイモ基腐病は、5月下旬に本ほでの初発が確認された（病害虫防除情報第1号（R4.4.28））。その後も各地で発生が散見されたため病害虫防除情報第4号（R4.6.3）を発表した。

**ジャガイモ：**疫病は、5月中旬の発生面積率は平年比多、発生程度は平年比やや多であった。ニジュウヤホシテントウは、4月～5月の発生は平年並～少で推移した。アブラムシ類も4～5月の発生は平年並～やや少であった。

### 3) 野菜

**施設野菜**（栽培期間：令和3年9月～令和4年6月）

**きゅうり：**べと病は10月の調査開始時より4月の調査終了時まで発生が確認されたが、平年に比べてやや少なかった。うどんこ病は10月に一部のほ場で微発生を確認した。2月以降、防除が不徹底であった一部のほ場で発生が増加し、4月の発病葉率は平年よりやや多であった。

ミナミキイロアザミウマやタバココナジラミは10月の気温が高かったことから、植え付け初期の野外からの侵入量が多かったこと、苗でのほ場への持込みが多かったことが考えられた。その後、発生量は横ばいから減少傾向で推移したものの、1月に増加したことから、防除情報第10号（R4.1.28）を発出し、注意を促した。例年発生が急増する3月以降は発生を抑制できた。黄化えそ病はミナミキイロアザミウマの発生に伴って11月より発生を確認し、その後も継続して発生を確認した。退緑黄化病は11月に平年より多い発生を確認した。その後も継続して確認され、栽培期間中の発生量は平年より多であった。

**ピーマン：**斑点病、うどんこ病は10月の調査開始時から4月の調査終了時まで発生が確認された。11月、12月において、斑点病は平年よりやや多く、うどんこ病は平年より多い発生を確認したが、適切な防除により、1月以降はいずれも平年並以下の発生量で推移した。

また、黒枯病が一部のほ場で確認され、3月、4月は平年より多い発生となった。

その他病害については、平年並の発生であった。

ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、タバココナジラミは、10月から発生が確認された。ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは11月に急激に増加し、発生量は平年よりやや多、平年より多となった。タバココナジラミは10月の発生量が平年より多く、11月に更に増加した。これらの微少害虫について、防除情報第9号(R3.11.29)を発出し、防除を促した。ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、1月以降は概ね平年並の発生量で推移した。タバココナジラミについては、その後も平年よりやや多い発生で推移した。

その他虫害については、平年並以下の発生であった。

**トマト：**すすかび病は11月に一部のほ場で甚発生が確認され、調査終了時まで継続して発生が確認された。うどんこ病は10月の調査開始時から4月の調査終了時まで発生が確認された。12月、1月に発病葉率、発生面積率の減少が見られたものの、2月に急増し、2月から4月まで、発生面積率、発病葉率ともに平年より多かった。

その他病害については、おおむね平年並の発生であった。

タバココナジラミは定植直後から発生がみられ、12月、1月の発生量はやや多かった。2月以降、いずれのほ場も低密度に抑えられ、4月の発生量は平年より少なかった。

その他虫害については平年並以下の発生であった。

**いちご：**うどんこ病は定植直後から葉での発生がみられ、一部のほ場で多発した。多発ほ場では果実での発生も確認された。薬剤による防除と罹病部の持出しによって、2月以降は発生が確認されなかった。

ハダニ類は、親株での発生量は平年比やや少であった（令和3年5月調査）。本ぼでの発生量は、1月にやや増加したものの栽培期間を通して平年並以下であった。

ヒラズハナアザミウマは、12月から発生を確認した。ミツバチを導入している期間に使用できる効果の高い剤が少なく、防除が不十分となり、春先まで徐々に発生が増加したため、有効な薬剤等の情報を防除情報第11号(R4.3.1)として発出した。

## 露地野菜 秋冬だいこん

（栽培期間：令和4年9月～4年12月）

病害は目立った発生はなく、平年並の発生であった。ハスモンヨトウは、10月に多くのほ場で発生が確認され、平年より多かった。アブラムシ、ダイコンハムシ、コナガは10月の発生量は平年並～やや多かったが、11月の発生量は平年よりやや少～少であった。その他の害虫は平年並以下の発生であった。

## サトイモ

（栽培期間：令和4年3月～令和4年9月）

疫病は、前年に比べて1ヶ月程度遅い、7月7日（前年：6月9日）に現地での発生確認情報があり、病虫害防除情報第5号(R4.7.20)を発出した。巡回調査においては、7月13日に初めて発生を確認した。その後の連続した降雨、台風等により発生が増加し、9月の発生ほ場率、発病株率はいずれも100%となった。

## 4) 果樹

**かんきつ類：**そうか病の葉での初発は4月下旬と平年並であったものの、発生量は葉・果実とも平年比多で推移した。

黒点病の初発は葉、果実ともに遅く、発生量は平年比やや少～並で推移した。

かいよう病については、葉での初発時期は平年並であった。発生量は日向夏ほ場で一時期多くなったものの期間を通しては平年並で推移した。

ミカンハダニは、5月にやや多くなったものの、期間全体では平年並～やや少で推移した。

果樹カメムシ類のトラップ誘殺数は、チャバネアオカメムシはフェロモントラップ予察灯調査とも7～8月に誘殺数が増加し病虫害防除情報第6号(R4.8.12))を発表した。

ツヤアオカメムシはフェロモントラップ予察灯調査とも平年並～やや少で推移した。

## 5) 茶

炭疽病は平年比やや多、輪斑病は平年比やや少、もち病は山間部を主体に平年並の発生であった。

チョウ目害虫のフェロモントラップによる誘殺数は、チャノコカクモンハマキが平年比やや多、チャハマキが平年比やや少、チャノホソガが平年並であった。ほ場での発生は、チャノコカクモンハマキとチャハマキが平年並、チャノホソガは4～7月が平年比やや多～多であったが、8月以外は平年並で推移した。

カンザワハダニについては、越冬後の寄生密度は平年比少で、7～8月は平年比やや多～多となったもののその後は平年並の推移となった。

チャノミドリヒメヨコバイの発生量は平年並～平年比やや多で推移した。

チャノキイロアザミウマは、平年比少で推移した。

クワシロカイガラムシは平年並～平年比やや少で推移した。

### 3. 作 況

#### 1) 水 稲

**早期水稲**：5月は日照不足であったものの、気温は高めに推移していたため、穂数は「平年並み」となり、6月上旬が多照であったことや出穂期前後も高温多照であったことから、全もみは「多い」となった。全もみ数が多いことと7月以降の高温による影響や7月中旬の降雨と日照不足によるいもち病もみられたため、登熟は「やや不良」となった。10a当たり収量は502kgで作況指数104の「やや良」となった。

品質は、1等米比率が63.2%で、「コシヒカリ」では74.1%と良好であった。

**普通期水稲**：分げつ期の7月中旬が平年に比べ日照不足で推移し、分げつが抑制され穂数が「少ない」となった。8月上旬が高温、多照で推移したことや穂数が少ないことによる補償作用から1穂当たりもみ数は「やや多い」となったが、全もみ数は「少ない」となった。9月上旬の日照不足や台風14号の影響はあったが、9月下旬以降、高温、多照に推移したため、登熟は「やや良」となった。10aあたり収量は480kgで作況指数95の「やや不良」となった。

品質は、1等米比率が10.3%で、「ヒノヒカリ」では8.8%と近年で最も低くなった。主な格下げ要因として「形質(充実度・心白・腹白等)」、「整粒不足」の割合が高くなった。

#### 2) 畑 作

**原料用かんしょ**：萌芽開始や育苗時の苗の伸張は平年と同等であった。3月以降は曇天が多く、畝立て作業等の遅れに伴い、挿苗時期も遅れ気味となったが、植付後の活着は良好で作柄は概ね平年と同等であった。挿し苗後の気温が低く推移したことの影響により、4月～5月上旬植えでは、現地試験において、低温遭遇によると思われるアントシアニンの発生が確認された他、場内試験では、早堀において株あたりいも個数が少なかった。

基腐病は支場内では若干発生が確認され、現地では前年に比べ9月中旬までは低い水準であったが、9月中旬の台風以降、被害が広がった圃場や茎根腐細菌病の発生も散見された。

**大豆**：播種は7月中旬から下旬に行われ、一部降雨により作業の遅れが見られたが、播種後の発芽や初期生育は概ね順調であった。播種作業が遅れや一部発芽不良による撒き直しを行ったほ場では、生育が平年より遅くなり開花も遅れた。収穫は、12月下旬に終了した。台風14号の影響で着莢数が少ないことに加えて、中小粒が

多くなったため、収量は大きく低下した。

#### 3) 野 菜

##### < 施 設 >

**きゅうり**：ハウス抑制栽培は8月下旬～9月、促成栽培は9月上旬から10月上旬にかけて定植が行われたが、台風14号の影響により、植替えや作付け遅れが発生した。MYSVの発生は昨年度と同様に平年と比較して少なかった。

11月末から12月上旬の曇雨天や寒気の影響で着果不良や果実肥大の遅れが発生した。年明け以降の生育はおおむね順調であった。

ハウス抑制は1月中旬頃までに終了、1月中旬下旬ころから半促成栽培の定植が始まったが低温の影響で生育遅れが発生した。

**ピーマン**：早いところは8月末から定植がはじまったが、台風14号の被害によりほ場の一部植替えや定植遅れ、10月中旬に苗を植え替えるほ場もあった。また、台風により冠水・浸水したほ場では、青枯病や軟腐病が発生した。11月は着果量が多く、着果過多により草勢が低下し、心止まり傾向となった。12月に入ると草勢は回復傾向となったが、低温の影響や台風の被害を受けた産地では、草勢低下となるなど産地やほ場の差が大きかった。

栽培期間を通じてヒラズハナアザミウマの発生が多く、コナジラミ類やうどんこ病の発生も多かった。

出荷量については、11月まではほぼ平年並みであったが、12月は平年より大幅に増加した。年明け以降、1月は平年並み、2月に落ち込み3月に増加した。一方で、台風の影響を受けた産地では、出荷量の山谷が大きくなった。

**トマト**：一部地域では7月末より促成栽培の定植が始まり、9月には定植がほぼ終了した。8月には定植が早いものの一部で高温障害が発生し、9月には台風14号により定植直後に浸冠水し10月中旬に苗を植え替えるほ場もあった。10月までは台風や長雨により生育は徒長気味で推移し、着果過多による草勢低下が発生した。年明け以降、天候が不安定で寒暖差が大きく日射量の変動が大きかったこともあり、草勢は弱めに推移し、着果負荷による生理障害や着色不良などが発生した。年内に一部で黄化葉巻病が発生、栽培期間を通じて、コナジラミ類や葉かび病の発生がやや多かった。

出荷量は昨年とほぼ同等の推移であったが、台風の被害等によりミニトマト、大玉トマトともに平年と比較して減少となった。

**イチゴ**：育苗についてランナーの発生は良好で、苗の増殖は順調であった。一方で天候不順や台風被害により、苗の確保ができない生産者もあり、浸冠水したほ場では定植後に枯れる株が散見された。

花芽分化は平年よりやや遅れ気味であったが、出荷開始は平年並みであった。12月の急激な冷え込みにより、草勢がやや低下したが生育はおおむね順調であった。年明け以降、天候が不安定で寒暖差が大きく日射量の変動が大きかったこともあり、生産者によってはガク枯れやチップバーンが発生し出荷量が減少した。

栽培期間を通して炭疽病、萎黄病の発生が多く、ハダニ類は一部地域を除き多発した。

#### < 露 地 >

**食用かんしょ**：萌芽開始や育苗時の苗の伸張は平年と同等。3月以降は曇天が多く、畝立てなどの作業等遅れ、挿苗時期も遅れ気味となった。挿苗後は比較的降水も多く、初期生育は順調で茎葉も繁茂したが、ヨツモンカメノコハムシや蝶目害虫の発生が見られた。梅雨明け後特に8月の降水量が少なく、生育は良好であったが、つるぼけ気味で収量が一部低下した。9月中下旬にかけては曇天が続いたが、試験に影響はなかった。

基腐病は支場内でも若干発生が見られたが薬剤防除により被害は抑えられた。南那珂地域でも気象条件に加え、作型の前進化及びべにまさりの導入等総合的な防除対策の効果もあり、発生は少なく抑えられた。

**さといも**：定植後の生育は順調で梅雨明け時の草姿は十分繁茂していた。9月中旬までは疫病の発生は確認されなかったが、9月18日に接近した台風14号の影響により、葉の損傷が認められ、その後疫病に感染し葉に数点の病斑が認められた。9月下旬以降は本葉が2～3枚展開する程度となり、生育は収穫まで停滞していた。収穫物の腐敗は平年並だった。

**加工用ほうれんそう**：秋まき栽培では、は種後の生育は順調で平年並みの収量及び品質であった。抽苔期は3月下旬から4月上旬となり平年並みであった。病虫害、寒害などの発生はなかった。

#### 4) 花 き

**夏秋ギク電照（フローラル優香・精の一世）**：6月から12月にかけて出荷が行われた。8月盆出荷作型では、高温の影響による開花遅延の発生が見られた。害虫の発生も散見されたが、品質等特に問題はなかった。

9月彼岸作型では、消灯後の高温の影響による奇形花の発生は少なかったが、やや開花が遅延した。また、台風の影響で曲がりの発生も見られた。

**秋ギク（神馬系統）**：10月から出荷が開始され、ボリュームは確保できたが、台風の影響による曲がりや茎葉損傷が発生し、品質が低下する事例が見られた。年末出荷作型では、8月下旬～9月上旬に直挿しが行われた。直挿し後、不安定であったため、生育初期は草丈の伸長が悪かった。出荷はやや前進化し、ボリュームもやや不足気味であった。3月出荷作型では、生育期間を通して天候には恵まれ、生育の遅れもなく、概ね順調に開花した。

**スイートピー**：定植は8月下旬から9月上旬にかけて行われた。7月の日射量が少なく、陽熱消毒が十分でなく、立枯れ症状が見られた。10、11月の高温により、二股・帯状化等の高温障害の発生が見られ、品質の低下が発生した。出荷開始は10月下旬と平年より早く、11月上旬から本格的な出荷となった。12月は気温も下がり、天候が安定したため、出荷も安定した出荷となった。1月は順調な生育であったが、2月は曇雨天が続く時期もあり、落蕾の発生が見られた。

**ラナンキュラス**：4月上旬に前作を終了し、以後球根養成され、5月下～6月中旬に球根を掘り上げた。

8月下旬から球根冷蔵され、9月下旬～10月下旬に定植されたが、10、11月の高温の影響で品質が大きく低下した。

出荷ピークは2月中旬で、3月末まで出荷が行われた。

販売状況については、新型コロナウイルス感染症の影響は少なく、高い単価で取引された。

**デルフィニウム**：平坦地ではエラータム系、シネンシス系ともに6月上旬に播種が始まり、9月上旬から9月下旬にかけて定植が行われた。高温の影響で育苗中の早期抽だいが発生した。定植後の生育は順調に生育した。宮崎市内の1番花は11月上旬頃から出荷が開始された。2番花は1～2月の出荷となり、生育良好であった。3月出荷も全体的には順調に進んだ。

**シキミ**：東臼杵北部地区では、年間を通して、収穫及び栽培管理は順調に行われた。しかし、

一部のほ場にて晩生品種を中心に、立枯症状が確認された。

東臼杵南部地区では、春彼岸の出荷は主要な規格において、霜害の影響もあり計画数量の80%の出荷量となった。

**キイチゴ「ベビーハンズ」**：県内全域の出荷数量は前年に比べて多く、台風による出荷量の減少は見られたものの、年間の出荷数量が前年同様、100万本を超えた。

病害虫では、南那珂地区でトンネル被覆したほ場を中心にべと病が多発した。そのほかでは、斑点病、アカキリバの被害の発生が確認された。また、台風による枝折れ、葉傷み、片葉が発生し、西臼杵地区では秋期の紅葉出荷ができなかった。

**ホオズキ**：下段の着果不良、苞の老化やシミ、着色不良などが一部に見られたものの、7月出荷作型、8月出荷作型ともに、全体的には安定した出荷量及び品質となった。

**トルコギキョウ**：中部地区の年内・春先の2度切りの作型では、9月上旬から10月中旬にかけて定植が行われ、9月上中旬が定植のピークになった。生育初期の曇天や高温の影響で一部品種でチップバーンが発生した。1番花では摘み上げを行い、11月中旬頃から出荷が始まり、2月上旬頃が出荷のピークとなった。

**ダリア**：育苗状況は一部の品種を除いて良好で、7月中旬から一部ほ場で定植が開始され、8月中旬にかけて順次定植が行われた。生育初期は長雨が多く、気温が比較的低く推移したことから苗の発根も良く順調に生育した。栽培期間中は開花調節のため早期電照による電照管理が行われ、1番花の出荷が10月上旬頃から始まった。

## 5) 果 樹

### < 常緑果樹 >

**ウンシュウミカン**：開花期は、平年より1日早く、着花(果)量は平年よりやや少なかった。

果実肥大は7月末までは平年並み、8月は高温少雨の影響で日肥大が鈍化した。9月は降水量が多く、収穫期は平年並みとなった。糖度は平年より高く、また、クエン酸の減酸は平年並みであった。

**ヒュウガナツ**：露地栽培での満開期は平年並か

らやや早かった。着花(果)量は平年並からやや少なく、結果量は平年よりも少なく、小玉傾向であった。1月下旬の寒波により、す上がりがわずかに見られた。

**キンカン（施設完熟型）**：一番花は6月下旬、二番花は7月上旬に開花し、二～三番果が結果中心の園地が多かった。結果量、果実肥大は平年並みであった。果実品質については、台風による傷果が多く、県北を中心に果梗部の着色が進まず、出荷が遅れた。

### < 落葉果樹 >

**クリ**：発芽期は平年より1～3日遅かった。開花期は「ぼろたん」、「利平」は平年並みであったが、「丹沢」、「筑波」は2～4日遅かった。収穫期は「丹沢」、「ぼろたん」、「筑波」は平年より3～4日遅く、「利平」は2～5日早かった。全体的に大玉傾向で、「丹沢」、「ぼろたん」は平年より収量が多かった。「筑波」は台風14号による落果があり、平年並みの収量であった。

**ブドウ**：発芽期はすべての品種で平年並み、開花期は平年より2日程度早かった。収穫期は、6月下旬の高温により平年より9～14日早かった。「サニールージュ」では縮果症の発生がみられた。「ピオーネ」では8月上旬の高温により果実軟化が進み、収穫時期が早まった。糖度は8月の高温の影響により低い傾向にあった。果粒肥大は平年並みで、「サニールージュ」、「ピオーネ」の着色は、平年並みであった。

**ナシ**：開花期は「幸水」が3日早く、「豊水」は平年並みであった。腋花芽の発芽不良の発生は少なく、遅れ花も少なかった。収穫盛期は「幸水」、「豊水」とともに5日程度遅く、収量は開花始期の降雨が着果に影響し、やや少なめであった。「豊水」のみつ症の発生は平年並み、中生品種の「あきづき」、「かおり」には、カメムシ被害がみられた。また、台風14号による落葉が多く、「豊水」では全体の花芽の1～2割程度不時開花した。「幸水」はえき花芽も開花し、ボケ芽が多く、次年度の花芽不足が懸念された。

### < 亜熱帯果樹 >

**マンゴー**：早期出荷作型では、生育がやや遅れ、3、4月の出荷量が前年よりも少なく、5月にピークを迎えた。品質は良好であるが、一部であざ果症や裂皮の発生が見られた。

後期出荷作型では、6、7月の出荷量が前年よりも少なく、炭そ病、軸腐病の発生が多く、最終的には計画よりも大幅な減産となった。

## 6) 茶

茶業支場作況園（品種：やぶきた）における一番茶の萌芽期は、4月1日で平年より1日遅かった。芽長及び葉数は、4月上旬は低温の影響でやや緩慢であったが、4月第3半旬、第6半旬の高温の影響で生育が進み、全体的には平年並みの生育となった。一番茶の摘採期は4月28日で、平年より1日早く、前年より5日遅かった。萌芽期から摘採までの日数は27日で、平年及び前年より2日短くなった。生葉収量は591kg/10aで、平年比81%とやや低かった。調査圃場は昨年一番茶後に深刈りを行った圃場であり、芽数が少なかったこと等が原因であると考えられる。

二番茶の摘採日は6月10日で、前年より2日遅く、平年と同等であった。一番茶摘採日からの日数は43日で、前年より3日、平年より1日短かった。生葉収量は635kg/10aで、平年比101%、前年比91%であった。

三番茶の摘採日は7月13日で、平年より5日早く、前年より1日遅かった。二番茶摘採日からの日数は33日で、平年より3日、前年より1日短かった。生葉収量は464kg/10aで、平年比100%、前年比105%であった。

### Ⅲ 試験研究の方向

#### 1. 試験研究基本方針

宮崎県総合農業試験場では、これまで、農業生産を支える試験研究機関として、「食料の増産」「品質・生産性の向上」「販売力強化と農業経営の安定」といった時代の要請に応えながら、新技術の開発や新品種の育成に取り組み、これらの研究成果の普及によって本県農業の発展に寄与してきた。

一方、時代は「令和」となり、本格的な人口減少・高齢化等により、農業においても担い手の大幅な減少や労働力確保問題が顕在化し、加えてますます多様化する消費ニーズやコロナ禍の影響、激甚化する自然災害や新たな病害虫の発生といった危機事象への備えとカーボンニュートラルへの転換といった新たな課題に直面している。

そのため、当試験場では、これらの課題に対応して「持続可能な魅力あるみやざき農畜水産業」を実現すべく県が策定した「第八次宮崎県農業・農村振興長期計画」の実現を図るため、①変革が進む時代に対応し、②「オープンイノベーションの取組」により、生産基盤を安定と成長産業化を実現する革新的な技術開発を目指すため、「宮崎県農畜水産業試験研究推進構想」に基いた試験研究に取り組んだ。

なお、具体的な試験研究課題として令和4年度は、①スマート時代の農畜産業を支える技術開発、②地域農畜産業の魅力を活かし、新たな価値を共創する技術開発、③持続的で安全・安心な農畜産業を実現する技術開発に取り組むべき柱として、76課題（うち競争的資金19課題）の試験研究に取り組んだ。

また、農業試験研究の推進に当たり、限られた研究資源を最大限に活用し、広範な課題から真に必要な研究課題を見極め、有用な成果の現場実装を加速化するため、行政・普及・試験研究機関が一体的に取り組んでいる技術調整会議制度を見直し、令和3年度から本格的に運用した。

加えて、新たに組織編入された専門技術センターと連携して普及組織との連携強化を図るとともに、これまで同様、部・支場の連携強化や積極的な産学官連携研究の推進など、総合農業試験場の総合力を発揮して試験研究の高度化、効率化に取り組んだ。

#### 2. 部門別試験研究の具体的推進方向

##### (1) 施設機械・流通部門

流通部門では、輸出向けカンショにおける輸送中の腐敗低減に向けた品質保持技術や流通環境の変化に対応したスイートピーの収穫・調整法について検討を進める。

機能性部門では、栄養・機能性表示販売に対応するため、機能性成分の迅速分析法開発に取り組む。また、農産物の付加価値向上を図るため、メタボロミクス技術を活用し、マンゴーの栽培条件が食味に及ぼす影響について検討するとともに、米の食味に寄与する成分の特定に向けた分析法確立に取り組む。

残留農薬分析関係では、これまでに開発した宮崎方式分析技術を活用し、分析が困難な農薬成分について分析技術確立を目指すとともに、マイナー作物の農薬登録に向けた作物残留試験に取り組む。

##### (2) 生産環境部門

土壌肥料部門では、世界的な肥料不足や肥料価格高騰に対応するため、有機質資材由来の土壌中の可給態窒素の有効利用を始めとする低コスト施肥技術の確立や果菜類の養液土耕肥培管理技術、リアルタイム診断技術、需要が高まる加工・業務用の大規模露地野菜向けの土壌管理技術の開発に取り組む。また、今後生産現場で導入が進むと思われる統合環境制御技術を核とする大規模高規格ハウス等による超多収技術の一環としての養液栽培における養液管理手法等の開発に取り組む。

また、畜産県の特性を活かして有機質資源を活用し、環境保全型農業のさらなる拡大を図るため、有機質資材の肥効特性や混合堆肥複合肥料の効果的な施用法、農耕地土壌の有機物蓄積による地球温暖化抑制効果等、土壌肥料的課題を解明する。

病害虫部門では、野菜類におけるキュウリの黄化えそ病（MYSV）防除の観点から、植え替え時にミナミキイロアザミウマを発生させない防除体系の構築を図るとともに、微小害虫の薬剤抵抗性対策、化学的・生物的・物理的・耕種的防除手段を組み合わせた新たなICM技術の開発、重要病害虫の発生予察・診断技術の高度化に取り

組む。また、露地野菜では、平成30年に発生が確認され、産地で大きな問題となっているサツマイモ基腐病について、農薬の登録拡大試験に取り組むとともに、基腐病の甚発生地域における生育期防除体系の確立に取り組む。また、マンゴー、ライチ等、本県の特産果樹について、軸腐病やチャノキイロアザミウマ、ハダニ類を対象とした効率的防除技術を開発する。

### (3) バイオテクノロジー部門

ピーマンでは、本県が優位性を有する薬培養と病虫害抵抗性選抜技術を利用して、ピーマンの品種育成を進める。具体的には、土壌病害虫である青枯病や線虫等の対策として、病虫害複合抵抗性台木を育成してきたが、これまでのセンチウ抵抗性を打破するセンチウが顕在化してきたため、それらのセンチウに対する抵抗性を有する台木品種の育成を行う。また、現在の栽培手法や次世代の栽培体系に適したみやざきオリジナルピーマン穂木品種の開発を進める。さらに次世代の育種素材探索のために、トウガラシの遺伝資源の中から青枯病と線虫抵抗性の評価を進めるとともに、土壌病害の1つである立枯病や地上部に発生する斑点病・黒枯病に抵抗性を示す素材探索を進める。

果樹では、ポストマンゴーと期待されるライチの微生物資材の利用による挿し木技術の開発を進める。

花きでは、ラナンキュラスの茎頂培養によるメリクロン苗の作出や、民間の育種家と協力し、薬培養や胚珠培養による品種育成を進める。また、耐暑性リンドウは、選抜系統の培養物を維持するとともに増殖手法の検討を行う。また、ホオズキは弱毒ウイルス接種培養物の防除効果等の確認調査を進める。

かんしょにおいては、優良系統の茎頂培養による優良種苗の育成を進める。

水稻では、作物部の新品種育成において、いもち病抵抗性遺伝子の有無や、原々種への異系統の混入防止のために、DNAマーカーを活用する。

### (4) 作物部門

地域の要望に応える水稻新品種の育成として、ポスト「コシ・ヒノ」となり得る品種や複合病虫害抵抗性を有する普通期栽培向け業務用米品種、いもち病ほ場抵抗性を有する飼料用稲品種、焼酎醸造適性に優れる早期栽培向け品種の育成

を目指す。

省力低コスト化や食味・品質等の向上に向けてリモートセンシングデータを活用した可変施肥の検討や自動給水栓、直進アシストトラクター・田植機、収量食味コンバインといったスマート農業機械の評価及び導入効果の確認を行う。

温室効果対策としてメタンガス抑制の効果が高いとされる水稻の中干し延長について、主食用米や加工用米で収量等への影響の検証を行う。

水稻及び麦、大豆について、宮崎県に適した品種の選定を行うため、熟期や収量、品質、食味等を確認する。

確実な原原種の生産に向けて、適正なほ場配置や雑穂抜き、物理的種子混入防止、異株観察等の基本技術を徹底するとともに、生物工学部と連携したDNA調査による純度確認を行う。

### (5) 園芸部門

**施設野菜：**施設野菜における収量や品質の向上による産地の維持・発展や収益性向上のため、優良品種の育成、栽培施設内の好適生育環境への制御技術、省力・低コスト技術や新たな栽培方法の確立に取り組む。

品種育成では、イチゴにおいて一季成り性品種として、強い炭疽病抵抗性を持ち、良食味で、収量性が高く、さらに輸送性に優れた系統の作出と選抜に取り組む。

ニガウリでは、果実形質等の優れた育成系統の固定化を進めるための交配と選抜に取り組む。

また、近年、県内で栽培面積が拡大しているズッキーニについて、受粉作業の省力化を目指してトマトトーンの効果的な使用方法を検討する。

キュウリでは、次世代に向けた高い生産性や省力型の技術として期待される養液栽培技術の確立に取り組む。

ピーマンでは、規模拡大や法人化など雇用型大規模経営に対応した効率的な栽培技術を確立するため、栽植密度、整枝法等を中心に検討を行い、管理作業の省力・簡素化技術の開発に取り組む。加えて、次世代に向けた養液・ハイワイヤー栽培技術について検討する。

中山間地域の夏秋ピーマンについて、8月前後の草勢維持を目的に、かん水及び追肥管理の違いが生育及び収量に対する影響を検証し、単収の増加を図る。

**露地野菜：**国産の加工・業務用野菜に対する需要の高まりにより、産地における安定生産や生産拡大の取組強化が求められていることから、さといも、ほうれんそう、かんしょを対象に、安定生産技術の開発に取り組む。

かんしょでは、本県を含む南九州地域で大きな問題となっているサツマイモ基腐病対策として、挿し苗育苗の効率的な栽植様式や簡易式養液栽培施設での育苗方法、苗の温湯消毒技術を検討するとともに、基腐病抵抗性品種の栽培技術（株間や生育日数）について検討する。

また、青果用、焼酎醸造用品種における有望系統の地域適応性の評価を行う。

さといもでは、早出し産地としての産地再興を図るため、特に極早生種、早生種、中早生種の選抜を進める。

加工・業務用ほうれんそうでは、気象の影響を受けて変化する生育量をもとに、収穫日・収量を予測する技術を検討する。また、ほうれんそうに含まれる機能性関与成分 ルテインの変動要因を解明し、高ルテイン含量栽培技術を検討する。

畑地かんがい用水利用技術については、各種制御方法の違いによる自動かん水装置の効果について検討する。

**花き：**花きの品種はその時代の流行の影響を受けやすく変遷が早い一方で、品種のバラエティーを多く持つことが産地の強みとなるため、本県独自のオリジナル品種の育成を行い、産地の競争力強化を図っている。今後も継続して新品種の育成と栽培技術の改良を行い、特色ある産地の育成を図る。また、国等の研究機関と協力しながら課題解決に努める。

スイートピーでは、花色、省力性や日持ち性に加え、難落蕾性や耐暑性の新しい形質を有する品種の育成に取り組むほか、気象変動に対する対策や省力化技術の開発に取り組む。

また、環境制御による高品質化や増収技術の開発に取り組む。

デルフィニウムでは、花色のほかロゼット性が低く生産性が高く、コンパクトで取扱いの良い品種の育成を進めるとともに、オリジナル品種の特性を活かした栽培技術確立を図る。

キクでは、秋ギクの炭酸ガス施用技術の検討や低温開花性品種および洋マムの適応性確認に取り組む。

ラナンキュラスでは、早期出荷に向けた育苗方法やLEDの利用技術の開発や農産園芸課や生物工学部、民間との連携で進めているラックスシリーズ、モロッコシリーズの有望系統の選抜を行う。

ダリアでは、夏季高温期における安定的な挿し芽技術や、秋田県と連携し、秋田県で育成された品種（NAMA H A G E シリーズ）の本県への品種適応性を検討する。

また、千葉大学等との共同研究において育成した小葉立性でうどんこ病抵抗性を有する系統や農研機構が育成した良日持ち性系統の本県への適応性を検討する。

中山間地域における現地試験については、リンドウの安定生産技術の確立と有望系統の選抜やラナンキュラスの大苗養成技術の検討、細霧冷房技術について検討する。

ブルーフレグランスでは、LEDの波長が生育及び収量、品質に及ぼす影響について検討する。

ホオズキについては、優良な地下茎を効率的に確保するための育苗技術や地下茎の品質が切り花品質に及ぼす影響について検討する。

露地花きについては、シキミでは、早期成園化に向けて大苗育苗の効果確認を進めるとともに、現地で問題となっている立枯症の原因解明及び対策の検討を行う。

キイチゴ「ベビーハンズ」では、秋挿し苗育成における発根促進剤の処理や春定植までの育苗期間を検討するとともに、新品種「彩」の品種特性調査や人工紅葉技術の開発を行う。

**果樹：**カンキツ類、落葉果樹、亜熱帯果樹の新品種や新品目の本県適応性を検討するとともに、新品種育成や栽培技術の開発により、高品質安定生産や低コスト化、省力化を図る。また、温暖化等による気候変動に対応した栽培技術の確立を図る。

キンカンでは、無核キンカン「宮崎夢丸」についてジベレリン処理等による結実安定対策の技術開発や輸出向け果実生産に関する使用農薬の検討を行う。

「日向夏」については、露地栽培での受粉省力技術の検討や、施設栽培における着色促進技術の検討を行うとともに、無核や自家和合性等の優れた特性を備えた宮崎オリジナルの新品種育成を進める。

ウンシュウミカンでは、「日南1号」の根域制

限栽培における水管理等の改良技術や「ゆら早生」の強勢台木を利用した高品質連年安定生産技術の開発に取り組む。また、珠心胚実生利用による「日南1号」を補完する優良個体を育成する。

高温性カンキツ類では、国の育成品種である「あすみ」、「みはや」、「不知火」の無加温施設栽培や、「みはや」、「津之輝」、「へべす」の露地栽培における栽培技術の開発、「かんきつ中間母本農6号」の栽培特性調査に取り組む。

香酸カンキツでは、ゆずのCTV対策、県内で面積が拡大している「へべす」の育苗方法の検討に取り組む。

ブンタン等のカンキツでは、新品種の技術確立及び栽培適性の確認に取り組む。

落葉果樹のブドウでは、本県でも着色が優れる宮崎オリジナルの新品種育成、「シャインマスカット」の高品質・省力栽培技術の開発、「ピオーネ」等における着色向上技術の開発に取り組む。

ナシ、カキでは、早期成園化・省力栽培のためのジョイント栽培技術の開発に取り組むとともに、クリ、モモでは温暖化等に対応した栽培技術を確立する。

キウイフルーツでは、新たな樹形の開発、新たな樹形に適した有望品種の選定、安定生産技術の開発を進める。

亜熱帯果樹のマンゴーでは、炭酸ガス施用の効果確認やあざ果症の発生する環境要因の解析を行うとともに、アーウィンに続く新系統の育成や苗木育成技術の開発を進める。

また、マンゴーに続く新たな亜熱帯果樹として有望なライチについて、目標収量である1t/10aを実現できる栽培条件の解明のために、秋芽処理や花穂整形技術の検討を進める。

さらに、地球温暖化に適応した省エネルギーで栽培できるアボカドについて、品種の選定、優良種苗生産技術、結果安定技術の開発を進め、バニラについて、早期成園化に向けた仕立て法の検討を進める。

## (6) 茶業部門

育種では、茶業経営の安定化を図るため、小売茶に適する新香味茶用品種及びドリンク向けの超多収・耐病虫性品種を育成する。

栽培面では、輸出促進や煎茶産地の規模拡大を進めるため、輸出向けや有機栽培茶の防除技

術の開発を行う。また、市場価格に左右されない、安定した茶業経営を目指し、山間地向けとして新香味茶用の栽培技術の開発、平坦地向けとして本県の温暖な気候を活かしたドリンク用を中心とした栽培技術の開発を行う。

加工面では、新たな茶種の開発として、煎茶の製茶機械を活用した萎凋化緑茶等の製造法を確立するとともに、萎凋機等を活用したγ-アミノ酪酸（GABA）高含有新香味茶の安定製造技術の開発に取り組む。また、ブランド強化を図るため、最適な焙煎技術の試験研究を進める。

その他、複合経営品目として有望なブルーベリー葉茶について、香味向上を図る加工技術を検討する。

## (7) 薬草・地域作物部門

薬用作物については、実需に基づいて生産されるマーケットイン型の作物であることから、生産農家に加えて製薬会社や関連企業・大学との連携を図りながら試験研究を進める。

地域作物については、県内全体の資源調査を行い、地域で伝承されてきた価値を見直すための試験研究を進め、現地普及のためのカタログ化に取り組む。

ハーブ類や、ビール原料に使用されるホップ等新たな特産作物については、県内の生産需要や、現場での課題に応じた試験研究を進める。

## IV 令和4年度試験研究及び事業の実績

### 1. 各部・支場等の実績概要

#### 1) 企画情報室

「場内気象観測事業」において、場内の気象観測を行い、データの整理及び蓄積を行った。

蓄積された場内の気象観測データは各部の成績書等各種資料作成において活用した。

#### 2) 生産流通部

農産物の品質保持に関する研究では、ミニトマトの裂果について、品種の違いによる裂果状況を確認するとともに、輸出向けカンショの品質保持技術の開発に取り組み、包装資材の違いによるカビ、萌芽等の発生抑制効果について明らかにした。

花きでは、ラナンキュラスの主要品種の収穫切り前の違いによる日持ち性を確認し、慣行の切り前が日持ち性に優れることを明らかにした。

機能性研究では、(株)島津製作所、(一社)食の安全分析センターと連携し、機能性成分一斉分析法について検討を進め、液体クロマトグラフ質量分析計において分析条件の最適化をすることができた。また、ヘベス等のカンキツ類に含まれる「リナロール」について迅速分析法を確立した。

農産物の付加価値向上を図るため、メタボロミクス手法を活用したマンゴーのおいしさ評価について、栽培条件が食味評価に及ぼす影響について検討するとともに、米においては、最適な分析及び解析条件について検討した。

残留農薬に関する研究では、これまで分析が困難であった3成分について、分析法を確立した。

また、マイナー作物(ライチ)の作物残留試験を実施し、農薬の登録拡大を支援した。

#### 3) 土壌環境部

農耕地土壌は農業生産の基礎であり、生産力を維持・増進していくために土壌環境の経年的な変化の把握、地力に応じた合理的な土壌管理が重要となる。また、肥料費高騰対策として各種作物の養分吸収に応じた適正な施肥管理技術を開発し、施肥量の低減とともに、省力・低コスト化を図る必要がある。そこで、営農活動が農耕地土壌及び環境に及ぼす影響の把握や地域有機質資材由来の

可給態窒素の利活用、低コスト、省力化を目指した施肥法や効率的な土壌管理技術の開発に取り組んだ。

まず、土壌環境の経年変化では、県内の定点28地点における土壌の理化学性を調査した。また地球温暖化対策として、県内12地点の土壌炭素貯留量のモニタリングと堆肥及び稲わら還元ほ場での炭素動向を明らかにした。

次に、地域有機質資材由来の可給態窒素の利活用では、加工用ホウレンソウ現地ほ場約100箇所の可給態窒素等の分析を実施し、栽培現場での地力窒素等の状況について調査を行った。

また、水稻関係では、作物部と共同で、コメ中ヒ素低減技術とカドミウム低吸収性イネについて栽培実証を行った。

施設園芸では、養液土耕栽培でのイチゴ促成栽培及び促成ニラ(大型ポット試験)で、窒素施用量を変えた栽培試験を実施し、適正窒素施用量及び、その際の適正な植物体中硝酸イオン濃度の目安を策定するための調査を実施し、それぞれの品目で有用なデータを得ることができた。

また、キュウリの夏秋作型及び促成作型での養液栽培における各種養分吸収特性の検討を実施し、キュウリ養液栽培での肥培管理技術確立のための有効なデータを得ることができた。また、ピーマンの促成作型での養液栽培における各種養分の吸収特性の把握を行った。

一方、露地野菜では、加工用ホウレンソウおよび夏まきキャベツの栽培試験で、混合堆肥複合肥料の肥効を確認した。

#### 4) 生物環境部

農作物の健全な生育を阻害する病害虫の発生は収量や品質の低下をもたらし、農業経営の発展・安定の大きな障害となっている。このため、生物環境部では、微小害虫の薬剤抵抗性対策、化学的・生物的・物理的・耕種的防除手段を組み合わせた新たなICM技術の開発、重要病害虫の発生予察・診断技術の高度化に重点的に取り組んだ。

果菜類では、キュウリ黄化えそ病(MYSV)等、難防除微小害虫によって媒介されるウイルス病を

的確に防除するため、キルパー液剤の高濃度少量処理により、ミナミキイロアザミウマ成幼虫と土壌中の蛹の防除が可能であることが確認された。また処理7日後に改植が可能であることから、植え替え時の休作期間が短縮できる。その他、AI病害虫発生予測システムについては、システムに準拠した農薬散布と慣行防除との比較検討に取り組んだ。

露地野菜では、平成30年に新たに発生が確認されたサツマイモ基腐病について、農薬の登録拡大試験に取り組むとともに、イノベ事業では基腐病の発生地域において、本圃の土壌消毒及びアミスターフロアブルの生育期防除体系の実証試験を行い、いずれも一定の発病抑制効果が確認された。

土壌消毒ではバスアミド微粒剤の混和後全面被覆が、生育期防除では定植後約1ヶ月頃からの防除が効果が優れる傾向であった。また土壌還元消毒を行った場内苗床で育苗試験を行った結果、基腐病の発生を低く抑え防除効果が確認された。

また、令和3年度に県内で新たに確認されたトマトキバガに対し、関係機関と協力して県内の発生活長や寄主植物について明らかにするとともに、トマト幼苗を用いた室内試験により有効薬剤について明らかにした。ツマジロクサヨトウについて、九州沖縄農研や隣県とともにイノベ事業に取り組み、飼料用トウモロコシを対象に、有効な薬剤のスクリーニングや播種時処理剤について検討した。

果樹では、マンゴーの炭疽病・軸腐病について関係団体と連携した留め置き調査を実施して情報を提供した。また、ライチでは被害を及ぼす害虫種の実態を調査するとともに、ハダニ類を対象とした防除試験に取り組んだ。

発生予察については、予察灯や各種トラップによる害虫の発生活長調査を実施するとともに、診断依頼等による情報共有を図りつつ、産地で発生している病害虫を対象とした薬剤感受性のモニタリングを行った。

## 5) 生物工学部

薬培養や茎頂培養などの組織培養技術を活用した新品種や優良種苗の育成が可能となり、PCR法によるウイルス診断技術、DNAマーカーを用いた優良形質の判別、品種判別等が、農業分野において次

々に実用化されている。

このような状況の中で、生物工学部では、関係各部・支場等と協力しながら、これらの先進技術を積極的に取り入れた研究を展開した。

野菜では、本県特産品であるピーマンについて、現在の栽培手法や次世代の栽培方式であるハイワイヤー栽培に適した宮崎オリジナルピーマン品種として多くのF<sub>1</sub>系統を育成し、選抜を進めた。また、既存の線虫抵抗性台木を加害する新たな線虫について、従来と異なる寄生性を有することを明らかにした。さらに、海外のトウガラシ遺伝資源から青枯病及び線虫抵抗性の系統を選抜するとともに、ジーンバンク育種素材から立枯病・斑点病・黒枯病抵抗性候補系統を選抜した。

花きでは、共同研究先の民間育種家の協力の下、ランキュラスの胚珠培養により得られた植物体を形質確認調査に供して有望系統を選抜するとともに、薬培養による固定系統の作出のため、得られた植物体を形質確認調査に供した。また無菌球根の作出技術開発において、4品種が球根化程度が高いことを確認した。

果樹では、ライチの微生物資材の利用条件の解明を進めた。

水稻では、作物部の品種育成において、DNAマーカーによる交雑個体の選抜や、原々種の異系統混入防止のためのDNAマーカーによる確認を行った。

さらに、茎頂培養によるかんしょの新系統作出やランキュラスの選抜系統の維持、形質確認に向けて再茎頂培養系統の培養物を花き部へ譲渡した。耐暑性リンドウについては、選抜系統を含む計16の培養物系統を維持した。

## 6) 作物部

水稻の育種試験では、主食用としては、早期・普通期ともに高温登熟条件においても白未熟粒の発生の少ない良質・極良食味・多収の特性を持ち、強稈で栽培し易い品種育成に取り組んだ。また、省力・低コスト栽培の要望に応えるために、いもち病やトビイロウンカなどの複合抵抗性や高い加工適性を有するなどの多様なニーズに適応した早～晩生の品種育成に取り組んだ。新配付系統として食味が非常に良くいもち病に強い「南海192号」を育成した。

奨励品種決定調査では、早期水稻で予備調査17

品種系統、本調査2系統、普通期水稻で予備調査7系統、本調査3系統の試験を行った。また、県内8ヶ所に早期・普通期水稻現地試験を委託し、5品種系統について、現地での評価を行った。大豆では4品種系統、麦では6品種系統を供試した。

水稻栽培試験では、マルチスペクトルカメラを搭載したドローンを用いた「ヒノヒカリ」の幼穂形成期の生育データを基に基肥の可変施肥を行い、生育の揃いが良くなり倒伏が軽減される傾向を確認した。

「大規模経営の経営発展に向けた稲作技術の確立」では、スマート農業機器（自動給水栓、直進アシストトラクター、直進アシスト田植機、収量食味コンバイン）の省力化や疲労軽減効果等を確認した。また、1ha水田においてそれらの機械を体系的に使用し省力効果を確認した。

水稻栽培においてメタンガス抑制効果が高いとされる中干し延長に取り組み、早期栽培では収量がやや低くなり、普通期栽培では影響が見られなかった。

他に、競争的資金により雑草イネの効果的防除法の開発、受託試験により新除草剤の適応性試験、プラスチック排出削減に効果があるとされる新肥料資材等の効果検討に取り組み、効果を確認した。

さらに、水稻4品種の原原種の生産・供給を行い、生産者用種子生産のほか香り米種子等の安定確保に努めた。

## 7) 野菜部

施設野菜における収量や品質の向上による産地の維持・発展や収益性向上のため、イチゴ、ニガウリの新品種の育成や果菜類の省力・低コスト栽培技術、キュウリの養液栽培技術やピーマンのハイワイヤー栽培技術の確立に取り組んだ。

新たな系統の育成としてイチゴでは、炭疽病に強く、良食味、収量性に加えて、輸送性を考慮した果実の硬度などに優れた25系統を有望系統として選抜した。

ニガウリでは、農試育成「宮崎つやみどり」の次の品種候補として、草勢が安定しイボの尖らない濃緑色系統の種子親2系統（露地用・施設用）を選抜し、それぞれ既存の親系統と掛け合わせ、F<sub>1</sub>を得た。

生産性向上及び省力生産を目的とした栽培試験

として、イチゴでは宮崎農試方式高設栽培において本県主要品種である「さがほのか」の栽培方法で栽培したときの、他県等育成2品種の栽培特性を整理した。

また、キュウリの養液栽培では、促成栽培で日射比例灌水における灌水間隔の違いが収量や生育等に及ぼす影響について検討し、日射比例灌水における月ごとの株あたり給液量を明らかにした。夏秋栽培で品種の違いが収量や生育等に及ぼす影響について検討し、供試した全ての品種で目標を超える収量が確保できたが、品種の特性に応じた養液管理や栽培管理の必要性が明らかになった。

ピーマンでは養液・ハイワイヤー栽培試験を実施し給液量や濃度の推移を把握するとともに、ハイワイヤー栽培に適した品種について検討を行い、使用する品種に応じて、定植直後の養液管理を高めに設定することや、摘果等の草勢管理が必要となることを確認した。また、本県育成の新系統の選抜を行い、A品収量、可販果収量、総収量に優れる1系統を選抜した。

中山間地域における現地試験では、夏秋ピーマンの露地ほ場3箇所及び雨よけハウス1箇所の生育状況を調査し、現地での課題を整理した。

## 8) 花き部

景気の低迷や輸入花きの増加、天候不順やコロナ渦での需要の変化等、花き産業を取り巻く情勢は依然として厳しい状況が続いている中、花きの消費を刺激し、産地の特色を出せる新品種の育成や革新的な栽培技術の開発は重要である。

そこで、本県のオリジナル品種による産地競争力の強化を図るとともに、農家経営の安定のため、低コスト・高品質花きの生産技術や省力化技術等の開発について、行政、普及、農業団体及び関係部、支場や国や他県の研究機関等と連携し積極的な取り組みを行った。

キクでは、秋ギクにおいて、12月出荷作型および3月出荷作型において炭酸ガス施用と栽植密度の関係について検討し、炭酸ガス施用によって、密植と組み合わせることで、12月出荷では出荷率の向上が確認され、3月出荷作型では品質が高まり、収量が増え、収益性が向上することが確認できた。

スイートピーでは、日持ちの良い系統や省力的

な巻きひげの無い系統、難落蕾系統、耐暑性系統の優良系統の選抜を継続して行い、刷毛目模様の新奇花色である「恋かすみ」、「藤かすみ」、「詩かすみ」のかすみシリーズ、難落蕾性の「さくやひめ」、省力性の「ムジカ式部」の5品種を育成した。「さくやひめ」と「ムジカ式部」については品種登録申請を行った。

栽培試験では、不良環境下での増収技術の開発を目的とした炭酸ガス施用による効果の確認やバイオスティミュラント資材の高温障害への効果確認を行ったが、明確な効果は確認できなかった。

エラータム系デルフィニウムでは、交配親として形質が優れ、1番花、2番花とも開花の早い系統を選抜した。また、F<sub>1</sub>系統の能力検定により有望と思われる系統を選抜し、2系統の現地試験を行い、いずれも有望との評価を得た。

有望品目であるダリアでは、秋田県育成の「NAMAHAJE」シリーズの新品種「NAMAHAJEレッドベリー」について、冬春出荷作型における適応性を検討したが、開花が遅延し、適応性の判断ができなかったため、翌年度に再度検討を行うこととなった。

また、千葉大学等との共同研究において、千葉県が選抜した小葉立性でうどんこ病抵抗性を有する有望系統について、本県への適応性を検討し、2系統について有望と認め、品種登録を行うこととなった。

ラナンキュラスでは、開花促進を目的とした球根冷蔵処理時の冷蔵庫内における大苗育苗の各種条件について検討し、育苗が安定するための条件を明らかにした。

さらに、長日処理時の波長の違いが、ラナンキュラスの開花及び生育に及ぼす影響について検討し、開花や球根形成に影響する波長が異なることを明らかにした。

ブルーフレグランスでは、着花安定のための長日処理方法について長日処理時の光源の違いが生育、開花に及ぼす影響について確認した。

中山間地域における現地試験では、ラナンキュラスにおける大苗育苗の効果確認や細霧冷房について検討を行った。りんどうについては、株養成技術の検討を行った。また、耐暑性リンドウの有望系統選抜のための系統特性把握を行った。

## 9) 果 樹 部

果実を取り巻く情勢は、担い手の減少と高齢化、生産費の高騰に加え、高品質果実や出荷時期、特定品種への志向など消費者ニーズが多様化する一方で、さらに、近年果実消費量が減少するなど、生産農家にとって厳しい状況が続いている。

また、近年の気候変動は果樹生産に大きく影響を及ぼしていることから、育種や適応技術の開発が必要である。

このような状況に対応して、高品質果実の安定的、省力的な生産技術及び新品種の開発や産地への導入に向けた品種選定、特性解明に取り組んだ。

極早生温州ミカンにおいては農地環境推定システムにおける発芽期・開花期予測式の検証や近赤外線センサー利用による水分ストレス把握技術の開発に取り組んだ。

種なしキンカン「宮崎夢丸」の安定生産技術について、着果安定のためのジベレリン散布時期の検討や垣根仕立てによる省力高品質果実生産技術実証に取り組んだ。

ゆずでは、新たな母樹候補として選抜した2系統について、CTV（カンキツトリステザウイルス）への干渉効果を検証した結果、生育・果実品質ともに良好であることが確認された。

「へべす」では、垣根仕立て密植栽培による早期成園化に取り組み、従来よりも単位収量が向上することが示唆された。

ブント等では、無核性カンキツの「瑞季」、「汐里」等について、早期成園化のためのジベレリン処理の効果を検証した結果、樹冠容積が大きくなる傾向がみられた。

高温性カンキツ類では、施設における「みはや」の根域制限栽培における適正葉果比の検討、「あすみ」の節水管理による裂果対策、「不知火」垣根仕立ての樹形の検討を行った。

カンキツの育種については、種なし日向夏育成のため、過年度に確認された三倍体及び四倍体の接ぎ木個体を育成し、今後一次選抜を行っていく。また、高品質極早生温州ミカン育成のため、「ゆら早生」、「肥のあけぼの」、「おおいた早生」、「山下紅早生」及び「小原紅早生」の珠心胚実生個体獲得を行った。さらに、圃場に展開した珠心胚実生91系統の果実分析を行い品質評価を行った。

ブドウでは、「シャインマスカット」の根域制限

栽培における培土を明らかにするとともに、副梢摘除栽培による管理作業の省力化が図られた。

黒系品種の着色向上技術として、「ピオーネ」におけるアブシシン酸液剤利用の効果について明らかにした。

ブドウの育種においては、本県でも着色しやすい品種の育成のため、「シャインマスカット」と「キャンベルアーリー」の交配を行い、目的の着色遺伝子を保有する45個体を選抜した。また、有望な育種親として黒系の2品種を育成中である。

ナシでは、マメナシ台選抜系統台木による発芽や生育への影響を調査中である。また、早期成園化・省力化技術である流線型仕立てとジョイント仕立てを比較した結果、流線型仕立てのほうが主枝100cm当たりの総伸長量が多い傾向がみられた。

カキでは、早期成園化が期待されるJVトレリス栽培と強制開心自然形を比較すると、JVトレリス栽培のほうが収量性が高かった。

クリでは、幼木の枯死対策としての春肥施用は3月が良いことを明らかにするとともに、落葉前せん定は収量に影響しないことを明らかにした。

モモでは、「さくひめ」の無加温栽培における被覆時期について、農地環境推定システム推定値に従い実施した結果、露地栽培に比べ開花を11日早めることができた。

キウイフルーツでは、つり上げ誘引に必要な支柱を固定式からロープを使用した掲揚式にすることで、誘引ひもの昇降に要する作業時間を7割に削減することができた。また、台風被害低減対策としても有効であることが示された。

## 10) 畑作園芸支場

さといも、ほうれんそう、かんしょ等、本県の主要露地野菜品目を対象として、安定生産技術、省力低コスト栽培技術の開発に取り組んだ。

かんしょでは、サツマイモ基腐病に対応した育苗技術の開発について、「高系14号」の挿し苗育苗において、栽植様式の違いが採苗本数に及ぼす影響について検討し、密植により採苗本数が増加することを明らかにした。また、苗の温湯消毒における収量等への影響について、52℃5分以上及び48℃20分では収量が減少することを確認した。

さらに、農研機構が育成した基腐病に抵抗性を有する品種について、「べにまさり」における最適

な生育日数を明らかにするとともに、有望系統である「関東150号」、「九州201号」及び「べにまさり」の現地適応性を明らかにした。

また、植付時が高温となることによる植え傷みや塊根形状不良対策としての蒸散抑制剤処理について有効性を明らかにした。腐植酸資材の活用については、増収・品質向上効果が得られなかった。

さといもでは、2020年産で選抜した極早生種、早生種及び中早生種における優良品種・系統の生産能力を調査した。極早生種、早生種では、「石川早生」と同程度の収量となったが、中早生種では、「砂里芋」及び「女早生」より多収となった。また、県内外から収集した30品種・系統の選抜、保存、増殖を行った。

加工・業務用ほうれんそうでは、農研機構が開発した収量予測アプリ(プロトタイプ)について、葉面積実測値により補正することで、実測収量の収量予測精度が向上することを明らかにした。

また、機能性成分ルテイン含量の変動要因については、品種の影響が大きく、抽苔期にルテイン含量が低下する傾向が認められた。

スマート農業機械の検証については、直進アシスト機能付き小型トラクターのロータリー耕における直進性の効果を確認した。

## 11) 茶業支場

本県の茶業は、高品質・収量の安定確保や省力化による低コスト化を進め、令和4年度の本県の荒茶生産量は3,000tで全国第4位であった。

このような情勢を背景に、当支場では、本県の生産条件の良さを最大限に活かし、主要産地としての銘柄確立と茶生産所得の向上をめざして新品种の育成、栽培加工技術の改善、開発に取り組んだ。

育種部門では、緑茶用品種に加えて、香気に特徴のある「みやざきオリジナル新香味茶」用品種を育成するため、生育が比較的良く、煎茶として品質が良い2系統、釜炒り茶として品質が良い1系統、半発酵茶として品質が良い1系統、発酵茶として品質が良い1系統を新品種候補として選抜した。また、個体選抜や栄養系比較試験等の各種選抜試験を実施するとともに5組合せ11,000花を交配した。

栽培部門では、せん枝処理によるチャ炭疽病の

発生抑制効果について検証し、茶園の樹冠部に残葉がほとんど残らないように深刈り処理を行った場合、次の茶期において炭疽病の発生を抑制することができた。また、クワシロカイガラムシの散水防除法に関し、孵化状況を詳細に調査した結果、第2世代において、防除に必要な散水期間を従来の16日間から10日間に短縮できる可能性が示唆された。

加工部門では、新香味茶におけるGABA含有量の増加方法について検討し、ドラム式萎凋機での萎凋後に、嫌気処理、好気処理、嫌気処理の順で処理することで、嫌気処理だけの場合よりもGABA含有量が増加することを明らかにした。また、品種別の新香味茶の特性について、緑茶用4品種の嗜好性を調査した結果、「やぶきた」と「はると34」が高評価であった。

## 12) 亜熱帯作物支場

本県の温暖多照な気象条件を活かし、南国のイメージを彩るマンゴー、ライチ、アボカド、バナナなどの亜熱帯性果樹や、完熟キンカン、日向夏などの中晩生カンキツ及びキイチゴ「ベビーハンズ」やシキミなどの露地花き・花木について、安定生産や更なる高品質化に向けた技術開発に取り組んだ。

マンゴーでは、5～6月の出荷作型においてCO<sub>2</sub>施用をすることで、糖度や果皮色が向上することを明らかにした。マンゴー台木「柴マンゴー」の挿し木において、8割程度で発根することが確認された。

ライチでは、着花や結果数の増加のために、秋芽処理や花穂整形処理を行った。また、苗木増殖用に露地に植栽した木が、－3℃程度に遭遇すると、株枯れが発生することが確認された。

バナナでは、2、3年生枝に着花が見られ、4年生枝には着花が見られないことを明らかにした。

アボカドでは、同樹齢の「リード」において、樹冠容積や収量に個体差があることを明らかにした。また、露地栽培において台風や寒波により大きな被害が見られた中で、「ベーコン」では被害の程度が軽いことが明らかとなった。

キンカンの台湾輸出向け試験については、前年度残留しやすいと思われた剤の残留について再確

認を行い、防除暦作成に活かした。

「宮崎夢丸」においては、完熟作型における開花期のジベレリンとプロヒドロジャスモンの混用散布は、満開時散布の効果が高いことを明らかにした。

日向夏の少核果省力生産については、受粉樹を第二主枝へ高接した条件において、補助的受粉を組み合わせることで、結果率が高まることを確認した。

高温性カンキツ類では、施設における「みはや」の垣根仕立てが、樹冠拡大に優れ、定植4年目で、10アール当たり1トンの収量を得られることを明らかにした。

シキミの早期成園化においては、深植えが有効であることが明らかとなった。また、土壌改良材の施用によって、葉のまだら症状を一時的に抑制することが確認された。

キイチゴ「ベビーハンズ」は、前年秋挿し苗の春定植において、発根促進剤の処理が有効であること、春挿し苗の育苗期間は、30～50日が有効であることを明らかにした。

ユーカリにおいては、畝立てを行って植え付けることで、生育が良くなることを明らかにした。

## 13) 薬草・地域作物センター

近年、国民の高い健康志向やゆとりある生活への関心の高まり等から、薬草・ハーブや地域作物が注目されている。そこで、本県の新たな地域特産物としての開発や生産振興を図るため、これら作物が有する特性の解明、安定栽培技術の確立及びその利用・加工技術の開発について、企業、大学、生薬問屋、製薬メーカーと連携を図りながら取り組んだ。

薬用作物の産地化に向けた栽培・加工技術確立のため、白ウコンの緩効性肥料を用いた施肥技術の開発に取り組み、被覆肥料の溶出特性を明らかにした。また、有望品目として期待されるアシタバの栽培特性を把握した。また、健康食品として需要があるクイモの倒伏軽減技術としての剪定栽培の効果を確認した。

地域作物では、地域作物として有望な白ナス、鹿川地トウキビ、畦アズキ、アカトウマメの栽培特性を把握した他、ミミズコショウ、地トウキビ、ムカシタカナについて食味特性を確認した。また、

石上アズキ、鹿川地トウキビ、白長ナス、アカトウマメ、椎葉のサトイモの種子更新を行った。

ハーブ類については、県内地ビールメーカーの要請をもとに醸造用ホップの基礎栽培技術の検討を行い、生育中期のつる下げ技術は、生育量が少ない場合は安定多収に繋がらないこと、トンネル栽培による早進化技術は、ホップの植物生理の面から問題が多いこと、深耕による土壌改良により、根域が拡大することを確認した。また、レモンガラスの機械化体系に対応した栽培技術の検討をおこない、モアーを使用した機械化が可能であることを確認した他、ミント類の定植方法の違いが生育に及ぼす影響を明らかにした。

情報発信については、常設の見本植物園の一般開放や、薬草類や地域作物を活用した定期講座を開催した。

#### 14) 病虫害防除・肥料検査課

水稻、野菜、果樹等12作物を対象に、国指定の62病虫害（指定病虫害）並びに指定外の110病虫害について、その発生状況を調査し、適期・適正な防除に必要な発生予察情報を農家や関係機関に提供した。その結果、病虫害発生予報は12回（毎月1回）、注意報2回、特殊報1回、防除情報9回を発表し、農作物の病虫害被害の軽減につながった。

また、県内では未発生・未確認の特殊病虫害の侵入警戒調査を、農業改良普及センターの協力を得ながら、ミバエ類39ヶ所、アリモドキゾウムシ76ヶ所、イモゾウムシ40ヶ所、ミカンキジラミ18ヶ所の計173ヶ所で調査を実施した。調査の結果、いずれの地点においても特殊病虫害に該当するものの誘殺は確認されなかった。

令和3年(2021年)12月、県内初、国内2例目となるトマトキバガの発生を確認した。そのため、県内のトマトキバガの寄主植物(ナス科植物)の産地にフェロモントラップを設置して発生状況を把握し、被害の軽減及びまん延防止を図った。

サツマイモ基腐病の発生生態を把握するため、県内のサツマイモ主要産地において、5月から9月に定期現地調査を実施した。令和4年度は総合的な対策の実行や湛水状態になるような雨が少なく、基腐病の初発時期が前年より遅く発病が減少し収量も確保できた。

また、貯蔵調査により、株元発病株から収穫し

たイモは貯蔵16週目には8割のイモが出荷不能となることが分かった。

ツマジロクサヨトウは、県内6地点に設置したフェロモントラップ調査にて、5月9日に初誘殺が確認されたため、5月24日に防除情報を発出した。その後の誘殺頭数は前年より少なかったものの、主産地における飼料用トウモロコシほ場では食害、幼虫、卵塊が確認された。

肥料の安全性と品質確保、公正な取引と円滑な流通を図るため、肥料取締法に基づいて、14件の肥料の依頼分析を行った。

#### 15) 鳥獣被害対策支援センター

川南町におけるビニールハウスのカラス対策など、県内7カ所に鳥獣被害防止技術実証展示ほを設置し効果の確認等を行い、対策技術の普及啓発を図られた。

さらに、人材育成については、鳥獣被害対策マイスターを養成する研修を開催し、新たに69人を認定するとともに、技術向上研修として防護柵や中小型獣対策など個別専門的な3つのコースの研修を実施し、指導者等の実践力向上を図った。

#### 16) 専門技術センター

普及指導員やJ A営農指導員等に対して、技術及び経営に関する各種研修を年間計画に基づいて実施し、指導力の向上を図った。

また、スマート農業をはじめ、生産性向上に向けた技術の確立及び普及等や、県域の重要課題に対して重点プロジェクト計画に基づき実施し、課題解決を図った。

さらに、試験研究員と連携した試験場の施設やほ場を活用した新たな研修の開催や、普及指導員の調査研究における試験研究員の積極的な参画等により、試験研究と普及の連携強化を図り、地域課題の研究課題化及び研究成果の普及促進を図った。

## 2. 試験研究課題及び事業一覧

| 試 験 研 究 課 題 ・ 事 業 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 年 度                                                                                               | 備 考                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>&lt;企画情報室&gt;</b><br>1. 場内気象観測事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | S41～                                                                                              | 場予算                                                                                             |
| <b>&lt;生産流通部&gt;</b><br>1. 土壌・肥料等の依頼分析<br>2. 輸出に対応した残留農薬分析技術の開発<br>3. 県産農産物のブランド力向上に資する品質保持技術の確立<br>4. おいしさの見える化に向けた技術開発<br>5. メタボロミクスを活用した良食味米の評価技術の開発<br>6. みやざき食のイノベーション推進事業<br>7. 近赤外分光装置を用いたマンゴーのおいしさ評価法の確立（みやざき農水産業基礎研究体制強化事業）<br>8. みやざきグリーン農業技術実証事業<br>9. 県産農産物の機能性表示食品の加速化に向けた迅速分析法の開発（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業）<br>10. 輸出拡大に直結する青果用かんしょの出荷工程における腐敗低減技術の開発<br>11. 農作物の新品目や新しい病気等に対応した残留農薬分析技術の開発（未来みやざき産業人材育成事業）<br>12. 機能性成分SMCSを多く含むアブラナ科野菜加工品の作出（地域産業技術研究開発支援事業） | S40～<br>R2～R6<br>R2～R4<br>R3～R5<br>R3～R5<br>R3～R5<br>R4<br>R4～R6<br>R4～R6<br>R4～R5<br>R4<br>R4～R5 | 場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>農業流通ブランド課<br>場予算<br>農業普及技術課<br>農業普及技術課<br>国庫（委託）<br>県単<br>県単 |
| <b>&lt;土壌環境部&gt;</b><br>1. 土壌・肥料等の依頼分析<br>2. 土壌汚染防止対策事業<br>3. 地域農業技術開発試験<br>4. 可給態窒素レベルに応じた加工用ハウレンソウでの窒素施肥指針の策定<br>5. 施設野菜におけるリアルタイム診断技術の開発<br>6. 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査）<br>7. 持続可能なみやざきグリーン農業構築事業（消費・安全対策交金）<br>8. 収量の安定・多収化や経営の大規模化を実現するためのキュウリ養液栽培技術の確立（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業）<br>9. 養液栽培での簡易な培養液管理法の確立と宮崎県に適した培養液処方の検討                                                                                                                                             | S40～<br>S57～<br>H12～<br>R4～R6<br>R4～R6<br>H25～R4<br>R4～R6<br>R4～R6<br>R2～R6                       | 場予算<br>農業普及技術課<br>受託<br>場予算<br>場予算<br>国庫（委託）<br>農業普及技術課<br>農業普及技術課<br>場予算                       |
| <b>&lt;生物環境部&gt;</b><br>1. 病虫害発生予察事業<br>2. 新農薬の適応性試験<br>3. 先端技術を活用した省力化防除技術の開発<br>4. 果樹類における難防除病虫害防除技術の確立<br>5. キルパー液剤の高濃度処理方法とメシキアザミに対する防除効果の検討<br>6. 侵入害虫トマトキバガに対する診断・発生予測手法の確立と防除技術の開発（イノベーション創出強化研究推進事業）<br>7. 施設園芸の主要病害発生予測AIによる総合的病害予測・防除支援ソフトウェア開発（イノベーション創出強化研究推進事業）<br>8. ツマジロクサヨトウの効率的な発生予察技術と防除対策技術の開発（イノベーション創出強化研究推進事業）<br>9. かんしょ輸出産地を支えるサツマイモ基腐病総合的防除体系の開発<br>10. 急傾斜地の超省力化に向けた小型農業ロボットシステムの開発                                                             | S16～<br>S50～<br>R4～R6<br>R4～R6<br>R4<br>R4～R6<br>H30～R4<br>R2～R4<br>R4～R6<br>R4～R6                | 農業普及技術課<br>受託<br>場予算<br>場予算<br>受託<br>国庫（委託）<br>国庫（委託）<br>国庫（委託）<br>国庫（委託）<br>国庫（委託）             |
| <b>&lt;生物工学部&gt;</b><br>1. 優良種苗増殖対策事業（儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業）<br>2. 生産者・実需者ニーズのワンランク上を目指したランクアップ育種<br>3. 宮崎の未来を拓く緑ピーマンF1品種の育成<br>4. 次世代ピーマン病害抵抗性品種の育成<br>5. バイオテクノロジーによる花き類の新品種の育成及び新たな苗供給技術の開発<br>6. 宮崎トロピカルフルーツの経営安定に向けた優良系統の供給システムの開発<br>7. ピーマン台木を加害するネコブセンチュウの同定とネコブセンチュウ抵抗性F1台木の育成<br>8. 生産性向上に向けたピーマンのハイワイヤー栽培技術の確立<br>9. 植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進（農林水産研究推進事業）<br>10. 土地利用型農業産地再編・強化対策事業<br>11. 中山間地域における種苗安定供給を含めた野菜・花き産地育成・拡大技術確立（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業）                 | H15～<br>R2～R6<br>R3～R7<br>H30～R4<br>R1～R5<br>R1～R5<br>R2～R6<br>R1～R5<br>R3～R7<br>R4～R6<br>R4～R6   | 農産園芸課<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>国庫（委託）<br>国庫（委託）<br>農業普及技術課           |

| 試 験 研 究 課 題 ・ 事 業 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 年 度                                                                                         | 備 考                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| <b>&lt;生 物 工 学 部 (続 き) &gt;</b><br>12. 地域農業技術開発試験 (ピーマン台木の病虫害抵抗性評価)<br>13. ピーマンの低温多収性品種育成に向けた評価手法と育種素材の探索 (みやざき農水産業基礎研究体制強化事業)<br>14. ウイルスフリーかんしょ苗の供給によるサツマイモ基腐病の発症抑制 (みやざき農水産業基礎研究体制強化事業)                                                                                                                                                                                                                                                                                      | R4<br>R4<br>R4                                                                              | 受託<br>農業普及技術課<br>農業普及技術課                                                          |
| <b>&lt;作 物 部&gt;</b><br>1. 奨励品種決定調査及び原々種生産<br>2. 新除草剤の適応性試験<br>3. 大規模経営の経営発展に向けた稲作技術の確立<br>4. 生産者・実需者ニーズのワンランク上を目指したランクアップ育種<br>5. 新しい肥料・資材・施肥法による栽培技術の確立<br>6. 地域農業技術開発試験 (新稲作研究会事業)<br>7. 稲民間育成品種の特性検定試験<br>8. 雑草イネの効果的防除法の開発 (農林水産研究推進事業)<br>9. 持続可能なみやざきグリーン農業構築事業 (消費・安全対策交付金)<br>10. 土地利用型農業産地再編・強化対策事業<br>11. 水稻・小麦・大豆の栽培管理支援システムVer.3とメッシュ農業気象データ取得ツールの開発 (国際競争力強化技術開発プロジェクト)                                                                                           | S28～<br>S50～<br>R3～R5<br>R2～R6<br>R4～R5<br>R2～R4<br>R4～R5<br>R1～R5<br>H28～R4<br>R4～R6<br>R4 | 場予算<br>受託<br>場予算<br>場予算<br>受託<br>受託<br>受託<br>国庫(委託)<br>農業普及技術課<br>農産園芸課<br>国庫(委託) |
| <b>&lt;野 菜 部&gt;</b><br>1. 優良種苗増殖対策事業 (儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業)<br>2. 多収・省力化技術の構築に向けた主要果菜類における生育反応等の解析<br>3. 生産性向上に向けたピーマンのハイワイヤー栽培技術の確立<br>4. 高軒高ハウスにおける最先端管理技術の構築<br>5. 拡大品目における新品種育成と安定生産のための栽培技術の確立<br>6. 宮崎の未来を拓く緑ピーマンF1品種の育成<br>7. 地域農業技術開発試験 (宮崎県産樹皮を利用した固化培地によるピーマン等の養液栽培技術開発)<br>8. 収量の安定・多収化や経営の大規模化を実現するためのキュウリ養液栽培技術の確立 (マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業)<br>9. 中山間地域における種苗安定供給を含めた野菜花き産地育成・拡大技術確立 (マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業)<br>10. 施設野菜の生育収量予測A P Iにおける多品目対応技術の開発 (国際競争力強化技術開発事業) | H15～<br>R3～R7<br>R1～R5<br>R2～R6<br>R2～R6<br>R3～R7<br>R3～R4<br>R4～R6<br>R4～R6<br>R3～R4       | 農産園芸課<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>受託<br>農業普及技術課<br>農業普及技術課<br>国庫(委託)    |
| <b>&lt;花 き 部&gt;</b><br>1. 優良種苗増殖対策事業 (儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業)<br>2. 時代のニーズに対応したみやざきオリジナル品種の育成<br>3. 本県主力花きにおける革新的技術開発事業<br>4. 戦略花きにおける安定生産技術の開発<br>5. 中山間地域における種苗安定供給を含めた野菜花き産地育成・拡大技術確立 (マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業)<br>6. うどんこ病抵抗性と密植栽培適性を兼備し施設栽培に適したダリア切り花用品種の育成 (イノベーション創出強化研究推進事業)<br>7. 良日持ち性ダリア育成系統の系統適応性・特性検定試験 (持続的生産強化対策事業)<br>8. 温暖化による生育障害を回避するLED光閉鎖型花き育苗の開発 (みやざき農水産業基礎研究体制強化事業)                                                                                        | H15～<br>R4～R8<br>R4～R7<br>R4～R6<br>R4～R6<br>H30～R4<br>R4<br>R4                              | 農産園芸課<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>農業普及技術課<br>国庫(委託)<br>国庫(委託)<br>農業普及技術課              |
| <b>&lt;果 樹 部&gt;</b><br>1. 温暖化に適応した有望高温性カンキツの低コスト栽培技術開発と新たなカンキツ品目探索<br>2. 気候変動の影響評価と適応のための果樹栽培技術の確立<br>3. キウイフルーツ・ナシ等の新樹形による早期成園化技術の確立<br>4. 宮崎の「シャインマスカット」を支える高品質・省力栽培技術の開発<br>5. 大規模生産に向けたカンキツ栽培技術の開発と本県オリジナル品種の育成<br>6. 無核性カンキツ新品種「瑞季」等の全国展開に向けた高品質安定生産及び高度利用技術の確立 (イノベーション創出強化研究推進事業)<br>7. 樹体水分の「見える化」による果樹の高品質及び高収量生産技術の開発 (マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業)<br>8. みやざき食のイノベーション推進事業                                                                                                | H30～R4<br>R1～R5<br>R2～R6<br>R3～R7<br>R4～R8<br>R2～R6<br>R4～R6<br>R3～R5                       | 場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>国庫(委託)<br>農業普及技術課<br>農産流通プラント課                 |

| 試 験 研 究 課 題 ・ 事 業 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 年 度                                                                                                      | 備 考                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>&lt;畑作園芸支場&gt;</b><br>1. 奨励品種決定調査及び原々種生産<br>2. 食用かんしょの省力化栽培技術の確立<br>3. かんしょの基腐病に対応した育苗技術の開発<br>(かんしょ輸出産地を支えるサツマイモ基腐病総合的防除体系の開発)<br>4. 腐植酸資材を活用したサツマイモの高品質・安定多収技術の確立<br>5. 加工用ハウレンソウにおける茶殻豚ふん堆肥を用いた栽培試験<br>6. 加工・業務用ほうれんそうの出荷予測及びルテイン高含量栽培技術の開発<br>(マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業)<br>7. 優良種苗増殖対策事業 (儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業)<br>8. かんしょ・さといも病害対策強化事業<br>9. スマート畑かん大規模経営体育成支援事業                                               | S28～<br>R1～R4<br>R4～R6<br><br>R4<br>R4～R5<br>R4～R6<br><br>H15～<br>R2～R4<br>R3～R5                         | 場予算<br>場予算<br>国庫(委託)<br><br>受託<br>受託<br>場予算<br><br>農産園芸課<br>農産園芸課<br>農村計画課                    |
| <b>&lt;茶 業 支 場&gt;</b><br>1. 新農薬の適応性試験<br>2. 茶育種研究に係る系統適応性・特性検定試験<br>3. 大規模土地改良事業 (散水による害虫防除対策)<br>4. 世界に輝く! みやざき茶の高付加価値生産技術の開発<br>5. 世界の食卓にみやざき茶! 輸出対応型新製品の開発<br>6. 本県茶業が生き残るために核となる「みやざきオリジナル茶品種」の育成<br>7. 未来あるみやざき茶! 革新的栽培技術の開発<br>8. おいさと健康志向ニーズに対応したブルーベリー葉商品の開発事業 (食料産業・6次産業化交付金)<br>9. 二番茶、秋冬番茶の輸出を可能とするIPM体系の開発 (国際競争力強化技術開発事業)<br>10. 茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験 (戦略的スマート農業技術等の開発・改良)<br>11. 茶殻入り豚ふん堆肥の施肥効果試験 | S50～<br>H28～<br>H12～<br>R1～R4<br>R2～R5<br>R3～R7<br>R3～R6<br>R2～R4<br><br>R3～R5<br><br>R4～R6<br><br>R4～R5 | 受託<br>受託<br>農村計画課<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>国庫(委託)<br><br>国庫(委託)<br><br>国庫(委託)<br><br>受託 |
| <b>&lt;亜熱帯作物支場&gt;</b><br>1. 温暖化に適応した有望高温性カンキツの低コスト栽培技術開発と新たなカンキツ品目探索<br>2. 宮崎の気象条件を活かしたアボカド導入のための技術開発<br>3. 亜熱帯性果樹の産地拡大・新規産地育成が可能な栽培技術の開発<br>4. 宮崎特産柑橘の次代に対応した栽培技術開発<br>5. 宮崎マンゴー産地の再発展を目指す栽培技術の確立<br>6. 露地花き・花木品目の産地づくりを目指した安定生産技術の開発<br>7. ブランド果樹産地リノベーション推進事業                                                                                                                                                    | H30～R4<br><br>H30～R4<br>R1～R5<br>R1～R5<br>R1～R5<br>R1～R5<br>R4                                           | 場予算<br><br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>場予算<br>農産園芸課                                           |
| <b>&lt;薬草・地域作物センター&gt;</b><br>1. 地域伝統作物の保全と新たな利用方法の開発<br>2. 儲かる薬用作物の安定生産技術の確立と需要開拓<br>3. 原料用ハーブ生産に向けた栽培技術の開発 (マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業)                                                                                                                                                                                                                                                                                 | R1～R5<br>R2～R6<br>R4～R6                                                                                  | 場予算<br>場予算<br>農業普及技術課                                                                         |
| <b>&lt;病虫害防除・肥料検査課&gt;</b><br>1. 肥料検査組織整備運営費<br>2. 病虫害防除組織整備運営費<br>3. 病虫害発生予察事業<br>4. グリーン農業技術実証事業 (消安交付金ほか)<br>5. かんしょ輸出産地を支えるサツマイモ基腐病総合的防除体系の開発<br>(戦略的スマート農業技術等の開発・改良)<br>6. 侵入害虫トマトキバガに対する診断・発生予測手法の確立と防除技術の開発 (イノベーション創出強化研究推進事業)                                                                                                                                                                               | S16～<br>S16～<br>R4～R6<br>R4～R6<br><br>R4～R6                                                              | 農業普及技術課<br>農業普及技術課<br>農業普及技術課<br>農業普及技術課<br>国庫(委託)<br><br>国庫(委託)                              |
| <b>&lt;鳥獣被害対策支援センター&gt;</b><br>1. 鳥獣被害対策支援センター活動推進事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | R4～R6                                                                                                    | 農政企画課                                                                                         |
| <b>&lt;専門技術センター&gt;</b><br>1. 普及指導員巡回指導                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | R3～                                                                                                      | 農業普及技術課                                                                                       |

(注) 場予算は総合農業試験場費、課名のものは令達予算、  
 国予算(委託)は国からの委託研究費、公募はその他公募事業、  
 受託は民間企業等からの受託研究費

### 3. 試験研究課題及び事業別の成果等

#### 1) 企画情報室

| 試験研究課題等     | 試験<br>区分 | 研究<br>期間 | 試験研究者<br>所属・氏名                            | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                      |
|-------------|----------|----------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 場内気象観測事業 | 県単       | 昭41<br>～ | 甲斐 憲一<br>平田 力也<br>重松 法光<br>村岡 精二<br>木下 智美 | 場内の気象観測を実施し、データを整理蓄積した。<br>蓄積した場内の気象観測データは、宮崎地方気象台データと比較検証を行い、各部の成績書等各種資料作成において活用した。 |

#### 2) 生産流通部

| 試験研究課題等                                                                          | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 土壌・肥料等の<br>依頼分析                                                               | 県単       | 昭40<br>～      | 野上麻美子          | 残留農薬の相談対応及び分析を11件実施した。                                                                                                                                                  |
| 2. 輸出に対応した<br>残留農薬分析技術<br>の開発                                                    | 県単       | 令2<br>～<br>令6 | 野上麻美子          | 輸出にも対応でき、これまで分析が困難な農薬成分3成分について、迅速分析法を確立した。<br>開発した分析法については、分析機関に技術移転した。                                                                                                 |
| 3. 県産農産物のブ<br>ランド力向上に資<br>する品質保持技術<br>の確立                                        | 県単       | 令2<br>～<br>令4 | 松浦 絵美<br>八代 賢  | ミニトマトの裂果について、品種毎の裂果発生程度や輸送中の震度が裂果に及ぼす影響を確認した。<br>また、輸出向けカンショの輸送試験では、包装資材の違いによるカビや萌芽等の発生抑制効果について明らかにした。花きでは、ランタンキュラスの主要2品種の収穫切り前の違いによる日持ち性を確認し、慣行の切り前が日持ち性に優れることを明らかにした。 |
| 4. おいしさの見え<br>る化に向けた技術<br>開発                                                     | 県単       | 令3<br>～<br>令5 | 佐藤 美和<br>岩田 龍祐 | マンゴーにおいて、栽培条件(日射量、植栽位置、収穫時期等)がおいしさの成分に及ぼす影響について、おいしさに寄与する成分の挙動を多変量解析により確認した。                                                                                            |
| 5. メタボロミクス<br>を活用した良食味<br>米の評価技術の開<br>発                                          | 県単       | 令3<br>～<br>令5 | 岩田 龍祐<br>佐藤 美和 | コメに含まれるアミノ酸分析について、GC-MSによる最適な前処理方法及び装置の分析条件について検討し、解析ソフトMS-DIAL等の解析条件を最適化することで、GC-MSで取得した米の分析クロマトデータから、一斉に約75成分を抽出及び半同定できることを確認した。                                      |
| 6. みやざき食のイ<br>ノベーション推進<br>事業                                                     | 県単<br>補助 | 令3<br>～<br>令5 | 江里 直士          | 農産物中に含まれる機能性成分13成分について、(株)島津製作所、(一社)食の安全分析センターと連携し、一斉分析法に係る分析条件について検討した。                                                                                                |
| 7. 近赤外分光装置<br>を用いたマンゴー<br>のおいしさ評価法<br>の確立 (みやざき<br>農水産業基礎研究<br>体制事業)             | 県単       | 令4            | 佐藤 美和<br>八代 賢  | 性能評価を確認した近赤外分光装置を使用して、果実の部位間差を考慮した可食部全体を網羅的に評価できる測定方法を確立し、官能評価と相関の高い近赤外分光装置波長による検量線を構築した。                                                                               |
| 8. みやざきグリーン<br>農業技術実証事<br>業                                                      | 国庫       | 令4<br>～<br>令6 | 野上麻美子          | マイナー作物での農薬登録拡大を図るため、ライチについて農薬成分シエノピラフェン(スターマイトフロアブル)の作物残留試験を果肉及び果皮で実施した。                                                                                                |
| 9. 県産農産物の機<br>能性表示食品の加<br>速化に向けた迅速<br>分析法の開発 (マ<br>ーケット対応型産<br>地競争力強化技術<br>開発事業) | 県単       | 令4<br>～<br>令6 | 野上麻美子          | テアフラビン類も含めたカテキン類20成分及びGABAについて、標準試薬を用いて検出条件の最適化を行った。<br>GABAについては最適なカラム及び移動相条件を決定した。                                                                                    |

## 2) 生産流通部－2

| 試験研究課題等                                                | 試験<br>区分 | 研究<br>期間  | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------|----------|-----------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10. 輸出拡大に直結する青果用かんしょの出荷工程における腐敗低減技術の開発                 | 国庫       | 令4～<br>令5 | 松浦 絵美          | 輸出向け青果用かんしょの腐敗抑制対策について、高温キュアリングと包装資材を組み合わせた結果、高系14号、「べにはるか」では、キュアリング処理により腐敗の抑制効果が認められた。また、一部でキュアリング処理により、萌芽が助長されることが示唆された。 |
| 11. 農作物の新品目や新しい病気等に対応した残留農薬分析技術の開発<br>(未来みやざき産業人材育成事業) | 県単       | 令4        | 野上麻美子          | 新しい農薬成分測定のための技術開発に取り組む食の安全分析センターに対し、「ハウレンソウ」や輸出の主力品目である「キンカン」等で適用可能な13成分の分析法及び妥当性評価の方法について、研究指導、助言を実施した。                   |
| 12. 機能性成分SMCSを多く含むアブラナ科野菜加工品の作出(地域産業技術技術研究開発支援事業)      | 県単       | 令4～<br>令5 | 野上麻美子          | SMCSの標準試薬を用い、高速液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS/MS)による測定条件の検討を行い、LCにおける最適な移動相の条件を設定した。                                                 |

## 3) 土壌環境部

| 試験研究課題等                                                                                                          | 試験<br>区分 | 研究<br>期間 | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 土壌・肥料等の依頼分析                                                                                                   | 県単       | 昭40～     | 田上 遊里          | 総合農試の依頼分析規定に基づき、土壌、農業用水について、依頼数12件、サンプル数12点、分析項目数17成分を分析し、依頼者に成績書を発行した。                                                                                                                                                                                    |
| 2. 土壌汚染防止対策事業                                                                                                    | 県単<br>補助 | 昭57～     | 田上 遊里          | 土壌汚染防止対策事業完了後の観測調査として、高千穂町岩戸川流域土呂久地区のヒ素及び同流域東岸寺地区のカドミウムについて、水田土壌、玄米、稲わら及び農業用水中の含有量を測定した。                                                                                                                                                                   |
| 3. 地域農業技術開発試験<br>1) 加工用ハウレンソウ安定生産のための効率施肥技術の開発<br>2) キャベツ安定生産のための効率施肥技術の開発<br>3) 茶園・加工用ハウレンソウにおける茶殻豚ふん堆肥を用いた栽培試験 | 受託       | 平12～     | 田上 遊里<br>吉留 悠太 | 加工用ハウレンソウの12月播種の作型においては、供試資材「くみあい混合堆肥複合肥料1055号」は一般的な有機化成肥料と同等の肥効を得ることが出来た。<br><br>8月上旬定植の作型の加工用キャベツにおいて今回供試したキャベツ用一発肥料(混合堆肥複合肥料+被覆肥料)は慣行の肥料と同等の肥効が確認できた。<br><br>茶殻豚ふん堆肥の無機化特性を調べるとともに、同堆肥を用いたハウレンソウ及び茶の栽培試験において土壌科学性の調査及び植物体分析等を実施し、畑作園芸支場及び茶業支場へデータを提供した。 |

### 3) 土壤環境部－2

| 試験研究課題等                                                                             | 試験<br>区分 | 研究<br>期間       | 試験研究者<br>所属・氏名          | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4. 可給態窒素レベルに応じた加工用ハウレンソウでの窒素施肥指針の策定                                                 | 県単       | 令4<br>～<br>令6  | 甲斐 宏一<br>野崎 克弘          | 都城市の農業生産法人が栽培管理する加工用ハウレンソウ現地ほ場の可給態窒素の現状について調査するため、約100箇所のは場について土壌のサンプリングを実施した。それらの土壌については一般的な土壌分析項目に加え、公定法及び簡易法（パックテスト）にて可給態窒素の分析を実施した。その結果、可給態窒素については5mg/100g～18mg/100gとばらつきが見られた。                                                                                                                                                                                                 |
| 5. 施設野菜におけるリアルタイム診断技術の開発<br>1) 促成イチゴのリアルタイム診断指針の策定<br>2) 促成ニラの養生期間におけるリアルタイム診断指針の策定 | 県単       | 令4<br>～<br>令6  | 吉留 悠太<br>田上 遊里<br>野崎 克弘 | 促成イチゴのリアルタイム診断（磨砕法で抽出したサンプル）において、葉柄中の硝酸イオン濃度を測定する簡易分析機として、RQフレックスは公定法との相関が高く利用可能であると確認できた。一方で、コンパクトイオンメーターでは磨砕法抽出汁液中の夾雑物による妨害の為、硝酸イオン濃度を正確に計ることが出来ないことが確認できた。<br><br>促成ニラのリアルタイム診断において、葉中の硝酸イオン濃度を測定する簡易分析機として、RQフレックス、硝酸イオンメーターともに公定法との相関が高く、どちらも簡易分析手法として有効であることが分かった。施肥量では慣行区が収量、品質ともに最も高かった。そこで、硝酸イオン濃度の基準値を慣行区で設定すると、RQフレックス、公定法で1300～2000ppm、硝酸イオンメーターで2200ppm～3600ppm程度となった。 |
| 6. 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査）                                                        | 国庫       | 平25<br>～<br>令4 | 甲斐 宏一                   | 県内の9定点及び3基準点の計12点の土壌について炭素及び窒素の分析を行い、温室効果ガス抑制対策のための基礎資料を得た。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 7. 持続可能なみやぎグリーン農業高地区事業（消費・安全対策交付金）                                                  | 国庫       | 令4<br>～<br>令6  | 甲斐 宏一                   | カドミウム吸収抑制イネ（コシヒカリ環1号）の栽培特性及びカドミウム等の吸収抑制効果を地域慣行品種「コシヒカリ」と比較し、有効な知見を得た。なお、土壤環境部については主に分析部門について対応した。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 8. 収量の安定・多収化や経営の大規模化を実現するためのキュウリ養液栽培技術の確立（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業）                    | 県単       | 令4<br>～<br>令6  | 吉留 悠太                   | 野菜部で行われているキュウリの養液栽培において、給液及び排液を分析し、養分吸収特性の把握を行った。また、適切な給液の組成と濃度について検討し、今後の栽培試験や肥培管理試験等において参考となる知見が得られた。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 9. 養液栽培での簡易な培養液管理法の確立と宮崎県に適した培養液処方の検討                                               | 県単       | 令2<br>～<br>令6  | 吉留 悠太                   | キュウリの夏秋作型及び促成作型で、キュウリの養液栽培試験を行い、高温期の養液の昇温抑制対策などに向けて、システムに一部改良を加えた。<br>各作型の生育ステージ毎の吸肥特性についていくつかの知見を得ることができ、今後の養液管理を考察・検討する上での重要な手がかりを得ることができた。                                                                                                                                                                                                                                       |

#### 4) 生物環境部

| 試験研究課題等                                  | 試験<br>区分 | 研究<br>期間  | 試験研究者<br>所属・氏名                                                     | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------|----------|-----------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 病虫害発生予察事業                             | 県単補助     | 昭16～      | 櫛間 義幸<br>後藤 弘<br>小窪 正人<br>竹原 剛史<br>下大園佳由<br>工藤 英志<br>伊藤慎一郎<br>日高 透 | 予察灯や各種トラップ調査により普通作物、畑作、野菜及び果樹の指定害虫の発生活消長を調査し、データを病虫害防除・肥料検査センターに提供した。果菜類や花き類を中心とした各種病虫害の診断や薬剤感受性検定を実施するとともに、簡易ウイルス診断技術の開発・改良・普及に取り組んだ。                                                                                                                      |
| 2. 新農薬の適応性試験                             | 受託       | 昭50～      | 櫛間 義幸<br>後藤 弘<br>小窪 正人<br>工藤 英志<br>竹原 剛史<br>下大園佳由<br>伊藤慎一郎<br>日高 透 | 農薬の登録・適用拡大に資するため、殺菌剤（サツマイモ基腐病14件のほか稲こうじ病、うどんこ病、つる枯病、炭疽病等）13件、殺虫剤（ツマジロクサヨトウ類、センチュウ類等）23件について防除効果等確認試験を実施した。<br>また、九州各県相互の連絡試験により、水稻、サトイモについての体系利用における防除効果を検討し、各薬剤の特性等有効な知見が得られた。                                                                             |
| 3. 先端技術を活用した省力化防除技術の開発                   | 県単       | 令4～<br>令6 | 竹原 剛史<br>小窪 正人<br>日高 透<br>後藤 弘<br>櫛間 義幸                            | ドローンを活用したカンショにおける生育観測及び基腐病の早期診断については、精度向上が必要であった。<br>カンショのドローン散布体系において、通常散布と比較し、省力化及び同等の防除効果が認められた。<br>作終了後のキルパー液剤処理での期間短縮について検証し、処理期間の短縮が可能であることを確認した。<br>また、常温煙霧機(有光工業製 SLVH-7N)を用い農薬登録拡大に向けた試験を実施したが、キュウリつる枯病の発生がなく効果は判然としなかった。                          |
| 4. 果樹類における難防除病虫害防除技術の確立                  | 県単       | 令4～<br>令6 | 工藤 英志<br>後藤 弘                                                      | ライチのカイガラムシ類に対して、マシン油乳剤の効果はカイガラムシ類の発生が少なく判然としなかったが、落葉の助長は認められなかった。<br>カンキツ害虫に対し、DMTP剤の代替剤としてPAP乳剤、スルホキサフロル水和剤の効果を検討した。葉害は認められなかったものの、カイガラムシ類の発生が少なく効果は判然としなかった。<br>カンキツそうか病に対し、ドローンによる省力防除法を検討した。春葉では地上散布と同等の防除効果が認められたが、果実では地上散布と同等の効果がみられる一方で、効果の劣る事例があった。 |
| 5. キルパー液剤の高濃度処理方法とミナミキイロアザミウマに対する防除効果の検討 | 受託       | 令4        | 竹原 剛史<br>小窪 正人<br>後藤 弘                                             | ミナミキイロアザミウマの防除対策としてキルパー液剤の高濃度少量散布による防除効果と休作期間短縮の可能性を確認した。                                                                                                                                                                                                   |
| 6. 侵入害虫トマトキバガに対する診断・発生予測手法の確立と防除技術の開発    | 国庫       | 令4～<br>令6 | 竹原 剛史<br>後藤 弘                                                      | 令和3年度に県内で新たに確認されたトマトキバガに対し、関係機関と協力して県内の発生活消長や寄主植物について明らかにするとともに、トマト幼苗を用いた室内試験により有効薬剤について明らかにした。                                                                                                                                                             |

#### 4) 生物環境部－2

| 試験研究課題等                                    | 試験<br>区分 | 研究<br>期間       | 試験研究者<br>所属・氏名         | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------|----------|----------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7. 施設園芸の主要病害発生予測AIによる総合的病害予測・防除支援ソフトウェアの開発 | 国庫       | 平30<br>～<br>令4 | 小窪 正人<br>日高 透<br>櫛間 義幸 | キュウリべと病について、病害予測システムに基づいた農薬散布と慣行防除歴に基づいた農薬散布の比較を行った。病害発生予測システムにおけるべと病の発生リスクは試験期間中低く推移しており、一定の予測精度はあるものと推察された。                                                                      |
| 8. ツマジロクサヨトウの効率的な発生予察技術と防除対策技術の開発          | 国庫       | 令2<br>～<br>令4  | 竹原 剛史<br>後藤 弘          | 飼料用トウモロコシの被害が懸念されるため、防除に有効な薬剤のスクリーニングを行った結果、パダン等が有効であることを再確認した。また、防除の省力化を図る観点から播種時の種子処理剤について検討し、有効であることを確認した。                                                                      |
| 9. かんしょ輸出産地を支えるサツマイモ基腐病総合的防除体系の開発          | 国庫       | 令4<br>～<br>令6  | 櫛間 義幸<br>後藤 弘<br>小窪 正人 | 基腐病の発生地域において、本圃の土壌消毒及びアミスターフロアブル等の生育期防除体系の実証試験を行い、いずれも一定の発病抑制効果が確認された。土壌消毒ではバスアミド微粒剤の混和後全面被覆が、生育期防除では定植後約1ヶ月頃からの防除が効果が優れる傾向であった。また土壌還元消毒を行った場内苗床で育苗試験を行った結果、基腐病の発生を低く抑え防除効果が確認された。 |
| 10. 急傾斜地の超省力化に向けた小型農業ロボットシステムの開発           | 国庫       | 令4<br>～<br>令6  | 後藤 弘<br>櫛間 義幸          | 1. 農薬の登録拡大意向のある3剤（殺虫剤）について、登録拡大及び防除暦作成のための防除試験を行い、各薬剤の有効性を確認した。<br>2. ドローン防除に最適な樹形について、愛媛大学及び東臼杵農林振興局（農業改良普及センター）と共同で、データの収集を行った。                                                  |

## 5) 生物工学部

| 試験研究課題等                                                   | 試験   | 研究             | 試験研究者                      |                            | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------|------|----------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                           | 区分   | 期間             | 所属・氏名                      |                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 1. 優良種苗増殖対策事業（儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業）                       | 県単補助 | 平15<br>～<br>令7 | 早<br>武                     | 早<br>貴<br>宣                | かんしょ、ラナンキュラス等のメリクロン苗の基核株として培養物の維持を行うとともに、ピーマン台木用親系統を含めてバイオテクノロジー種苗増殖センターへ培養苗と種子の供給を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 2. 生産者・実需者ニーズのワンランク上を目指したランクアップ育種                         | 県単   | 令2<br>～<br>令6  | 早<br>武                     | 早<br>貴<br>宣                | 作物部で育成中のいもち病抵抗性遺伝子を持つ「ミナミユタカ」の交雑後代について、DNAマーカー検定に基づいた個体選抜を行った。アポミクスが懸念されるため、自殖後代で「ひ系125型（ホモ型）」、戻し交雑後代で「ヘテロ型」の選抜を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 3. 宮崎の未来を拓く緑ピーマンF <sub>1</sub> 品種の育成                      | 県単   | 令3<br>～<br>令7  | 武<br>田<br>福<br>岡           | 和<br>宣<br>千<br>穂           | 緑ピーマンの親系統となり得る新たな薬培養固定系統の作出と評価を進めた。<br>また、薬培養固定系統を親系統に用いた緑ピーマンF <sub>1</sub> を139系統作出するとともに、作出F <sub>1</sub> 系統の一次選抜により15系統を選抜した。そして、一次選抜F <sub>1</sub> 系統のうち12系統について、露地栽培による評価を行い、2系統を選抜し、昨年度選抜された候補F <sub>1</sub> 系統1系統と合わせて野菜部の栽培試験に供試した。<br>さらに、「みやざき台木5号」「台ひなた」のL <sub>4</sub> 化を目的として、両品種の種子親「KLDH89（L <sub>3</sub> ）」にL <sub>4</sub> 型の育種素材を交配してF <sub>1</sub> を作出し、得られたF <sub>1</sub> をKLDH89で戻し交雑を進め、F <sub>1</sub> BC <sub>4</sub> F <sub>1</sub> を作出した。 |
| 4. 次世代ピーマン病害抵抗性品種の育成                                      | 県単   | 平30<br>～<br>令4 | 福<br>元<br>武<br>田<br>早<br>日 | 啓<br>和<br>宣<br>介<br>和<br>貴 | 防除の省力化につながるピーマン黒枯病、斑点病抵抗性品種を育成するため、ジーンバンクより入手したトウガラシ遺伝資源を用いたピーマン黒枯病、斑点病の抵抗性育種素材の探索により、抵抗性候補13系統（黒枯病5系統、斑点病8系統）を選抜した。<br>また、ピーマン立枯病抵抗性台木品種育成のため、抵抗性育種素材の探索により、抵抗性候補3系統を選抜した。                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 5. バイオテクノロジーによる花き類の新品種の育成及び新たな苗供給技術の開発                    | 県単   | 令元<br>～<br>令5  | 早<br>日<br>徳<br>満<br>杉<br>村 | 早<br>貴<br>理<br>佳<br>和<br>実 | ラナンキュラスについては、県内の民間育種家の協力の下、2020年に胚珠培養により得られた植物体22系統を形質確認調査に供した。また2022年に選抜した胚珠培養由来の系統について茎頂培養を行い培養物を得た。<br>薬培養による固定系統作出のため、17品種・系統から381個の植物体を確保した。また2018～2021年に薬培養で得られた4品種40系統を形質確認調査に供した。<br>効率的な無菌球根の作出技術開発のため、5品種について20℃と16℃での16時間日長条件下で調査した結果、4品種で球根化程度が高いことを確認した。<br>ホオズキについては、ウイルスフリー培養苗に2種の弱毒ウイルスを接種した培養物が、ウイルス検定により弱毒ウイルスへ感染していることを確認した。培養物を増殖後、地下茎を確保し防除効果確認調査を行う現地に供給した。                                                                                  |
| 6. 宮崎トロピカルフルーツの経営安定に向けた優良系統の供給システムの開発                     | 県単   | 令元<br>～<br>令5  | 杉<br>村<br>徳<br>満           | 和<br>実<br>理<br>佳           | ライチの簡易挿し木手法の開発のため、低コストな微生物資材の利用条件の検討を行ったところ、二酸化炭素が高い濃度で長期に維持される効果を確認した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 7. ピーマン台木を加害するネコブセンチュウの同定とネコブセンチュウ抵抗性F <sub>1</sub> 台木の育成 | 県単   | 令2<br>～<br>令6  | 福<br>元<br>武<br>田           | 啓<br>和<br>宣<br>介<br>和      | 線虫抵抗性ピーマン台木を加害する線虫に対して、抵抗性を示す育種素材の探索により、抵抗性候補10系統を選抜した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 8. 生産性向上に向けたピーマンハイワイヤー栽培技術の確立                             | 県単   | 令元<br>～<br>令5  | 武<br>田<br>福<br>岡           | 和<br>宣<br>千<br>穂           | 大型赤カラーピーマン「15-277」のL <sub>3</sub> 化を目的として、「15-277」の種子親「KG94（L <sub>1</sub> ）」にL <sub>3</sub> 型の育種素材を交配してF <sub>1</sub> を作出し、得られたF <sub>1</sub> をKG94で戻し交雑を進め、F <sub>1</sub> BC <sub>5</sub> F <sub>1</sub> を作出した。                                                                                                                                                                                                                                                  |

## 5) 生物工学部－2

| 試験研究課題等                                                                                    | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名          | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9. 植物遺伝資源の<br>収集・保存・提供<br>の促進                                                              | 国庫       | 令3<br>～<br>令7 | 武田 和宣<br>福元 啓介          | ベトナム・キルギス・日本で収集したトウガラシ遺伝資源を用いて、青枯病菌による接種検定を行った。またこれまでに抵抗性を示した系統の2次検定を行い強度抵抗性系統を選抜した。<br>ベトナム・キルギス・日本で収集したトウガラシ遺伝資源等を用いて、サツマイモネコブセンチュウ2系統による接種検定を行った。また、これまでに抵抗性を示した系統の2次検定を行い、強度抵抗性系統を選抜した。<br>ベトナム北部において植物遺伝資源探索を実施し、95点を収集した。                                                 |
| 10. 土地利用型農業<br>産地再編・強化対<br>策事業                                                             | 県単<br>補助 | 令4<br>～<br>令6 | 早日 早貴<br>武田 和宣          | 作物部育成の水稲原々種の異品種混入対策として、DNAマーカーによる確認を行った。検定の結果、2022年度採種の「ちほのかおり」について、DNAコントロールと異なるバンドパターンが確認されたため、作物部へ報告し、対応の検討を進めた。                                                                                                                                                             |
| 11. 中山間地域にお<br>ける種苗安定供給<br>を含めた野菜・花<br>き産地育成・拡大<br>技術確立（マーケ<br>ット対応型産地競<br>争力強化技術開発<br>事業） | 県単       | 令4<br>～<br>令6 | 早日 早貴<br>徳満 理佳<br>杉村 和実 | 花き部で選抜中のラナンキュラスの先行販売新品種について、形質確認に供するため、ウイルスフリー候補である再茎頂培養7系統計56株と、対照品種5系統計15株の合計71株を花き部に供給した。<br>耐暑性リンドウについて、現地試験で選抜されたM1由来の4系統とM2由来の6系統の計10系統を維持し、M1-20の2系統は鉢物候補として維持した。白M2-8の4系統は花色の確認のため維持し、合計16系統を維持した。<br>諸塚系リンドウについて、現地試験で選抜された4系統の培養を行い、葉片培養で11個の系統を確保し、腋芽培養で23個の系統を確保した。 |
| 12. 地域農業技術開<br>発試験<br>（ピーマン台木の<br>病虫害抵抗性評価）                                                | 受託       | 令4            | 武田 和宣<br>福元 啓介          | 住化農業資材株式会社のピーマン台木4品種の青枯病・疫病・線虫抵抗性（線虫2系統）に対する抵抗性の有無を明らかにした。                                                                                                                                                                                                                      |
| 13. ピーマンの低温<br>多収性品種育成に<br>向けた評価手法と<br>育種素材の探索<br>（みやざき農水産<br>業基礎研究体制強<br>化事業）             | 県単<br>補助 | 令4            | 武田 和宣<br>福岡 千穂          | 低温多収性が示唆されている市販品種「エコグリーン」の薬培養固定系統を、新たに40系統作出・採種した。<br>また、低温多収性が期待される薬培養固定系統106系統について、通常温度管理下と低温管理下の両試験に供試し、比較した結果、「FW66」は、低温多収性の優良系統であることが示唆された。                                                                                                                                |
| 14. ウイルスフリー<br>かんしょ苗の供給<br>によるサツマイモ<br>基腐病の発症抑制<br>（みやざき農水産<br>業基礎研究体制強<br>化事業）            | 県単<br>補助 | 令4            | 早日 早貴<br>福岡 千穂<br>杉村 和実 | 供給系統である9品種11系統のSPLCV（サツマイモ葉巻ウイルス）の感染の有無を調査した結果、3品種3系統で薄いバンドが確認されたが、バンドが薄く、再現性がないため擬陽性の可能性を否定できない状況であった。<br>また、SPLCV感染の有無がサツマイモ基腐病への感染に影響するか、露地ほ場で調査。SPLCV感染の有無に関わらず初発の時期は同じであった。さらに、供試品種「べにはるか」で異形質の発生が問題となり、生育差の比較が困難となったため、試験を中止した。                                           |

## 6) 作物部

| 試験研究課題等                                                                                            | 試験<br>区分 | 研究<br>期間  | 試験研究者<br>所属・氏名                                                                   | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 奨励品種決定調査及び原々種生産<br>1) 水稻奨励品種決定調査<br><br>2) 麦類の奨励品種決定調査<br><br>3) 大豆の奨励品種決定調査<br><br>4) 水稻の原々種生産 | 県単       | 昭28～      | 小島 雄太<br>押川 純二<br><br>加治佐光洋<br>柳田 健志<br><br>加治佐光洋<br>柳田 健志<br><br>小島 雄太<br>押川 純二 | 1) 早期水稻は「宮崎56号」、「越南305号」の2系統、普通期水稻は「南海187号」、「南海188号」、「南海189号」の3系統について本試験にて調査し、「南海188号」、「南海189号」を継続検討とした。<br><br>2) 小麦は、パン用硬質小麦として「せときらら」及び「はるみずき」を予備調査に供試し、継続検討とした。大麦・裸麦は、「西海裸糯2号」を供試し、継続調査とした。<br><br>3) 「九州185号」及び「九州187号」、「四国46号」、「フクユタカA1号」を供試し、全て継続検討とした。<br><br>4) 原々種生産は、水稻4品種34aの原々種圃を設置し、原種圃用に必要な種子を生産し配布した。                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2. 新除草剤の適応性試験                                                                                      | 受託       | 昭50～      | 柳田 健志<br>加治佐光洋                                                                   | 早期水稻（移植）10剤、普通期水稻（乾田直播）15剤について除草効果、薬害等を調査し、いずれも適応性が認められた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 3. 大規模経営体に向けた超省力化稲作体系の確立<br>1) 水稻の作況解析試験（早期・普通期）<br><br>2) マット式湛水直播栽培技術の確立                         | 県単       | 令3～<br>令5 | 加治佐光洋<br>柳田 健志<br><br>加治佐光洋<br>柳田 健志                                             | 1) 本年産水稻の作柄は、収量が488kg/10aで作況指数は「98」の「やや不良」となった。早期水稻は5月は日照不足であったものの、気温は高めに推移していたため、穂数は「平年並み」となり、6月上旬が多照であったことや出穂期前後も高温多照であったことから、全もみは「多い」となった。全もみ数が多いことと7月以降の高温による影響や7月中旬の降雨と日照不足によるいもち病もみられたため、登熟は「やや不良」となった。10aあたり収量は502kgで作況指数「104」の「やや良」となった。普通期水稻は、分けつ期の7月中旬が平年に比べ日照不足で推移し、分けつが抑制され穂数が「少ない」となった。8月上旬が高温、多照で推移したことや穂数が少ないことによる補償作用から1穂あたりもみ数は「やや多い」となったが、全もみ数は「少ない」となった。9月上旬の日照不足や台風14号の影響はあったが、9月下旬以降、高温、多照に推移したため、登熟は「やや良」となった。10aあたり収量は480kgで作況指数「95」の「やや不良」となった。<br><br>2) 育苗マットと田植機を用いた湛水直播栽培の技術確立に取り組んだ。苗立までに鳥害により多くの欠株が生じたが、各品種とも一定の生育量は確保できた。 |

## 6) 作物部－2

| 試験研究課題等                                   | 試験<br>区分 | 研究<br>期間 | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------|----------|----------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3) スマート農業<br>技術の地域適応<br>性の評価及び導<br>入効果の確認 |          |          | 加治佐光洋<br>柳田 健志 | 3) 直進アシストトラクターで、熟練者及び未熟練者ともにアシスト有りの作業時間・労働費が削減を確認した。<br>直進アシスト田植機で、未熟練者でも熟練者並みの作業時間と精度で作業が可能になることを確認した。<br>収量食味コンバインで測定した籾重とタンパク質含量については、メーカー公表の設計精度内の数値で一定の精度が確認された。籾水分については、設計精度を超えた数値を確認した。<br>自動給水栓を活用した水管理は、手動給水栓に比べ、51%の作業時間削減効果が認められた。また飽水管理により出穂後20日間の地温・穂周辺温度も、手動給水栓と比べ、 $-0.1^{\circ}\text{C}$ ～ $-1.2^{\circ}\text{C}$ 低くなった。<br>ドローンによる除草・防除効果は特に問題はなく、作業時間も従来の方法と比べ粒剤で56、液剤で90%と大幅に削減できた。<br>スマート農機を体系的に活用した場合、慣行の農機体系より作業時間が34.1%削減された。 |
| 4) 新規需要米等<br>の収量レベルア<br>ップ技術の確立           |          |          | 加治佐光洋<br>柳田 健志 | 4) 早期及び普通期に適する飼料用米品種としていもち病に強く多収が期待できる「南海飼190号」を選定し、試験結果を基に栽培マニュアルを作成した。<br>宮崎52号の上旬移植では出穂25日前に穂肥窒素3kg/10aで多収になる傾向があり、下旬移植では穂肥窒素5kg/10aで多収となった。元肥窒素7kg/10a、穂肥窒素5kg/10aで最も多収になる傾向にあり収益性も高い。<br>普通期水稻向けの業務用米品種として、「南海187号」、「南海188号」、「南海189号」の比較を実施したが、台風14号の被害を受け、データが得られなかった。                                                                                                                                                                          |
| 5) 中干し延長が<br>水稻の収量等に<br>与える影響の検討          |          |          | 柳田 健志<br>加治佐光洋 | 5) 主食用米及び加工用米、業務用米において中干し延長試験を実施し、早期及び普通期ともに茎数や穂数が減少した。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

## 6) 作物部－3

| 試験研究課題等                                                             | 試験<br>区分 | 研究<br>期間       | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------|----------|----------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4. 生産者・実需者ニーズのワンランクアップ上を目指したランクアップ育種                                | 県単       | 令2<br>～<br>令6  | 押川 純二<br>小島 雄太 | 普通期水稻では、食味が非常に良くいもち病に強い「南海192号」を育成した。収量などの詳細な調査を行う有望系統として、早期1系統、普通期2系統を選抜した。<br>飼料用米新品種「ひなたみのり」（南海飼190号）の品種登録を出願した。<br>「ミナミユタカ」へのいもち病抵抗性導入のため、マーカー保有個体の選抜と戻し交雑を実施し、その後選抜個体による自殖を行った。                        |
| 5. 新しい肥料・資材・施肥法による栽培技術の確立                                           | 受託       | 令4             | 柳田 健志          | 被覆崩壊性の高い被覆肥料について、慣行の肥料と比較し、収量や食味等が同等であることを確認した。                                                                                                                                                             |
| 6. 地域農業技術開発試験（新稲作研究会事業）                                             | 受託       | 令2<br>～<br>令4  | 加治佐光洋          | 前年の幼穂形成期のリモートセンシングデータを利用した可変施肥機能付乗用田植機による可変基肥施肥は、ほ場内のばらつきを改善し倒伏を軽減するなど、地力差による生育ムラを修正できる技術として、年次変動を含め一定の効果が確認された。                                                                                            |
| 7. 稲民間育成品種の特性検定試験                                                   | 受託       | 令4<br>～<br>令5  | 押川 純二          | 民間が育成した水稻3品種の特性検定試験（高温登熟）評価により品種特性を明らかにした。                                                                                                                                                                  |
| 8. 雑草イネの効果的防除法の開発                                                   | 国庫       | 令元<br>～<br>令5  | 押川 純二<br>加治佐光洋 | 本県でも発生が確認されている雑草イネについて、発生動態調査と除草剤体系の検討を行った。<br>播種後2年で生存する種子は宮崎・長野産共に確認できなかった。表面播種は、播種後2週間で85%以上出芽した。<br>出芽が早い条件下では、除草剤の処理時期の早いほど効果が高い傾向が見られた。<br>除草剤体系について、前年度発生程度が無～微程度なら2剤体系でも防除が可能と思われた。除草マニュアルの初稿を作成した。 |
| 9. 持続可能なみやざきグリーン農業構築事業（消費・安全対策交付金）                                  | 国庫       | 平28<br>～<br>令4 | 柳田 健志<br>加治佐光洋 | カドミウム低吸収性イネ「コシヒカリ環1号」は、「コシヒカリ」より長稈で穂長も長く倒伏程度が大きくなった。わらのMn濃度は低く、ごま葉枯様が目立った。3湛4落は玄米・わらのヒ素濃度が低く、収量は慣行の水管理より多収となった。                                                                                             |
| 10. 土地利用型農業再編強化事業                                                   | 県単<br>補助 | 令4<br>～<br>令6  | 小島 雄太<br>押川 純二 | 「コシヒカリ」、「夏の笑み」、「宮崎52号」、「ヒノヒカリ」、「さやかもち」、「ちほのかおり」の6品種の原原種について、DNA検定によりDNA変異の有無を確認した。<br>採種ほ場審査に、種子審査員として参画した。                                                                                                 |
| 11. 水稻・小麦・大豆の栽培管理支援システムVer.3とメッシュ農業気象データ取得ツールの開発（国際競争力強化技術開発プロジェクト） | 国庫       | 令4             | 加治佐光洋          | 農研機構が開発する発育予測API等の実用性について、「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」で検証し、システムの改良に参画した。                                                                                                                                                |

## 7) 野菜部

| 試験研究課題等                                                          | 試験<br>区分 | 研究<br>期間  | 試験研究者<br>所属・氏名                  | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------|----------|-----------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 優良種苗増殖対策事業（儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業）                              | 県単補助     | 平15～      | 中村 光彩<br>沖野圭志朗<br>沼田 晴香         | 本県で育成した黒皮カボチャ、ニガウリを中心に種子の採種、遺伝資源保存用の採種、株保存等を行った。                                                                                                                                                                                                                     |
| 2. 多収・省力化技術の構築に向けた主要果菜類における生育反応等の解析                              | 県単       | 令3～<br>令7 | 力武 弘<br>沼田 晴香                   | 半促成ピーマンについて、樹液流を測定し、日射量、飽差との関連性がみられ、吸水量を推定した。                                                                                                                                                                                                                        |
| 3. 生産性向上に向けたピーマンのハイワイヤー栽培技術の確立                                   | 県単       | 令元～<br>令5 | 力武 弘<br>相見 直人                   | 養液・ハイワイヤー栽培における給液量や給液濃度についてデータ集積するとともに、3品種を比較し、草勢の強い「京まつり」で増収することを確認した。                                                                                                                                                                                              |
| 4. 高軒高ハウスにおける最先端管理技術の構築                                          | 県単       | 令2～<br>令6 | 相見 直人<br>沖野圭志朗                  | キュウリについて、品種、培地（ロックウール、ヤシ殻）による収量、生育の比較を行った。ピーマンについては品種比較による収量・生育の比較を行った。また環境データを収集し、データ集積を行った。                                                                                                                                                                        |
| 5. 拡大品目における新品種育成と安定生産のための栽培技術の確立                                 | 県単       | 令2～<br>令6 | 中村 光彩<br>沖野圭志朗<br>沼田 晴香<br>力武 弘 | イチゴの育種では、新しく炭疽病抵抗性を有する25系統を選抜した。<br>また、宮崎農試方式高設栽培において本県主要品種である「さがほのか」の栽培方法で栽培したときの、他県等育成2品種の栽培特性を整理した。<br>ニガウリの育種において、これまで固定化を進めてきた新系統（露地用・施設用）を、それぞれ既存系統と掛け合わせ、F <sub>1</sub> 種子を得、複数の組み合わせは「宮崎つやみどり」と同程度の収量であった。<br>ズッキーニにおいて、品種の違いが、トマトトーン使用後の正常果率に及ぼす影響について確認した。 |
| 6. 宮崎の未来を拓く緑ピーマンF <sub>1</sub> 品種の育成                             | 県単       | 令3～<br>令7 | 沼田 晴香<br>力武 弘                   | 一次選抜F <sub>1</sub> 系統のうち4系統を促成栽培の2次選抜に供試し、「京鈴」より収量性の高い系統として「20-28」を選抜した。                                                                                                                                                                                             |
| 7. 地域農業技術開発試験（宮崎県産樹皮を利用した固化培地によるピーマン等の養液栽培技術開発）                  | 受託       | 令3～<br>令4 | 黒木 正晶<br>力武 弘                   | 県産杉樹皮を利用した有機培地（2年目）を用いて栽培し、3月末時点で各区ともに生育に大きな差はなかったが、収量は有機培地が対象区よりやや低くなる傾向となった。                                                                                                                                                                                       |
| 8. 収量の安定・多収化や経営の大規模化を実現するためのキュウリ養液栽培技術の確立（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業） | 県単       | 令4～<br>令6 | 相見 直人<br>沖野圭志朗                  | 慣行の促成栽培に夏秋栽培を組み合わせた周年栽培を実施し、草勢の強い品種の促成作、夏秋作の養液栽培に適した品種の収量・生育比較を行い、更新つる下ろしの収量が高い傾向が見られた。                                                                                                                                                                              |

## 7) 野菜部－2

| 試験研究課題等                                                     | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名         | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                         |
|-------------------------------------------------------------|----------|---------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 9. 中山間における種苗安定供給を含めた野菜・花き産地育成・拡大技術確立（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業） | 県単       | 令4<br>～<br>令6 | 力武 弘<br>相見 直人<br>沖野圭志朗 | 夏秋ピーマンの露地ほ場3箇所及び雨よけハウス1箇所の生育状況を調査し、現地での課題を整理した。<br>露地、雨よけほ場ともに整枝管理の簡便化が課題であることが明らかになった。 |
| 10. 施設野菜の生育収量予測APIにおける多品目対応技術の開発（国際競争力強化技術開発プロジェクト）         | 国庫       | 令3<br>～<br>令4 | 相見 直人<br>力武 弘          | キュウリ7品種について葉面積等の生育調査を行い、日射量等の環境データを農研機構にて分析し、予測収量と実際の収量の比較を行った。<br>生育収量予測APIの予測精度が向上した。 |

## 8) 花き部

| 試験研究課題等                                                                                                                                  | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名         | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 優良種苗増殖対策事業（儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業）                                                                                                      | 県単<br>補助 | 平15<br>～      | 中村 広<br>本田由美子<br>田村 瑞紗 | 本県で育成したスイートピー、デルフィニウムの種子の採種、交配用親株の採種を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 2. 時代のニーズに対応したみやざきオリジナル品種の育成<br><br>1) 新しい形質を有した品種の育成<br><br>2) 生産性の高い品種の育成と選抜                                                           | 県単       | 令4<br>～<br>令8 | 田村 瑞紗<br>本田由美子<br>中村 広 | 新しい形質を有したスイートピー品種の育成として、省力性無巻きひげ品種1系統、難落蕾性1系統品種、刷毛目模様の新奇花色3系統について育成した。<br><br>エラータム系デルフィニウムの育成では、交配親として形質が優れ、1番花、2番花とも開花の早い系統を選抜した。青色、ピンク色の各1品種を有望系統に選び現地試験を行い、いずれも良好の評価を得た。                                                                                                                                                                                           |
| 3. 本県主力花きにおける革新的技術開発<br><br>1) スマート化に向けた環境制御技術の開発<br><br>2) 労力軽減に向けた省力技術の開発<br><br>3) 気候変動に対応した安定生産技術の開発<br><br>4) アフターコロナに対応した安定生産技術の開発 | 県単       | 令4<br>～<br>令7 | 本田由美子<br>田村 瑞紗<br>中村 広 | ① 秋ギク「神馬」の12月出荷作型において、炭酸ガス施用による品質向上効果を確認したが、より効率的な施用方法の検討が必要と思われた。スイートピーにおいては炭酸ガス施用×追肥2培区で品種によって切り花本数の増加や12月までの規格発生本数が優れたが、栽培後半の草勢が時でなかった。<br><br>① 無側枝性ギク「立神」と「冬馬」の開花特性を検討したところ、低温管理で開花遅延が見られず、低温開花性のキクとして有望と思われた。<br><br>① スイートピーについて環境ストレス耐性資材について揮発性資材の効果が品種によって確認された。<br><br>① 洋ギク9品種の特性を11月と4月開花作型で検討した。輪ギクよりも草丈の伸びが良く開花も早かったことから、洋ギクを導入することで場回転率の向上が見込まれると思われた。 |

## 8) 花き部－2

| 試験研究課題等                                                                                           | 試験<br>区分 | 研究<br>期間 | 試験研究者<br>所属・氏名                                   | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>4. 戦略花きにおける安定生産技術開発事業</p> <p>1) 安定生産技術の開発</p> <p>2) 健苗育苗技術の開発</p> <p>3) 気候変動に対応した安定生産技術の開発</p> | 県単       | 令4～令6    | <p>中村 広<br/>本田由美子<br/>田村瑞紗<br/>安田早紀<br/>久保知佳</p> | <p>① ラナンキュラスの促成栽培において遠赤色光電球および白熱電球で長日処理を行った結果、自然日長区よりも1番花の開花が促進した。</p> <p>② ラナンキュラスの促成栽培において自動かん水同時施肥の液肥施用間隔の検討を行った結果、1番花の開花は、慣行区よりも施用間隔の狭い週3回区、週2回区で早まり、全期間を通した切り花形質に差はなかった。</p> <p>③ ブルーフレグランスの長日処理において効果的な光源の波長について検討を行った結果、赤色光は開花促進に、遠赤色光は節間伸長に効果があることが明らかとなった。</p> <p>① ラナンキュラスの庫内電照時に拡散フィルムの有無による光の均一性をシミュレーションし、拡散フィルムによって光を均一に照射できることを確認した。苗への影響を調査した結果、株あたりの展開葉数、草丈長に差はなく、どちらも十分な苗質であった。</p> <p>② ラナンキュラスの球根の適切な保管湿度を検討した結果、スタンダード系は低湿および中湿がよく、ラックス系は中湿が適した。</p> <p>③ ホオズキ実生苗の育苗トレーを用いた地下茎養成において、播種時期と栽植密度を検討した結果、9月30日播種は9月2日播種より地下茎定植後の生育が優れ、9月30日播種のうち密植区で4.0mm以上の地下茎が多く確保できた。</p> <p>④ ホオズキの地下茎養成期間と地下茎掘りあげ後の低温遭遇期間を検討した結果、低温遭遇期間の短い区で伸長異常やロゼットが見られたことから、地下茎定植後の伸長異常については、低温遭遇量の不足が原因と考えられた。</p> <p>⑤ ホオズキ定植時の地下茎の太さが切り花形質に及ぼす影響を確認した結果、4.0mm以上の地下茎で切り花長、結実茎長、総節数および着実数が優れた。</p> <p>⑥ ホオズキ実生苗のほ場での地下茎養成では、地下茎の確保量については、8月25日定植区と9月24日定植区で差がなかったが、地下茎定植後の初期生育は9月24日定植区由来の地下茎が優れ、4.0mm以上の地下茎本数も多くなった。</p> <p>① ラナンキュラスの定植後から細霧冷房を稼働した結果、慣行区よりもハウス内気温が低下したものの1番花の開花日に差は見られなかった。また、定植から2ヶ月後の欠株数は慣行区よりも細霧冷房区で少なかった。</p> <p>② ラナンキュラスの球根冷蔵の芽出し時に昼光色LEDを照射した結果、芽出し時の苗の質も良く、定植後の芽焼けや1番花の奇形花の発生が少なかった。</p> |

## 8) 花き部－3

| 試験研究課題等                                                                                                            | 試験<br>区分 | 研究<br>期間       | 試験研究者<br>所属・氏名                 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>5. 中山間地域の特性を活かした収益性の高い園芸品目生産技術確立（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業）</p> <p>1) リンドウの栽培技術開発</p> <p>2) ラナンキュラスの高品質・栽培技術の開発</p> | 県単       | 令4<br>～<br>令6  | 安田 早紀<br>中村 広<br>日野 宏俊         | <p>立性小葉でうどんこ病に抵抗性があるダリアの有望系統について密植適性および地域適応性について検定を行い、有望2系統について品種化することとした。</p> <p>① えびの市の現地試験ほ場で耐暑性リンドウの開花1年目の特性を調査し、一次選抜で5系統に選定した。</p> <p>② 高千穂町の現地ほ場でリンドウの収穫方法の違いによる影響を調査した結果、切り花品質や規格外を除く株あたりの本数に差はなかったが、全茎収穫区は翌年の萌芽数が減少した。今後は、2年目の影響を継続して調査する。</p> <p>① 高千穂町の現地ほ場でラナンキュラスのハウス内の温度、湿度、炭酸ガス濃度の測定し、低コストで容易に組み立てが可能な細霧冷房装置を作り稼働した結果、ハウス内気温の低下を確認した。</p> <p>② ラナンキュラスの陰性培養物（県オリジナル5品種7系統、ラックス系4品種7系統、モロッコ系8品種10系統）の形質を確認し正常な系統を選抜した。次年度も継続して当該系統の形質確認を行う。</p>                                                                                                |
| 6. うどんこ病抵抗性と密植栽培適性を兼備し施設栽培に適したダリア切り花用品種の育成                                                                         | 国庫       | 平30<br>～<br>令4 | 久保 知佳<br>黒木 京<br>中村 広<br>日野 宏俊 | 立性小葉でうどんこ病に抵抗性があるダリアの有望系統について密植適性および地域適応性について検定を行い、有望2系統について品種化することとした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 7. 良日持ち性ダリア育成系統の系統適応性・特性検定試験                                                                                       | 国庫       | 令4             | 久保 知佳<br>黒木 京<br>中村 広<br>日野 宏俊 | <p>良日持ち系統5系統について、特性調査および適応性について検討した。いずれの系統も市販品種より日持ち性が優れた。有望な2系統を品種化することとなった。2系統を再検討と判定した。</p> <p>現地実証を行った5品種については、いずれも生産性、日持ち性が優れ、市場評価も高かった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 8. 温暖化による生育障害を回避するLED光閉鎖型花き育苗技術の開発（みやざき農水産業基礎研究体制強化事業）                                                             | 県単       | 令4             | 安田 早紀<br>本田由美子<br>中村 広         | <p>ラナンキュラスで、LED照射の光強度（100と200 <math>\mu\text{mol}/\text{m}^2 \cdot \text{S}</math>照射）で比較し、展開葉数や最大草丈長で200 <math>\mu\text{mol}/\text{m}^2 \cdot \text{S}</math>が優れることを確認した。</p> <p>デルフィニウムで、日長時間（10、12、14時間）比較し、差はなく、十分な育苗を確認した。</p> <p>ラナンキュラスで、冷蔵庫内の空間除菌方法として、次亜塩素酸水と抗菌シリカゲルの効果を検証し、いずれも菌や細菌の減少や、抗菌シリカゲルは効果が安定しないことを確認した。</p> <p>また、ロング肥料（140日タイプ）と液肥を比較し、ロング肥料が萌芽株数や株あたりの展開葉数が優れ、肥培管理時間も約4割削減した。</p> <p>これまで結果を踏まえ、大苗慣行とモデル区（200 <math>\mu\text{mol}/\text{m}^2 \cdot \text{S}</math>の温白色LEDシート・ロング肥料、底面かん水）を比較し、モデル区で株あたりの展開葉数と最大草丈長が優れたが、萌芽株数が少なかった。</p> |

## 9) 果樹部

| 試験研究課題等                                                                        | 試験<br>区分 | 研究<br>期間       | 試験研究者<br>所属・氏名                            | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 温暖化に適応した有望高温性カンキツの低コスト栽培技術開発と新たなカンキツ品目探索</p> <p>1) 施設栽培における栽培管理技術の開発</p> | 県単       | 平30<br>～<br>令4 | 末吉 浩二<br>大西 智康                            | <p>① 「みはや」の根域制限栽培による品質向上及び樹勢コントロールの検討<br/>「みはや」において、葉果比100枚もしくは150枚設定で強めの一時摘果を行うことで、ともに平均果実重180g程度、糖度12.5以上の果実が生産できる。</p> <p>② 「あすみ」の裂果軽減対策<br/>「あすみ」において、満開後110～200日頃までの期間を少量多頻度かん水とすることで、裂果割合を1割程度に削減することができる。</p> <p>③ 「不知火」垣根仕立てにおける垂主枝配置法の比較検討<br/>「不知火」垣根仕立ては、垂主枝の配置を変更しても収量及び果実品質は変わらず、上部に着果した果実は果実重や果実品質が良好となることが示唆された。</p>                                                                                |
| <p>2. 気候変動の影響評価と適応のための果樹栽培技術の確立</p> <p>1) 気候変動による生理障害との関係解明</p>                | 県単       | 令元<br>～<br>令5  | 末吉 浩二<br>大西 智康<br>山名 宏美<br>松浦 祥太<br>宮廻 京平 | <p>① 農地環境推定システムの設置及び気象データ収集、生理障害や生態と気象との関連性分析<br/>温州ミカンの日焼け果発生に関して、日焼けが発生しやすい部位に被覆資材を設置することで発生を抑制する効果が認められた。</p> <p>② 生育予測システム構築<br/>試験場1カ所と県内3カ所の観測地点における極早生ミカンの発芽期・開花始期予測式の精度を確認した。</p> <p>③ 栽培適地評価のための農地環境推定システムデータ解析<br/>都城市内各所のへべス栽培適地について、農地環境推定システムを活用して評価した。<br/>ニホンナシ「凜夏」及び「甘太」は、低温遭遇時間が少ない条件下でも萌芽率が高い。<br/>ブドウ「ピオーネ」において、開花盛期から果粒軟化期までは日平均気温の積算温度にかかわらず40日程度必要であるが、果粒軟化期から着色始期までは平均気温の影響を受けることが判明した。</p> |

## 9) 果樹部－2

| 試験研究課題等           | 試験<br>区分 | 研究<br>期間 | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|----------|----------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2) 気候変動に適応した技術の開発 |          |          | 末吉 浩二<br>大西 智康 | <p>① カンキツの優良系統の育成<br/>接ぎ木個体に着花（果）がみられたが、夏季の過乾燥により落果し、品質評価はできなかった。過年度に得られた実生苗については、接ぎ木苗を育成中である。</p> <p>② ブドウの優良系統の育成<br/>「シャインマスカット」と「キャンベルアーリー」の交配で得られた完全種子138個の中から、黒系の遺伝子型を持つ23個体を選抜した。</p> <p>③ 簡易土壌水分計を活用した水分ストレス制御技術の検討<br/>簡易土壌水分計の簡易設置法と水分計設置による栽培管理の有効性を現地試験で確認した。</p> <p>④ 種なしキンカンの植調剤・根域制限栽培等による結実促進技術の検討<br/>開花14日後にジベレリン10ppmにプロヒドロジャスモン2000倍の混用散布により着果率が向上し、果実肥大が優れた。</p> <p>⑤ ブドウの着色向上技術の検討<br/>「ピオーネ」において、アブシシン酸液剤1000ppmを着色始期に果房散布することで着色が向上する。この処理による果実品質への影響はない。</p> <p>⑥ ナシの生理障害対策技術の検討<br/>「幸水」において、今年は発芽不良の発生が少なく、選抜マメナシ台木と慣行台木の差はなかった。<br/>「蒼月」は7月下旬に収穫可能な極早生の青ナシ品種で、「幸水」より10日以上早く収穫でき、大果で果肉は柔らかく、糖度は12前後となる。</p> <p>⑦ モモ「さくひめ」の収穫適期判断、施設栽培における被覆時期の検討<br/>「さくひめ」の施設栽培において、前年の10月1日以降の7.2℃以下の特別積算時間が700時間を超える1月下旬から2月上旬に被覆することで、露地栽培よりも11日早く収穫を開始できた。</p> <p>⑧ クリの元肥施用時期、せん定時期の検討<br/>「筑波」において、落葉が1割程度の12月にせん定しても次年度の収量に影響がないことを2年連続で確認できた。</p> |

## 9) 果樹部－3

| 試験研究課題等                                                                                                                                              | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3. キウイフルーツ・ナシ等の新樹形による早期成園化技術の確立</p> <p>1) キウイフルーツの新樹形と安定生産技術の確立</p> <p>2) ナシ・カキの早期成園化・省力化技術の確立</p>                                                | 県単       | 令2<br>～<br>令6 | 宮廻 京平          | <p>① 昇降可能な掲揚式支柱による作業の効率化<br/>つり上げ誘引に必要な支柱を固定式からロープを使用した掲揚式にすることで、誘引ひもの昇降に要する作業時間を7割に削減できる。また、台風被害低減対策としても有効である。</p> <p>② 新樹形に適した有望品種の選定<br/>雄品種3種における開花期間及び花粉量を確認した。<br/>また、雌品種6種の開花期間、収穫期の目安となる開花盛期後の日数及び積算温度を確認した。</p> <p>① ナシの流線型及びジョイント仕立て栽培技術の開発<br/>定植6年目の「凜夏」及び「甘太」のジョイント仕立て栽培は、一文字仕立て栽培より10a換算収量で2倍量を確認でき、果実品質は同等となる。</p> <p>② 品種別の適正側枝長、側枝更新技術の検討<br/>3年生側枝の基部へのせん定時期くさび傷処理は、「凜夏」、「あきづき」、「甘太」の不定芽の発生が増加傾向であるが、樹勢が強い「あきづき」、「甘太」は基部が太くなる。<br/>側枝齢別の花芽構成割合を調査した結果、「凜夏」及び「甘太」は、「豊水」と同様に側枝齢2～3年枝を中心とした配置が望ましい。<br/>摘芯処理は、短果枝の芽の新梢長が30cm、葉数13枚程度となる開花盛期後40日に行った場合、同60日及び100日より花芽着生割合が高い。</p> <p>③ カキの低樹高栽培の収量、果実品質比較<br/>定植3年の「太秋」のJVトレリスは、強制開心形と比較して収量性が高い。</p> |
| <p>4. 宮崎の「シャインマスカット」を支える高品質・省力栽培技術の開発</p> <p>1) 本県の気候に適したシャインマスカット根域制限栽培技術の開発</p> <p>2) シャインマスカットにおける高品質栽培技術の開発</p> <p>3) シャインマスカットにおける省力栽培技術の開発</p> | 県単       | 令3<br>～<br>令7 | 松浦 祥太          | <p>① 根域制限栽培に適した土壌条件及びかん水方法の検討<br/>80Lポット栽培において、土壌構成比が牛糞堆肥：山土＝1：4の培土が最も生育が良好であった。</p> <p>② 根域制限栽培に適した台木の検討<br/>ベッド式根域制限栽培において、フラン台とテレキ台の生育に大きな差はなかった。</p> <p>① 果実袋、植調剤等によるかすり症対策の検討<br/>開花前のフルメット処理及びフラスター液剤散布を行ったが、かすり症の発生に差はみられなかった。</p> <p>① 省力的な副梢管理技術の開発<br/>副梢摘除栽培は、副梢管理時間が約半分となり、果実品質への影響もない。フラスター液剤の散布は、一定期間副梢の発生を抑えるが、成熟期後半は副梢発生が増え、作業時間も増加した。</p> <p>② 省力的な無核化処理技術の開発<br/>開花前ジベレリン処理は、花穂の湾曲や焼け症状が発生した。</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |

| 試験研究課題等                                                                                       | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. 大規模生産に向けたカンキツ栽培技術の開発と本県オリジナル品種の育成<br>1) 大規模化等に対応したカンキツ栽培技術の開発<br><br>2) 本県オリジナル温州ミカン新品種の育成 | 県単       | 令4<br>～<br>令8 | 大西 智康<br>山名 宏美 | <p>① ヘベスの省力・安定生産技術の確立<br/>ヘベスにおける垣根密植栽培は、樹冠容積当たりの収量は慣行栽培と同等であったが、10a換算では100kg程度多くなった。密植によるかいよう病の発生助長もなかった。<br/>ヘベスの着花抑制対策として、ジベレリン2.5ppmに展着剤1000倍及びマシン油乳剤60倍を混用散布を行った結果、直花数が有意に減少したが、生理落果後の着果数に差はなく、着果率を高める効果がみられた。</p> <p>② ユズのCTV選抜系統の干渉効果の確認<br/>西米良村で選抜したユズの優良系統について、生育調査を行い、従来系統より生育が良好であることを確認した。</p> <p>③ 極早生温州ミカンの省力・安定生産技術の確立<br/>トロイヤシトレンジ台の「ゆら早生」の双幹形仕立ては、高収量・高品質であった。<br/>コンパクトな樹形づくりを目的としたパクロブトラゾール散布は、「日南1号」幼木の場合、1000倍または2000倍に展着剤を混用散布すると新梢が短くなる効果がみられた。<br/>隔年結果防止を目的とした冬季のジベレリン処理は、連年散布により収穫量の年較差が少なく、通算の収穫量は慣行栽培よりも増加した。</p> <p>① 高糖系温州ミカン新品種の育成<br/>9月出荷で「日南1号」より高品質な系統が4、10月出荷で「肥のあけぼの」より高品質な系統が2あり、それぞれ一次選抜候補とした。</p> <p>② 高糖系品種からの珠心胚実生系統の育成・選抜<br/>「おおいた早生」、「ゆら早生」、「肥のあけぼの」に対し合計2294花交配し、916個の種子を得た。は種後の発芽数は439個体であった。</p> <p>③ 高い機能性成分を有する品種からの珠心胚実生系統の育成・選抜<br/>「山下紅早生」、「小原紅早生」に対し合計822花交配し、677個の種子を得た。は種後の発芽数は476個体であった。</p> |

## 9) 果樹部－5

| 試験研究課題等                                                                                                                                      | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>6. 無核性カンキツ新品種「瑞季」等の全国展開に向けた高品質安定生産及び高度利用技術の確立（イノベーション創出強化研究推進事業）</p> <p>1) 早期成園化技術の開発</p> <p>2) 高品質安定生産技術の確立</p>                          | 国庫       | 令2<br>～<br>令6 | 山名 宏美          | <p>① 早期成園化のための樹形の検討<br/>「瑞季」、「汐里」の双幹形は開心自然形と比較して収量や樹冠容積に有意な差はみられなかった。また、初結果量は、「瑞季」が16kg/樹、「汐里」が19kg/樹であった。</p> <p>② 植調剤を活用した花芽抑制による新梢発生促進技術の開発<br/>ジベレリン2.5ppmにマシン油乳剤もしくは展着剤の混用散布は無処理よりも着花が抑制された。</p> <p>① 温州ミカンへの高接ぎによる栽培特性把握<br/>「瑞季」は十分量結果したが、2月の寒波で落果し、収穫数は5個であった。「汐里」は1個、「ボナルーナ」は収穫なしであった。</p> <p>② シートマルチを活用した高品質安定生産技術の開発<br/>シートマルチによる糖度上昇効果は認められなかったが、白黒シートの抑草効果が高かった。</p>                                                          |
| <p>7. 樹体水分の「見える化」による果樹の高品質及び高収量生産技術の開発（マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業）</p> <p>1) シャインマスカットの光合成・樹液流動に応じた栽培管理技術の開発</p> <p>2) 極早生温州ミカン栽培の糖度向上技術の自動測定</p> | 県単       | 令4<br>～<br>令6 | 大西 智康<br>松浦 祥太 | <p>① 生育ステージや時間帯ごとの光合成速度の調査<br/>「シャインマスカット」の光合成速度は、温度や相対湿度よりも光強度との相関性が高かった。また、同じ時間帯であっても光強度を高めることで光合成速度は向上した。</p> <p>② 生育ステージや時間帯ごとの樹液流量の調査<br/>発芽前後の「シャインマスカット」において、1日の中で樹液流量の値が最も高い時間帯は午後6時から8時頃で、最も低い時間帯は午前9時から10時頃であった。また、1日の積算樹液流量と積算日射量の間に高い相関がみられた。</p> <p>① 日肥大測定の従来手法と画像測定の比較調査<br/>画角の異なるレンズを用いて画像による果径解析を行ったが、ミリ単位での測定は困難であると判断した。</p> <p>② 葉の水ポテンシャル測定の従来手法とセンサー測定の比較調査<br/>日中に測定する近赤外線分光センサー測定値と翌日の日の出前測定の水ポテンシャル値との相関が高かった。</p> |

## 10) 畑作園芸支場

| 試験研究課題等                                                         | 試験<br>区分 | 研究<br>期間       | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------|----------|----------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 奨励品種決定調査及び原々種生産                                              | 県単       | 昭28<br>～       | 大辻 智子<br>與田 眞音 | さといもでは県内外から収集した30品種・系統の選抜・保存・増殖を行った。天候がよく適度に降雨があったため、収量は過去の平均分球芋重量に対して多くの品種で上回った。<br>かんしょでは農研機構が育成した有望品種・系統について、焼酎原料用、青果用、菓子加工用の用途ごとに評価するとともに、有望系統「九州201号」、「関東150号」、「九州186号」の現地適応性を明らかにした。また、29品種系統について種いもで保存した。 |
| 2. 食用かんしょの省力化栽培技術の確立                                            | 県単       | 令和<br>～<br>令和4 | 與田 眞音<br>河野健次郎 | 「高系14号」において、高温時の植え付け時の植え傷みや塊根形状不良対策としての蒸散抑制剤処理は、いずれの区も欠株が見られ、効果は判然としなかった。                                                                                                                                        |
| 3. かんしょの基腐病に対応した育苗技術の開発                                         | 国庫       | 令和<br>～<br>令和6 | 與田 眞音<br>河野健次郎 | 「高系14号」の挿し苗育苗において、2.09㎡あたり切苗20～80本を1穴1本、2本で挿苗し比較したところ、採苗本数は挿苗数に比例して増加した。また、栽植本数への影響はなかった。温湯消毒は48～52℃で苗を消毒し植付けたが、52℃5分以上及び48℃20分では収量が減少した。                                                                        |
| 4. 腐植酸資材を活用したサツマイモの高品質・安定多収技術の確立                                | 受託       | 令和<br>～<br>令和5 | 與田 眞音<br>河野健次郎 | 「高系14号」及び「コガネセンガン」における腐植酸資材の土壌混和及び葉面散布の効果について検討した結果、増収・品質向上効果はなかった。<br>また、挿苗時における灌注処理の効果について、発根数は増加するが、その後のイモの肥大は遅れると思われた。                                                                                       |
| 5. 加工用ハウレンソウにおける茶殻豚ふん堆肥を用いた栽培試験                                 | 受託       | 令和<br>～<br>令和5 | 河野健次郎          | 加工用ハウレンソウにおける茶殻豚ふん堆肥の施用効果については、慣行の豚ふん堆肥と比較してほぼ同等であった。                                                                                                                                                            |
| 6. 加工・業務用ほうれんそうの出荷予測及びルテイン高含量栽培技術の開発<br>(マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業) | 県単       | 令和<br>～<br>令和5 | 中村 剛           | 加工・業務用ほうれんそうの収量予測について、農研機構が開発した予測アプリ（プロトタイプ）の予測値に対し、葉面積実測により補正することで、予測精度が向上することを確認した。<br>また、機能性成分ルテイン含量の変動要因については、品種の影響が大きく、抽苔期にルテイン含量が低下する傾向が認められた。                                                             |

## 10) 畑作園芸支場－2

| 試験研究課題等                             | 試験<br>区分 | 研究<br>期間  | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------|----------|-----------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7. 優良種苗増殖対策事業（儲かる農業を実現する優良種苗増殖対策事業） | 県単補助     | 平15～      | 大辻 智子<br>與田 眞音 | <p>さといもは、2020年産で選抜した極早生種、早生種及び中早生種における優良品種・系統の生産能力を調査した。「早生（児湯系統）」は7月中旬から8月中旬までは「石川早生」と同程度の収量となり、収穫時期による違いはなかった。中早生種では、8月29日収穫は「砂里芋」が、9月12日以降は「女早生」が高い収量性を示した。</p> <p>らっきょうは、2016年にバイテクセンターから育苗段階に応じて導入した3系統（ポット、旧田野、網室）、2017年に県内で収集した4系統（西都上、西都下、中国、田野）、2018年にバイテクセンターから導入した2系統（バイテク長、バイテク短）について栽培し、保存した。</p> <p>かんしょは、サツマイモ基腐病に抵抗性のある「べにまさり」の植付時期別の収量について検討した結果、4・5月植えにおいては、生育日数105日程度での収穫が適すると思われた。</p> <p>さらに、「宮崎紅（高系14号）」の新たな茎頂培養株7系統について、ほ場での能力検定を行った結果、いずれの系統も皮色も問題なく標準より多収となった。</p> <p>なお、いもの形状については、0-18H④4系統のばらつきが少なかった。</p> |
| 8. かんしょ・さといも病害対策強化事業                | 県単補助     | 令2～<br>令4 | 與田 眞音<br>河野健次郎 | <p>サツマイモ基腐病対策として、ブームスプレーヤーによる防除効果の検証と、引き抜き式の茎葉処理機を利用した残渣除去について検証した。ブームスプレーヤーは、散布ムラも少なく動噴防除と同等の濡れ具合となり、定植後30日頃までは茎葉の損傷も少ない防除が可能と思われた。</p> <p>茎葉処理機については、つるぼけ気味であったことから茎葉の量が多く、処理機に茎葉が絡んでしまい、機械の活用が難しかった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 9. スマート畑かん大規模経営体育成支援事業              | 県単補助     | 令3～<br>令5 | 大辻 智子          | <p>しょうがにおいて、タイマーや土壌水分、日射量等に比例し自動で給水栓を開閉する装置の効果について検証を行った。装置の違いにより、かん水総量に違いが見られた。</p> <p>なお、しょうがの収量については、かん水区の方が収量が高くなる傾向は見られたが、有意差はなかった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

## 11) 茶業支場

| 試験研究課題等                                           | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名                   | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------|----------|---------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 新農薬の適応性試験                                      | 受託       | 昭50<br>～      | 長友 博文                            | 茶樹用新農薬9剤について、薬効・薬害試験を行い、農薬登録取得及び効率的防除を推進した。                                                                                                                                                             |
| 2. 茶育種研究に係る系統適応性・特性検定試験                           | 受託       | 平28<br>～      | 佐藤 邦彦<br>吉武欣之介                   | 系適15群では、本県育成系統の1系統（摘採期が「やぶきた」比－5日程度）について、試験を実施している15場所中、5場所有望度4（品種登録をした方が良い）と評価された。<br>系適16群における定植2年目の生育は、本県育成系統の2系統はやや良であったが1系統やや悪かった。                                                                 |
| 3. 大規模土地改良事業<br>1) 散水による害虫抑制効果                    | 県単補助     | 平12<br>～      | 長友 博文<br>川越 洋二                   | 散水によるチャノホソガの密度抑制効果について検討したが効果は認められなかった。発生が甚発生であったことや散水開始時間が遅れたことが効果が無かった原因と考えられた。                                                                                                                       |
| 4. 世界に輝く！みやざき茶の高付加価値生産技術の開発                       | 県単       | 令元<br>～<br>令4 | 新 正仙<br>川越 洋二                    | 新香味茶におけるGABA含有量の増加方法について検討し、ドラム式萎凋機での萎凋後に、嫌気処理、好気処理、嫌気処理の順で処理することで、嫌気処理だけの場合よりもGABA含有量が増加することを明らかにした。                                                                                                   |
| 5. 世界の食卓にみやざき茶！輸出対応型新製品の開発                        | 県単       | 令2<br>～<br>令5 | 新 正仙<br>川越 洋二                    | 品種別の新香味茶の特性について、緑茶用4品種の嗜好性を調査した結果、「やぶきた」と「はると34」が高評価であった。また、熱源が異なる3種類の焙煎機（棚式乾燥機、ドラム式焙煎機、回分型ドラム式遠赤外線焙煎機）を用いた煎茶における焙煎時の特徴を明らかにした。                                                                         |
| 6. 本県茶業が生き残るために核となる「みやざきオリジナル茶品種の育成」              | 県単       | 令3<br>～<br>令7 | 佐藤 邦彦<br>吉武欣之介                   | 年間を通じて生育調査や病害虫の発生状況を調査するとともに、一番茶で煎茶と釜炒り茶を、二番茶で紅茶を、三番茶で半発酵茶を製造し、生育が比較的良く、煎茶として品質が良い2系統、釜炒り茶として品質が良い1系統、半発酵茶として品質が良い1系統、発酵茶として品質が良い1系統を新品種候補として選抜した。<br>また、個体選抜や栄養系比較試験等の各種選抜試験を実施するとともに5組合せ11,000花を交配した。 |
| 7. 未来ある宮崎茶！革新的茶栽培技術の開発                            | 県単       | 令3<br>～<br>令6 | 長友 博文<br>川越 洋二                   | せん枝処理によるチャ炭疽病の発生抑制効果について検証し、茶園の樹冠部に残葉がほとんど残らないように深刈り処理を行った場合、次の茶期において炭疽病の発生を抑制することができた。<br>また、令和3年度に設定した炭疽病防除体系について実証を行ったところ、高い防除効果が確認された。                                                              |
| 8. おいしさ与健康志向ニーズに対応したブルーベリー葉商品の開発事業（食料産業・6次産業化交付金） | 国庫       | 令2<br>～<br>令4 | 新 正仙<br>川越 洋二                    | ブルーベリー葉茶の香味改善を図るため、発酵技術について検討した結果、発酵に係る時間を長くすることで酸味を抑えられた反面、香りが低くなった。                                                                                                                                   |
| 9. 二番茶、秋冬番茶の輸出を可能とするIPM体系の確立（国際競争力強化技術開発事業）       | 国庫       | 令3<br>～<br>令5 | 長友 博文<br>川越 洋二<br>佐藤 邦彦<br>吉武欣之介 | クワシロカイガラムシの散水防除法に関し、孵化状況を詳細に調査した結果、第2世代において、防除に必要な散水期間を従来の16日間から10日間に短縮できる可能性が示唆された。<br>また、令和3年度に策定した「台湾・米国向け煎茶等の輸出を想定した輸出対応型IPM体系」について現地実証した結果、主要な病害虫の発生を抑制することができ、農薬も輸出先国の基準値以下であった。                  |

## 11) 茶業支場－ 2

| 試験研究課題等                                          | 試験 | 研究      | 試験研究者          | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------|----|---------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                  | 区分 | 期間      | 所属・氏名          |                                                                                                                                                  |
| 10. 茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験（戦略的スマート農業技術等の開発・改良） | 国庫 | 令和4～令和6 | 長友 博文<br>川越 洋二 | <p>チャノミドリヒメヨコバイに対する裾刈り処理の防除効果は高くないものの、無処理区に比べ効果は認められた。</p> <p>また、同害虫に対するアセチル化グリセリド剤の防除効果を検討した結果、多発条件であったことから化学農薬区と比べてやや低かったが、無処理区より効果は認められた。</p> |
| 11. 茶殻入り豚ふん堆肥の施肥効果試験                             | 受託 | 令和4～令和5 | 川越 洋二<br>長友 博文 | <p>地域資源活用による肥料コスト上昇を抑制した茶の施肥体系の構築を図るため、ドリンク工場で生じる茶殻残さと豚ふんを併せた茶殻入り豚ふん堆肥を春肥として散布した。令和5年一番茶で収量と品質について調査する。</p>                                      |

## 12) 亜熱帯作物支場

| 試験研究課題等                                                                                                                | 試験<br>区分 | 研究<br>期間       | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 温暖化に適応した有望高温性カンキツの低コスト栽培技術の開発と新たなカンキツ品目探索</p> <p>1-2) 低コスト栽培（無加温施設・露地）に向けた栽培管理の開発</p> <p>2-1) 露地栽培に適した新品目検討</p>  | 県単       | 平30<br>～<br>令4 | 内田秀一郎<br>平原 雄一 | <p>無加温ハウスにおける省力樹形「みはや」垣根仕立ては、樹冠拡大に優れ、定植4年目（結果2年目）には10a換算収量1.0tを確保できることを確認した。</p> <p>機能性成分を多く含む加工用果実として有望な、「かんきつ中間母本農6号」の露地栽培における収穫適期は、満開日から280日頃であることを確認した。</p>                                                                                                                                                                                                      |
| <p>2. 宮崎の気象条件を活かしたアボカド導入のための技術開発</p> <p>1) 優良品種の選定</p> <p>2) 優良種苗生産技術の開発</p> <p>3) 生産安定技術</p>                          | 県単       | 平30<br>～<br>令4 | 平原 雄一          | <p>施設根域制限栽培では、樹齢7年生で7品種が開花し、「リード」「ハス」「ヤマガタ」の3品種で収穫できた。同樹齢の「リード」において、樹冠容積や収量に個体差があることを確認した。</p> <p>露地栽培において、台風や寒波により大きな被害が見られた中、「ベーコン」では葉枯れや枝枯れの程度が軽く、露地栽培の適応性が示唆された。</p> <p>開花期の夜温17℃管理下では「ハス」(A)は「マラマ」(B)と、「リード」(A)は「カハルー」「マラマ」「ヤマガタ」(B)と開花期間の重複期間が長かった。</p>                                                                                                        |
| <p>3. 亜熱帯性果樹の産地拡大・新規産地育成が可能な栽培技術の開発</p> <p>1) ライチの生産安定技術の確立</p> <p>2) バニラの生産安定技術の確立</p>                                | 県単       | 令元<br>～<br>令5  | 財津 燎<br>平原 雄一  | <p>前年度の秋芽及び花穂の発生が無く、処理が行えなかったことから、次年度に向けて秋芽処理・花穂整形を行った。</p> <p>バニラは2、3年生枝で着花が見られ、4年生枝では着花が見られなかった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>4. 宮崎特産柑橘の次代に対応した栽培技術開発</p> <p>1) 輸出・貯蔵に適した栽培技術の開発</p> <p>2) キンカンの温暖化に対応した栽培技術の開発</p> <p>3) 日向夏の省力・高品質安定生産技術の開発</p> | 県単       | 令元<br>～<br>令5  | 内田秀一郎<br>平原 雄一 | <p>キンカンの台湾輸出向け試験については、早期型・完熟型ともに、前年度に残留の可能性が疑われた薬剤の残留確認試験を行い、輸出向け暦作成に向けた知見を得ることができた。</p> <p>完熟出荷作型における「宮崎夢丸」の1番花へのジベレリン10ppmとジャスモメート液剤2000倍混用液処理のタイミングは、満開時散布が結果安定効果が高いことを確認した。</p> <p>露地栽培1番花における開花終期のジベレリン300ppm散布及び10ppmとジャスモメート液剤2,000倍の混用散布による結果率向上効果が確認できた。</p> <p>受粉樹高接ぎと補助的人工受粉を組み合わせることで、結果率が高くなることを確認できた。</p> <p>受粉樹高接ぎ栽培は、10%程度の受粉樹果実混入リスクがあることを確認した。</p> |

## 12) 亜熱帯作物支場－2

| 試験研究課題等                                                                                                             | 試験<br>区分 | 研究<br>期間        | 試験研究者<br>所属・氏名 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. 宮崎マンゴー産地の再発展を目指す栽培技術の確立<br>1) 飽差を意識した環境制御による高収量安定生産技術の確立<br><br>2) 後期出荷型における出荷早進化技術の確立<br><br>3) 交雑系統の特性調査及び一次選抜 | 県単       | 令和元<br>～<br>令和5 | 財津 療<br>平原 雄一  | <p>5～6月出荷作型において、CO<sub>2</sub>施用により結果期間中の炭酸ガス飢餓を抑制でき、糖度や果皮色といった果実品質の向上が見られた。</p> <p>剪定後の新RBパワーのかん注、頭上散水では十分な出荷早進化には至らなかった。</p> <p>交雑系統について、十分な花穂が伸長せず結果には至らなかった。</p> |
| 5. 宮崎マンゴー産地の再発展を目指す栽培技術の確立<br>1) 飽差を意識した環境制御による高収量安定生産技術の確立<br><br>2) 後期出荷型における出荷早進化技術の確立<br><br>3) 交雑系統の特性調査及び一次選抜 | 県単       | 令和元<br>～<br>令和5 | 財津 療<br>平原 雄一  | <p>5～6月出荷作型において、CO<sub>2</sub>施用により結果期間中の炭酸ガス飢餓を抑制でき、糖度や果皮色といった果実品質の向上が見られた。</p> <p>剪定後の新RBパワーのかん注、頭上散水では十分な出荷早進化には至らなかった。</p> <p>交雑系統について、十分な花穂が伸長せず結果には至らなかった。</p> |
| 7. ブランド果樹産地リノベーション推進事業<br>1) マンゴーの苗生産技術の確立<br><br>2) ライチの苗生産技術の確立                                                   | 県単<br>補助 | 令和4             | 財津 療<br>平原 雄一  | <p>台木「柴マンゴー」における挿し木では、8割程度の株で十分な発根が確認された。</p> <p>露地栽培の「チャカパット」、「クエイメイピンク」、「サラシエル」は定植1年目に最大－3℃程度の低温に遭遇すると、株枯れが発生することが確認された。</p>                                       |

### 13) 薬草・地域作物センター

| 試験研究課題等                                                                                                                                                             | 試験<br>区分 | 研究<br>期間 | 試験研究者<br>所属・氏名          | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 地域伝統作物の保全と新たな利用方法の開発</p> <p>1) 地域作物の現況調査と種子の保全</p> <p>2) 新食材、利用法の情報発信</p>                                                                                     | 県単       | 令和元～令和5  | 堤 省一朗<br>中村 文昭<br>河野 尚子 | <p>白ナス、鹿川地トウキビ、畦アズキ、アカトウマメの栽培特性及びミミズコショウ、地トウキビ、ムカシタカナの食味特性を確認した。地域作物カタログは、10品目を作成した。</p> <p>また、地トウキビ、地アズキ、白長ナス、アカトウマメ、椎葉サトイモの種子更新を行い、計画どおりの収量を得ることが出来た。</p> <p>地域作物の料理教室を2回開催した他、地域作物3品目についてSNSでのPRをおこなった。</p>                                                            |
| <p>2. 儲かる薬用作物の安定生産技術の確立と需要開拓</p> <p>1) 儲ける安定生産技術の確立</p> <p>2) 儲かる薬用作物の開拓と栽培特性等調査</p>                                                                                | 県単       | 令和2～令和6  | 堤 省一朗<br>河野 尚子          | <p>白ウコンの安定栽培基礎技術として、緩効性肥料を用いたワンショット施肥技術の開発に取り組み、被覆肥料の溶出特性を把握することが出来たが、収量への影響は認められなかった。</p> <p>キクイモの夏期1m切り戻し剪定栽培では、倒伏軽減効果は不十分で、収量はやや減少することを確認した。</p> <p>また、内海系統のアシタバは、タキイ系統と比較して、やや葉色が薄く、形態の差異は少ないことを確認した。</p>                                                             |
| <p>3. 原料用ハーブ生産に向けた栽培技術の開発<br/>(マーケット対応型産地競争力強化技術開発事業)</p> <p>1) クラフトジン原料用レモングラスの大規模生産技術の開発</p> <p>2) 菓子類原料用ミント類の大規模生産技術の開発</p> <p>3) 県内産ビール醸造用ホップの本県に適した栽培技術の開発</p> | 県単       | 令和4～令和6  | 濱尾 達也<br>堤 省一朗          | <p>レモングラスの機械化体系に対応した栽培技術を検討し、モアー収穫により作業時間が大幅に縮小され、実用性が高いことを確認した。</p> <p>ミントの定植方法は、ポット育苗マルチ栽培が生育、収量とも良好であるが、労力を要する植え付け方式であるため、大規模栽培には適していないことを確認した。</p> <p>ホップのつる下げ栽培は、生育量が少ない場合は増収効果が低いことを確認した。トンネル被覆栽培は、毛花の開花は早まるが、収量低下の可能性があることが示唆された。また、土壌の1m深耕により、根域が拡大することを確認した。</p> |

## 14) 病虫害防除・肥料検査課

| 試験研究課題等                                                                        | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名                                                 | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------|---------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 肥料検査組織整備運営費                                                                 | 県単補助     | -             | 土壌環境部<br>甲斐 宏一                                                 | 肥料の安全性と品質確保、公正な取引と円滑な流通を図るため、肥料取締法に基づいて肥料の依頼分析14件を行った。                                                                                                                            |
| 2. 病虫害防除組織整備運営費                                                                | 国庫<br>県単 | 昭16<br>～      | 倉富 文代<br>久野 公子                                                 | 関係機関や県下に配置した病虫害防除員との密接な連携により、発生予察事業の円滑な推進に努めた。                                                                                                                                    |
| 3. 病虫害発生予察事業費<br>1) 指定病虫害発生予察事業                                                | 国庫<br>県単 | 昭16<br>～      | 倉富 文代<br>久野 公子<br>森下 勝<br>榎本 清和<br>寺本 敏祐<br>阿萬 樹<br>椎葉 駿輔      | 12作物を対象に、62病虫害の国指定病虫害と110指定外病虫害について予察調査を行い、毎月発生予察情報を発表するとともに、必要に応じて注意報や防除情報を発信することで病虫害防除を促し被害軽減につなげた。                                                                             |
| 2) 特殊病虫害侵入警戒調査対策事業                                                             |          |               |                                                                | 侵入の危険性が高いと予想される地域においてフェロモントラップの設置等により、下記の侵入警戒病虫害の調査を実施した。<br>カンキツ：ミバエ類、ミカンキジラミ<br>い も 類：アリモドキゾウムシ・イモゾウムシ<br>ウ リ 類：ミバエ類                                                            |
| 4. グリーン農業技術実証事業<br>1) 宮崎方式ICM指標の作成（消費・安全対策等交付金）<br>2) マイナー作物の農薬登録（消費・安全対策等交付金） | 国庫<br>県単 | 令4<br>～<br>令6 | 倉富 文代<br>久野 公子<br>森下 勝<br>榎本 清和<br>寺本 敏祐<br>阿萬 樹<br>椎葉 満<br>川口 | 近年問題となっているサトイモ疫病、ツマジロクサヨトウ、サツマイモ基腐病等の病虫害について、発生状況調査やフェロモントラップ調査等を行うことで発生生態の解明を進めた。<br><br>マイナー作物の農薬登録拡大のため、ニガウリの薬効・薬害・作物残留試験を行った。また、シキミのドローン散布剤の登録拡大にむけた薬害試験を行い、農薬登録に要する基礎データを得た。 |
| 5. かんしょ輸出産地を支えるサツマイモ基腐病総合的防除体系の開発（戦略的スマート農業技術等の開発・改良）                          | 国庫       | 令4<br>～<br>令6 | 久野 公子<br>阿萬 祐樹                                                 | 平成30年に新奇に発生が確認されたサツマイモ基腐病について、県内の主要産地において、定期的なほ場調査を行うとともに、収穫時及び貯蔵後の腐敗状況調査を行い、本病害の発生生態の解明や発生地域における防除対策等に活用することができた。                                                                |
| 6. 侵入害虫トマトキバガに対する診断・発生予測手法の確立と防除技術の開発（イノベーション創出強化研究推進事業）                       |          | 令4<br>～<br>令6 | 久野 公子<br>椎葉 駿輔                                                 | 新規の侵入害虫トマトキバガの発生を迅速かつ正確に行うためフェロモントラップに疑義虫が誘殺された際は同定を行った。<br>現地に設置しているフェロモントラップへの誘殺状況を調査し、発生消長を把握した。<br>トマトキバガを確認したハウス周辺の寄主植物を調査するためナス科植物の調査を実施した。                                 |

## 15) 鳥獣害被害対策支援センター

| 試験研究課題等               | 試験<br>区分 | 研究<br>期間      | 試験研究者<br>所属・氏名       | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------|----------|---------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 鳥獣被害対策支援センター活動推進事業 | 国庫<br>県単 | 令4<br>～<br>令6 | 弓削<br>室屋<br>有子<br>敦紀 | <b>【主な活動実績】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域特命チーム等に対する技術指導〔要請〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地研修会や講演会等での指導</li> </ul> </li> <li>② 指導者等人材育成等〔主催〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイスター養成、技術向上研修会等</li> </ul> </li> <li>③ 鳥獣被害防止技術実証展示ほ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 延岡市（中型獣対策）、川南町（カラス対策）他</li> </ul> </li> </ul> |

## 16) 専門技術センター

| 試験研究課題等      | 試験<br>区分 | 研究<br>期間 | 試験研究者<br>所属・氏名                                                                                                    | 令和4年度試験研究成果等の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------|----------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 普及指導員巡回指導 | 県単       | 令3<br>～  | 程内 珠代<br>藤井 真理<br>河野 昌晃<br>田村 真理子<br>杉田 浩一<br>川崎 佳栄<br>吉山 健二<br>福川 泰陽<br>溝邊 真<br>小田 弥生<br>竹田 博文<br>山塚 裕美<br>鈴木 美里 | <b>【主な活動実績】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 普及指導員の資質向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種研修の開催及び個別指導等</li> </ul> </li> <li>② 地域農業重要課題への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重点プロジェクト活動の実施（9課題）</li> <li>・ 各農業改良普及センターの普及指導活動への支援等</li> </ul> </li> <li>③ 試験研究と普及の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会等を活用した意見交換の促進</li> <li>・ 地域課題の研究課題化及び研究成果の普及に向けた助言・指導等</li> </ul> </li> </ul> |

## V 試験研究の成果発表・情報発信等

### 1. 令和4年度主要刊行物

| 誌 名             | 発行年月    | 部 数 | ページ数 |
|-----------------|---------|-----|------|
| 令和4年度農業試験場の概要   | 令和4年7月  | 320 | 52   |
| 令和3年度業務年報       | 令和5年1月  | 260 | 73   |
| 機関誌「まりのわ」Vol. 7 | 令和4年12月 | 800 | 8    |

### 2. 各部・支場成績書

| 部課名         | 誌 名                   | 発行年月日  | 部数  | ページ数 |
|-------------|-----------------------|--------|-----|------|
| 生産流通部       | 令和3年度生産流通関係試験成績書      | 令和4年7月 | PDF | 56   |
| 土壌環境部       | 令和3年度土壌肥料試験成績書        | 令和5年2月 | 50  | 136  |
| 生物環境部       | 令和3年度生物環境部試験成績書       | 令和4年4月 | PDF | 158  |
| 生物工学部       | 令和3年度生物工学部試験成績書       | 令和4年5月 | PDF | 430  |
| 作物部         | 令和4年度水稻栽培試験成績書        | 令和5年3月 | 20  | 116  |
|             | 令和4年度麦類・大豆奨励品種決定調査成績書 | 令和5年3月 | 20  | 13   |
|             | 令和4年度水稻新品種育成試験成績書     | 令和5年3月 | 10  | 148  |
|             | 令和4年度水稻奨励品種決定調査成績書    | 令和5年3月 | 30  | 37   |
| 野菜部         | 令和3年度野菜試験成績書          | 令和5年3月 | PDF | 145  |
| 花き部         | 令和3年度花き試験成績書          | 令和4年7月 | PDF | 276  |
| 果樹部         | 令和3年度果樹試験成績書          | 令和5年3月 | 73  | 232  |
| 畑作園芸支場      | 令和4年度畑作・野菜試験成績書       | 令和5年3月 | PDF | 106  |
| 茶業支場        | 令和4年度茶育種試験成績書         | 令和5年3月 | 10  | 9    |
|             | 令和4年度栽培・加工試験成績書       | 令和5年3月 | 50  | 90   |
| 亜熱帯作物支場     | 令和3年度試験成績書            | 令和4年4月 | 80  | 145  |
| 薬草・地域作物センター | 令和3年度 薬草・地域作物試験成績書    | 令和4年5月 | PDF | 48   |
|             | 令和4年度 薬草・地域作物試験成績書    | 令和5年3月 | PDF | 41   |

### 3. 宮崎県「農水産業における普及技術」及び「九州農業研究成果情報」

| 部課名   | 普及技術名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 分類                                                                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生産流通部 | 1. 米の食味評価とアミノ酸及び形質との相関<br>2. キンカンの輸出促進に向けた3成分の残留農薬迅速分析法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 研究成果<br>研究成果                                                                                             |
| 土壌環境部 | 1. 有機質肥料の窒素の肥効予測                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 研究成果                                                                                                     |
| 生物環境部 | 1. 数種薬剤のキュウリつる枯病菌に対する菌糸伸長抑制効果<br>2. 持ち込み診断に見るサツマイモ茎・根腐敗症状の原因<br>3. トマトキバガに対する各種殺虫剤の防除効果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 研究成果<br>研究成果<br>普及技術                                                                                     |
| 作物部   | 1. 多収でいもち病に強い飼料用米新品種候補「南海飼190号」の育成<br>2. 普通作物における機械・施設の使用方法に関する研究補助動画マニュアルの作成<br>3. 水稻経営における多機能自動給水栓の導入効果<br>4. 水稻経営における直進アシストトラクターの導入効果<br>5. 水稻経営における直進アシスト田植機の導入効果<br>6. 水稻経営における薬剤散布用ドローンの導入効果<br>7. 水稻経営における食味・収量コンバインの測定精度の評価<br>8. 早期水稻に適する飼料用米品種の選定<br>9. 普通期水稻に適する飼料用米品種の選定<br>10. 「宮崎52号」の安定多収に最適な穂肥時期、穂肥量<br>11. 4月下旬移植の早期水稻「宮崎52号」における施肥量<br>12. 早期水稻「宮崎52号」における高密度育苗技術の評価<br>13. 普通期水稻新系統「南海192号」の特性 | 普及技術<br>研究成果<br><br>研究成果<br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>普及技術<br>研究成果 |
| 野菜部   | 1. 夏秋キュウリ養液栽培における栽培方式による収量比較<br>2. 促成キュウリ養液栽培における品種による収量・生育比較<br>3. 促成イチゴ品種の特性<br>4. ピーマンのハイワイヤー養液栽培による主枝の誘引本数<br>5. ハウス抑制ズッキーニにおける単為結果性の確認<br>6. 半促成ズッキーニにおける施肥量が単為結果性に及ぼす影響                                                                                                                                                                                                                                     | 研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>普及技術<br>研究成果<br>研究成果                                                             |

| 部課名            | 普 及 技 術 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 分類                                                                                                                                                               |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 花き部            | 1. ダリア品種の「NAMAHAJEラブ」および「NAMAHAJEピース」は冬春開花作型切り花栽培に適する<br>2. ラックス系ラナンキュラス有望系統の系統特性検定<br>3. モロッコ系ラナンキュラス有望系統の系統特性検定<br>4. ラナンキュラスPon-Ponシリーズの適正な冷蔵週数<br>5. ブルーフレグランスの長日処理開始時期<br>6. リンドウ栽培における遮光処理による高温対策<br>7. 花卉に斑紋（刷毛目模様）を有するスイートピー新品種「試交25号」<br>8. 花卉に斑紋（刷毛目模様）を有するスイートピー新品種「試交26号」<br>9. 花卉に斑紋（刷毛目模様）を有するスイートピー新品種「試交27号」<br>10. 難落蕾性を有するスイートピー新品種「試交28号」<br>11. 巻きひげがなく、複色のスイートピー新品種「試交29号」<br>12. キクの3月出荷作型における炭酸ガスの施用方法と効果<br>13. アネモネの実生切り花栽培における間欠冷蔵育苗の効果<br>14. ラナンキュラス「ローズクォーツ」の大苗育苗による開花促進効果<br>15. ホオズキの実生苗における地下茎の生育に適した定植時期<br>16. ホオズキの出芽に適した温度条件とジベレリン処理の効果<br>17. ホオズキの発芽に適した温度条件、光条件およびジベレリン処理の効果<br>18. ホオズキの出芽および出芽後の生育に影響する高温条件とジベレリン処理の効果<br>19. ラナンキュラスの球根の適切な貯蔵湿度条件<br>20. ラナンキュラスの球根化における光質応答 | 普及技術<br><br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>普及技術<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>研究成果 |
| 果樹部            | 1. カンキツトリステザウイルス（CTV）に対するユズの優良母樹の選抜方法<br>2. 農地環境推定システムによる推定値を活用した温州ミカンの開花予測<br>3. 樹齢20年生前後のブドウ「ピオーネ」における主枝部への環状剥皮処理時期の違いが翌年の花穂に及ぼす影響<br>4. ブドウ「ピオーネ」におけるアブシシン酸液剤の果房散布は着色が向上する<br>5. ニホンナシ新品種「蒼月」の宮崎県における樹体特性および果実品質<br>6. 昇降可能な掲揚式支柱によるキウイフルーツの作業の効率化<br>7. キンカン「宮崎夢丸」の剪定方法の違いが新梢発生と着果に与える影響<br>8. 根域制限栽培「みはや」における早期の摘果程度及び適正葉果比<br>9. ブドウ「ピオーネ」における環状剥皮処理時期の違いが翌年の花穂着生に及ぼす影響<br>10. ヘベスの1年生枝付き苗は1年生苗木に比べ樹冠拡大と初期収量に優れる                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 普及技術<br>研究成果情報＊<br>普及技術<br>研究成果<br><br>普及技術<br><br>研究成果<br>研究成果<br>普及技術<br>研究成果<br>研究成果情報＊<br><br>研究成果情報＊                                                        |
| 畑作<br>園芸<br>支場 | 1. 厳寒期におけるトンネル栽培の被覆方法<br>2. 「宮崎紅」の種芋育苗と挿苗育苗の採苗数と苗質<br>3. 晩植栽培における挿苗時期、マルチの種類が「宮崎紅」の収量品質に及ぼす影響<br>4. 県内から収集したらっきょうの系統比較<br>5. にんにく栽培における不結球葉状化抑制対策                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br><br>研究成果<br>研究成果                                                                                                                         |

| 部課名     | 普及技術名                                                                                                                                                                                                                | 分類                                           |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 茶業支場    | 1. せん枝処理によるチャ炭疽病の発生抑制効果<br>2. チャ品種「やぶきた」における新芽の開葉に関する基本特性<br>3. 嫌気好気交互処理を活用した新香味茶のGABA含有量増加方法                                                                                                                        | 研究成果<br>研究成果<br>普及技術                         |
| 亜熱帯作物支場 | 1. ヒペリカム「WY34」は収量や品質の面で優れており有望である<br>2. アボカド「リード」の挿し木技術<br>3. 1-ナフタレン酢酸ナトリウム水溶液散布による「津之輝」「せとか」「不知火」の夏秋梢抑制効果<br>4. アボカド露地栽培における苗木生存率向上技術<br>5. ジベレリン液剤散布による「みはや」果梗部クラッキングの軽減効果<br>6. カルシウム剤散布による「津之輝」のこはん症類似果皮障害発生の軽減 | 研究成果<br>研究成果<br>研究成果<br>普及技術<br>研究成果<br>普及技術 |

注) 無印は宮崎県「農水産業における普及技術（「研究成果」及び「普及技術」）」

\*は九州沖縄農業研究センター推進会議における「九州農業研究成果情報」

#### 4. 学術論文（学会誌及び研究報告）

| 部課名   | 発表課題                                                      | 発表年月    | 発表者      | 発表部会等                                             |
|-------|-----------------------------------------------------------|---------|----------|---------------------------------------------------|
| 生産流通部 | 生鮮食品の機能性表示に寄与する分析（共著）                                     | 令和4年4月  | 八代、野上、佐藤 | Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan |
| 茶業支場  | 炭疽病、輪斑病及びクワシロカイガラムシに抵抗性を持ち、被覆栽培茶や粉末茶としても適正が高い緑茶用新品種「暖心37」 | 令和4年12月 | 吉留ら      | 日本茶業学会茶業研究報告 第134号                                |

#### 5. 業界誌等への成果発表

| 執筆者氏名          | 著書名                                                         | 時期                    | 備考               |
|----------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------|
| 生物工学部<br>武田和宣  | ピーマン台木「みやざき台木5号」<br>カラーピーマン「Pプロ15-65」<br>カラーピーマン「Pプロ15-635」 | 令和4年2月<br>(発刊：令和4年7月) | 蔬菜の新品種<br>第21巻   |
| 生物工学部<br>早日早貴  | トマトモザイクウイルス感染によるホオズキの生育への影響と乾熱処理種子由来の地下茎導入によるウイルス病害抑制効果     | 令和4年10月               | 植物防疫<br>第76巻・第7号 |
| 畑作園芸支場<br>中村 剛 | 「キャベツにおける溝畝播種技術の実証」                                         | 令和4年<br>7～9月号         | 「技術と普及」          |
| 茶業支場<br>川越洋二   | 研究室紹介<br>宮崎県総合農業試験場 茶業支場                                    | 令和5年2月                | 植物防疫<br>第77巻・第2号 |

## 6. 学会等での発表及び要旨

| 部課名        | 発表課題                                         | 発表年月                      | 発表者        | 発表部会等                      |
|------------|----------------------------------------------|---------------------------|------------|----------------------------|
| 土 壌<br>環境部 | 1. 促成栽培キュウリの養液土耕栽培における給液濃度と見かけの養分吸収量         | 令和4年<br>10月19日～<br>10月20日 | 吉留         | 2022年度日本土壌肥料学会九州支部例会       |
| 生 物<br>環境部 | 1. 宮崎県におけるビロウの生育異常に関する研究                     | 令和4年<br>11月               | 櫛間<br>(共同) | 日本植物病理学会九州部会               |
|            | 2. 2021年に宮崎県で初確認されたトマトキバガ個体群の発生活長と薬剤感受性      | 令和5年<br>2月                | 竹原         | 九州病害虫研究会                   |
|            | 3. 数種薬剤のキュウリつる枯病菌に対する菌糸伸長抑制効果                | 令和5年<br>2月                | 櫛間         | 技術調整会議病害虫分科会               |
|            | 4. サツマイモ基腐病に対するフルアジナム水和剤の茎葉散布の効果             | 令和5年<br>2月                | 後藤         | 技術調整会議病害虫分科会               |
|            | 5. ドローン防除によるカンキツ類病害に対する防除効果の検討               | 令和5年<br>2月                | 後藤         | 技術調整会議病害虫分科会               |
|            | 6. スワルスキーカブリダニに対する紙コップ内の湿度の影響                | 令和5年<br>2月                | 後藤         | 技術調整会議病害虫分科会               |
|            | 7. 2021年に宮崎県で採集されたトマトキバガの薬剤感受性               | 令和5年<br>2月                | 竹原         | 技術調整会議病害虫分科会               |
| 生 物<br>工学部 | 1. サツマイモネコブセンチュウ抵抗性ピーマンF1台木品種‘台ひなた’の育成       | 令和4年<br>9月2日              | 武田         | 宮崎大学技術・研究発表交流会             |
| 作物部        | 1. 水稻経営におけるスマート農機の体系的な活用 of 検討               | 令和4年<br>11月6日             | 加治佐        | 日本水稻品質・食味研究会第14回講演会・シンポジウム |
|            | 2. リモートセンシング・収量マッピングデータを活用した可変施肥機能（乗用田植機）の評価 | 令和5年<br>3月2日              | 加治佐        | 令和4年度新稲作研究会成績検討会           |

| 部課名 | 発表課題                                          | 発表年月           | 発表者 | 発表部会等                                 |
|-----|-----------------------------------------------|----------------|-----|---------------------------------------|
| 野菜部 | 1. 半促成ピーマン養液栽培における吸水量の推定                      | 令和4年<br>9月13日  | 力武  | 園芸学会九州支部会第63回大会                       |
|     | 2. 宮崎県の夏秋キュウリ養液栽培における品種による収量・生育比較             | 令和4年<br>9月13日  | 相見  | 園芸学会九州支部会第63回大会                       |
|     | 3. ハウス抑制ズッキーニにおける肥料濃度や品種が植物ホルモン処理後の正常果率に及ぼす影響 | 令和4年<br>9月13日  | 沖野  | 園芸学会九州支部会第63回大会                       |
|     | 4. ピーマン養液栽培の仕立て方法が収量に及ぼす影響                    | 令和5年<br>1月23日  | 力武  | 令和4年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会野菜成績設計検討会 |
|     | 5. 宮崎県のキュウリ養液栽培における品種の違いが収量や生育に及ぼす影響          | 令和5年<br>1月23日  | 相見  | 令和4年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会野菜成績設計検討会 |
|     | 6. 促成イチゴ品種の特性把握                               | 令和5年<br>1月23日  | 沖野  | 令和4年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会野菜成績設計検討会 |
| 花き部 | 1. ラナンキュラスの各波長における球根化に及ぼす影響                   | 令和4年<br>9月11日  | 古藤ら | 令和4年度園芸学会秋季大会でのポスター公開(WEB)            |
|     | 2. エラータム系デルフィニウムの閉鎖系施設での育苗技術の検討               | 令和4年<br>10月13日 | 本田ら | 園芸学会九州支部第62回大会(オンライン)                 |
|     | 3. ホオズキの実生苗における定植時期の違いが地下茎の生育に及ぼす影響           | 令和4年<br>10月13日 | 田村ら | 園芸学会九州支部第62回大会(オンライン)                 |
|     | 4. 間欠冷蔵育苗がアネモネ‘ミストラルプラス’シリーズの生育および開花に及ぼす影響    | 令和5年<br>3月16日  | 本田ら | 令和5年度園芸学会春季大会でのポスター公開(WEB)            |
|     | 5. ラナンキュラス晩生品種(スタンダード系、ラックス系)の冷蔵育苗における育苗条件の検討 | 令和5年<br>3月16日  | 安田ら | 令和5年度園芸学会春季大会でのポスター公開(WEB)            |
|     | 6. スイートピー難落蕾性品種‘試交28号’の育成                     | 令和5年<br>3月16日  | 田村ら | 令和5年度園芸学会春季大会でのポスター公開(WEB)            |

| 部課名              | 発表課題                                                 | 発表年月                    | 発表者 | 発表部会等                               |
|------------------|------------------------------------------------------|-------------------------|-----|-------------------------------------|
| 果樹部              | 1. 香酸カンキツヘベスの早期成園化に適した苗木の検討                          | 令和4年<br>10月13日<br>(Web) | 山名  | 園芸学会九州支部第62回大会<br><br>第85回九州農業研究発表会 |
|                  | 2. 農地環境推定システムによる推定値を活用した温州ミカン‘日南1号’の発芽期および開花始期予測     | 令和4年<br>10月13日<br>(Web) | 大西  | 園芸学会九州支部第62回大会<br><br>第85回九州農業研究発表会 |
|                  | 3. 樹齢が経過したブドウ‘ピオーネ’における環状剥皮処理時期の検討                   | 令和4年<br>10月13日<br>(Web) | 松浦  | 園芸学会九州支部第62回大会<br><br>第85回九州農業研究発表会 |
|                  | 4. カンキツ新品種‘瑞季’等のジベレリン利用による苗木の生育と散布時期の検討              | 令和5年<br>3月16日           | 山名  | 園芸学会令和5年度春季大会ポスター発表                 |
| 畑作<br>園芸<br>支場   | 1. 加工・業務用ホウレンソウの気象要因とルテイン含量の関係                       | 令和4年<br>9月8日            | 中村剛 | 園芸学会秋季大会                            |
|                  | 2. キャベツにおける溝畝播種技術の実証                                 | 令和5年<br>2月21日           | 中村剛 | 令和4年度全国農業システム化研究会                   |
| 茶業<br>支場         | 1. GABA高含有新香味茶の安定生産に関する試験                            | 令和4年<br>11月8日           | 新ら  | 2022年度日本茶業学会研究発表会                   |
| 亜熱帯<br>作物支<br>場  | 1. 労働力不足時代に対応したヒュウガナツ栽培における受粉樹の混植及び高接ぎによる省力安定生産技術の開発 | 令和4年<br>9月2日            | 内田  | 宮崎大学 産学・地域連携センター 第29回技術・研究発表交流会     |
|                  | 2. ヒュウガナツ受粉樹混植及び高接ぎによる省力安定生産技術                       | 令和4年<br>10月13日          | 内田  | 第85回九州農業研究発表会                       |
| 専門技<br>術セン<br>ター | 1. 宮崎県特産花木「シキミ」の立枯れ病の要因究明                            | 令和4年<br>10月20日          | 杉田ら | 日本土壤肥料学会九州支部例会<br>(九農研土壤肥料部会共催)     |
|                  | 2. 宮崎県の大規模水稻経営体における自動給水機の導入に関する検討                    | 令和4年<br>11月5日           | 福川  | 日本水稻品質・食味研究会<br>第14回講演会             |

## 7. 新聞、一般広報誌等掲載

| 部課名                     | 内容                                                                                                                                                                                  | 発表年月日                                                                                                 | 誌 名                                                                    |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 亜熱帯<br>作物支<br>場         | 1. ぐるっと東西南北「顔」支場長紹介<br>2. イペー冬の景色に彩り<br>3. 鮮やかヒスイカズラ（トロピカルドーム）                                                                                                                      | 令和4年10月14日<br>令和4年12月9日<br>令和5年3月27日                                                                  | 宮崎日日新聞<br>宮崎日日新聞<br>宮崎日日新聞                                             |
| 病虫害<br>防除・<br>肥料検<br>査課 | 1. 早期水稲で葉いもち宮崎県注意報<br>2. 斑点米カメムシ多発懸念<br>3. カメムシ発生で注意報<br>4. 稲カメムシ警戒なお<br>5. クロテンコナカイガラムシ初確認<br>6. キュウリ寄生県内で初確認<br>クロテンコナカイガラムシ<br>7. 今月の天候と農作業<br>向こう1カ月間における農作物の主な病虫害<br>の発生量と防除対策 | 令和4年6月16日<br>令和4年8月24日<br>令和4年8月24日<br>令和4年8月28日<br>令和4年10月20日<br>令和4年10月20日<br><br>令和4年4月～<br>令和5年3月 | 日本農業新聞<br>日本農業新聞<br>宮崎日日新聞<br>日本農業新聞<br>日本農業新聞<br>宮崎日日新聞<br><br>宮崎日日新聞 |
| 専 技<br>センター             | 1. 今月の天候と農作業                                                                                                                                                                        | 令和4年4月～<br>令和5年3月                                                                                     | 宮崎日日新聞                                                                 |

## 8. 宮崎県で開催された農試関係会議等

| 部課名        | 会 議 名                                                                                                      | 開催時期                      | 備 考                |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------|
| 企 画<br>情報室 | 成果報告会                                                                                                      | 令和5年<br>3月14日             | 対面・Web開催           |
| 果樹部        | 1. 生研支援センター「イノベーション創出強化<br>研究推進事業」「無核性カンキツ新品種「瑞<br>季」等の全国展開に向けた高品質安定生産及<br>び高度利用技術の確立」令和4年度推進会議<br>(中間検討会) | 令和4年<br>11月21日～<br>11月22日 | 参加人数32名<br>(Web併催) |

## 9. 県関係講習会、研修会

| 部課名        | 内容                                                                                                                                   | 実施年月日                                                                                                                              | 講習会等                                                                                                                   |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 企 画<br>情報室 | 1. 試験場成果展示<br>2. 試験場成果展示                                                                                                             | 令和4年8月3日<br>～8月14日<br>令和5年1月16日<br>～1月29日                                                                                          | 県立図書館<br>夏休み企画展<br>県庁本館1F展示                                                                                            |
| 土 壌<br>環境部 | 1. 農業大学校講義<br>2. 植物生理関係農業者研修会<br>3. 土作り、陽熱プラス等土壌消毒講習会<br>4. 陽熱プラス関係講義<br>5. イチゴ栽培関係指導<br>6. 養液栽培システム関係講習                             | 令和4年6月1日<br><br>令和4年6月30日<br><br>令和4年7月4日<br><br>令和4年7月19日<br><br>令和4年9月13日<br><br>令和4年11月11日                                      | 農業大学校<br><br>中部農改センター<br><br>JA西都ピーマン部会<br>カラーピーマン部会<br><br>宮崎農業高校<br><br>宮崎大学農学部<br><br>南九州大学                         |
| 生 物<br>環境部 | 1. サツマイモ基腐病対策について（防除対策マニュアルの概要）<br>2. 飼料イネの病害虫<br>3. 農大講義<br>4. サツマイモ基腐病コンソ事業の成果<br>5. 農薬一般<br>6. 病害虫の基礎<br>7. 生物環境部における減農薬防除技術開発の取組 | 令和4年6月8日<br><br>令和4年6月13日<br><br>令和4年<br>12月2、7、14日<br><br>令和4年12月19日<br><br>令和5年1月13日<br><br>令和5年<br>1月27日、2月24日<br><br>令和5年3月14日 | 県植防研修会<br><br>専門指導力向上研修<br><br>農業大学校講義<br><br>サツマイモ基腐病対策研修会<br><br>宮崎県植防協会農薬<br>管理指導士研修<br><br>場内人材育成研修<br><br>研究成果報告会 |

| 部課名        | 内容                                                                                                                                                                                                                                           | 実施年月日                                                                                                                           | 講習会等                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生 物<br>工学部 | 1. ピーマン台木育種とその利用について<br>2. ピーマン台木育種とその利用について                                                                                                                                                                                                 | 令和4年12月15日<br>令和4年3月14日                                                                                                         | 専門指導力向上研修<br>総合農業試験場成果<br>報告会                                                                                                                                                                                                                              |
| 作物部        | 1. 雑草防除について<br><br>2. 水稻経営における各種スマート農機の検<br>討状況<br><br>3. いもち病に強く多収性の飼料用米新品種<br>「南海飼190号」の育成<br><br>4. スマート農業講話<br><br>5. 水稻経営におけるスマート農機の体系的<br>な活用の検討                                                                                       | 令和5年1月13日<br><br>令和5年1月25日<br><br>令和5年1月25日<br><br>令和5年2月10日<br><br>令和5年3月14日                                                   | 農薬管理指導士養成<br>研修<br><br>水稻生産技術向上研<br>修会（Web）<br><br>水稻生産技術向上研<br>修会（Web）<br><br>宮崎大学<br><br>総合農業試験場成果<br>報告会                                                                                                                                                |
| 野菜部        | 1. キュウリ養液栽培技術確立に向けた取組<br><br>2. キュウリ養液栽培技術確立に向けた取組<br><br>3. 県内で栽培されているイチゴ品種の特性<br>について<br><br>4. 宮崎県におけるキュウリ産地の現状と展<br>望<br><br>5. 宮崎県におけるキュウリ産地の現状と展<br>望<br><br>6. イチゴ育種の状況について<br><br>7. キュウリ養液栽培技術確立に向けた取組<br><br>8. キュウリ養液栽培技術確立に向けた取組 | 令和4年6月29日<br><br>令和4年8月29日<br><br>令和4年7月7日<br><br>令和4年10月19日<br><br>令和4年11月8日<br><br>令和5年1月30日<br><br>令和5年3月8日<br><br>令和5年3月16日 | JA尾鈴キュウリ部会<br>女性部<br><br>AUP会（綾町キュウリ<br>スタディクラブ）<br><br>JA都城いちご専門部<br>会<br><br>令和4年度野菜花き課<br>題別研究会（三重県）<br><br>令和4年度スマート<br>グリーンハウス展開<br>推進指導者育成研修<br>（福岡県久留米市）<br><br>JA都城いちご専門部会<br><br>JA宮崎中央西ブロッ<br>ク役員研修会<br><br>Achieve35（JA宮崎中<br>央田野支店スタディ<br>クラブ） |

| 部課名 | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 実施年月日                                                                                                                                                                                                         | 講習会等                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 花き部 | 1. ホオズキの実生苗の定植時期について<br>2. スイートピーの新品種候補について<br>3. ブルーフレグランスの栽培技術<br>4. デルフィニウムの品質向上対策についてについて<br>5. スイートピーの試験の取り組みについて<br>6. ラナンキュラスの栽培技術について<br>7. キクの炭酸ガス施用技術について<br>8. ラナンキュラスの栽培技術について                                                                                                                                                                                      | 令和4年6月14日<br>令和4年7月19日<br>令和4年10月12日<br>令和4年11月8日<br>令和4年11月12日<br>令和4年12月7日<br>令和5年1月19日<br>令和5年2月16日                                                                                                        | ホオズキ全体研修会<br>スイートピー全体研修会<br>ブルーフレグランス研修会<br>宮崎県デルフィニウム研修会<br>スイートピー全体研修会<br>西臼杵ラナンキュラス現地検討会<br>キク全体研修会<br>ラナンキュラス全体研修会                                                                                                                                                           |
| 果樹部 | 1. 「瑞季」等について<br>2. 農地環境推定システムを活用した極早生ミカンの開花予測について<br>3. ブドウ「ピオーネ」における環状剥皮処理について<br>4. 農地環境推定システム利用について<br>5. ラジコン草刈り機について<br>6. カンキツ栽培について<br>7. ブドウ栽培について<br>8. ラジコン草刈り機について<br>9. カンキツ新品種「瑞季」・「汐里」について<br>10. 農地環境推定システム利用について<br>11. クリの剪定について<br>12. カキの栽培について<br>13. 農地環境推定システム利用について<br>14. 農地環境推定システム利用について<br>15. 露地果樹栽培におけるロボット草刈り機の運用実証<br>16. きんかん（宮崎夢丸）・カンキツの栽培について | 令和4年5月13日<br>令和4年8月30日<br>令和4年8月30日<br>令和4年9月5日<br>令和4年9月30日<br>令和4年10月12日<br>令和4年10月20日<br>令和4年11月8日<br>令和4年11月9日<br>令和4年11月15日<br>令和4年12月8日<br>令和5年1月13日<br>令和5年2月9日<br>令和5年2月10日<br>令和5年3月14日<br>令和5年3月15日 | 綾町果樹振興会研修<br>果樹部門試験研究成果報告会<br>果樹部門試験研究成果報告会<br>みやざき農業DXスタートアップ事業現地講習会<br>綾町果樹振興会研修<br>果振協カンキツ部会生産者研修<br>JA串間市大束生産者研修<br>綾町果樹振興会研修<br>綾町種なし日向夏研究会研修<br>みやざき農業DXスタートアップ事業現地講習会<br>果振協クリ部会生産者研修<br>果振協カキ部会生産者研修<br>みやざき農業DXスタートアップ事業現地講習会<br>中部果樹技術員会<br>総合農業試験場成果報告会<br>都城市果樹振興会研修 |

| 部課名               | 内容                                         | 実施年月日      | 講習会等                      |
|-------------------|--------------------------------------------|------------|---------------------------|
| 畑 作<br>園 芸<br>支 場 | 1. 学会等の発表（情報発信）と技術開発                       | 令和4年10月5日  | 令和4年度総合農業試験場研究プレゼン実践研修    |
|                   | 2. コンソでの実証結果と今後の展望について                     | 令和4年12月19日 | 令和4年度宮崎県サツマイモ基腐病対策会議全体研修会 |
|                   | 3. 露地園芸技術の特徴から技術開発理論の継承について                | 令和5年1月17日  | 令和4年度専門指導力向上研修            |
|                   | 4. 畑かんの試験状況について                            | 令和4年12月9日  | 畑かんマイスター全体交流会             |
| 茶 業<br>支 場        | 1. 茶炭疽病等に対する防除技術                           | 令和4年12月15日 | 県内茶生産者                    |
|                   | 2. 今までに宮崎県が育成した品種の特性<br>～「たかちほ」から「暖心37」まで～ | 令和4年12月15日 | 県内茶生産者                    |
|                   | 3. 製茶研修（釜炒り茶）                              | 令和5年3月14日  | 釜炒り茶生産者                   |
|                   | 4. 製茶研修（煎茶）                                | 令和5年3月22日  | 煎茶生産者                     |

| 部課名     | 内容                         | 実施年月日      | 講習会等           |
|---------|----------------------------|------------|----------------|
| 亜熱帯作物支場 | 1. バニラの研究状況について            | 令和4年4月18日  | バニラ生産検討法人      |
|         |                            | 令和4年4月19日  | バニラ生産検討法人      |
|         |                            | 令和4年5月12日  | 新富ファーム         |
|         |                            | 令和4年7月28日  | 新富ファーム         |
|         |                            | 令和4年5月27日  | バニラ生産者         |
|         |                            | 令和4年7月15日  | バニラ生産者         |
|         |                            | 令和4年7月26日  | バニラ生産者         |
|         |                            | 令和4年6月23日  | バニラ生産検討農家      |
|         |                            | 令和4年6月28日  | バニラ生産検討農家      |
|         |                            | 令和4年8月9日   | バニラ生産検討農家      |
|         |                            | 令和4年9月13日  | バニラ生産検討農家      |
|         |                            | 令和4年11月16日 | バニラ生産者         |
|         |                            | 令和4年12月20日 | バニラ生産検討農家      |
|         |                            | 令和5年2月24日  | バニラ生産者         |
|         |                            | 令和5年3月16日  | バニラ生産者         |
|         | 2. アボカドの研究状況について           | 令和4年7月14日  | 綾町生産者          |
|         |                            | 令和4年7月19日  | 都農町生産者         |
|         |                            | 令和4年10月3日  | 綾町生産者          |
|         |                            | 令和4年11月14日 | 佐伯市生産者         |
|         |                            | 令和4年11月30日 | 中部果樹技術員会       |
|         |                            | 令和5年2月6日   | 日南市生産者         |
|         |                            | 令和5年2月9日   | 綾町生産者          |
|         |                            | 令和5年2月17日  | 新富町生産者         |
|         |                            | 令和5年3月23日  | 綾町生産者          |
|         |                            | 令和4年10月20日 | JA串間市大東マンゴー研究会 |
|         |                            | 令和5年2月28日  | マンゴー生産者        |
|         |                            | 令和5年3月8日   | 鹿児島果樹試験場       |
|         |                            | 令和4年8月10日  | ライチ苗生産者        |
|         |                            | 令和4年10月7日  | 県外ライチ生産者       |
|         |                            | 令和4年11月29日 | ライチ研究会         |
|         | 3. マンゴーの研究状況について           | 令和4年4月18日  | JA串間市大東きんかん研究会 |
|         |                            | 令和4年11月21日 | JA尾鈴きんかん研究会    |
|         | 4. ライチの研究状況について            | 令和4年6月8日   | 県関係者           |
|         |                            | 令和4年10月20日 | 県関係者           |
|         | 5. きんかん栽培講習会               | 令和5年1月30日  | 宮崎市生産者         |
|         |                            | 令和4年5月10日  | JAはまゆうせとか研究会   |
|         | 6. キンカン輸出プロジェクト検討会         | 令和4年7月13日  | JA串間市大東せとか研究会  |
|         |                            | 令和4年11月4日  | 日本大学学生         |
|         | 7. 日向夏栽培について               | 令和4年11月8日  | 北海道西興部村役場      |
|         |                            | 令和4年4月22日  | JA日向シキミ部会      |
|         | 8. せとか研修会                  | 令和4年5月27日  | 道の駅なんごう        |
|         |                            | 令和4年6月3日   | 道の駅なんごう        |
|         | 9. かんきつの品目と栽培技術について        | 令和4年6月10日  | 道の駅なんごう        |
|         |                            | 令和4年6月17日  | 道の駅なんごう        |
|         | 10. シキミ品種「飢肥1号」について        | 令和4年11月15日 | 新規就農者他         |
|         |                            | 令和4年6月1日   | 宮崎大学学生         |
|         | 11. ジャカラランダの接ぎ木について        | 令和4年9月21日  | 千葉県普及員         |
|         |                            | 令和4年9月29日  | 宮崎大学大学院生       |
|         |                            | 令和4年10月7日  | 農水省職員          |
|         |                            | 令和4年11月4日  | 串間市SAP         |
|         |                            | 令和4年11月10日 | 宮崎大学大学院生       |
|         |                            | 令和4年11月24日 | 綾町生産者          |
|         |                            | 令和5年2月10日  | 宮崎農業高校生徒       |
|         |                            | 令和5年3月9日   | 県出向市町村職員       |
|         |                            | 令和5年3月23日  | 宮崎農業高校生徒       |
|         | 12. 果樹栽培技術研修               |            |                |
|         |                            |            |                |
|         | 13. 亜熱帯作物支場における試験研究の概要について |            |                |
|         |                            |            |                |

| 部課名         | 内容                                                                                                                                                                                                                                | 実施年月日                                                                                                                                                                | 講習会等                                                                                                                                                                                                          |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 薬草地域作物センター  | 1. 薬草や地域作物の活用法の紹介<br>①和ハーブクラフト講座<br>②ハーブのスイーツ料理講座<br>③地域作物とハーブの料理講座<br>④薬膳料理講座<br>⑤ハーブクラフト講座<br>⑥季節のお野菜たっぷり家庭料理講座<br>⑦ハーブ香るしめ飾り作り講座<br>⑧地域作物とスパイスを使った料理講座                                                                         | 令和4年5月29日<br>令和4年6月26日<br>令和4年7月10日<br>令和4年8月7日<br>令和4年9月11日<br>令和4年11月20日<br>令和4年12月11日<br>令和5年2月26日                                                                | 薬草・地域作物を楽しむ会                                                                                                                                                                                                  |
| 病虫害防除・肥料検査課 | 1. 重要病虫害侵入警戒調査・初動対応等について<br>2. 令和4年産早期水稻病虫害発生状況について<br>3. サツマイモ基腐病定点調査結果について<br>4. 令和4年産水稻病虫害発生状況について<br>5. サツマイモ基腐病定点調査結果について<br>6. 令和4年産普通期水稻病虫害発生状況について                                                                        | 令和4年8月29日<br>令和4年10月12日<br>令和4年11月4日<br>令和4年12月16日<br>令和4年12月19日<br>令和4年12月20日                                                                                       | 令和4年度重要病虫害侵入警戒調査・初動対応研修会<br>令和4年産早期水稻実績検討会<br>サツマイモ基腐病対策会議<br>令和4年度中部地区作物部会実績検討会<br>サツマイモ基腐病全体研修会<br>令和4年産普通期水稻実績検討会                                                                                          |
| 鳥獣センター      | 【主催研修会】<br>1. 鳥獣被害対策マイスター認定研修Ⅰ－1<br>〃 Ⅰ－2<br>〃 Ⅱ－1<br>〃 Ⅱ－2<br>2. 鳥獣被害対策マイスター認定研修Ⅲ－1<br>〃 Ⅲ－2<br>3. 技術向上研修 【防護柵】<br>〃 【捕獲技術】<br>〃 【捕獲技術】<br>〃 【捕獲技術】<br>〃 【捕獲技術】<br>〃 【中小型獣】<br>〃 【中小型獣】<br>4. その他のセンター主催研修会や地域等の要請に基づく研修会及び現地指導等 | 令和4年5月25日<br>〃 6月2日<br>〃 5月26日<br>〃 6月3日<br>〃 7月13日<br>〃 7月14日<br>〃 6月24日<br>〃 10月25日<br>〃 10月26日<br>〃 11月10日<br>〃 11月11日<br>〃 12月6日<br>〃 12月7日<br>令和4年4月～<br>令和5年3月 | 【場所・参加者数】<br>総合農試 40名<br>総合農試 39名<br>総合農試 37名<br>総合農試 42名<br>中部農業改良普及センター 43名<br>中部農業改良普及センター 40名<br>総合農試・オンライン 30名<br>林業技術センター 13名<br>総合農試 27名<br>林業技術センター 7名<br>総合農試 15名<br>総合農試 11名<br>総合農試 7名<br>県内一円 47回 |
| 専技センター      | 1. 普及指導員基礎研修<br>2. 普及指導員能力養成研修(資格試験対策)<br>3. 専門指導力向上研修<br>4. 課題解決研修                                                                                                                                                               | 令和4年4月～<br>令和5年3月                                                                                                                                                    | 【対象】<br>普及指導員、<br>JA職員、<br>市町村担当者等                                                                                                                                                                            |

## 10. 受賞・学位取得関係

| 部課名   | 内容                                              | 受賞等年月日    | 主催等            |
|-------|-------------------------------------------------|-----------|----------------|
| 生物環境部 | 研究功労者表彰<br>「改良DIBA法によるウイルス病診断法の開発及び普及」（櫛間 義幸部長） | 令和4年6月24日 | 全国農業関係試験研究場所長会 |

## 11. 品種登録・特許

| 部課名 | 登録・特許事項       | 時 期       | 備 考 |
|-----|---------------|-----------|-----|
| 作物部 | 水稻「ひなたみのり」    | 令和5年1月31日 | 出願  |
| 花き部 | スイートピー「さくやひめ」 | 令和5年3月14日 | 出願  |
|     | スイートピー「ムジカ式部」 | 令和5年3月14日 | 出願  |

## 12. 依頼分析と技術相談

（単位：件）

| 部 課 名       | 依頼分析の主な内容                                                                         | 件数 | 技術相談の主な内容                                         | 件数  |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------|-----|
| 生産流通部       | 残留農薬分析<br>土壌分析等<br><br>DNA解析<br><br><br><br><br><br><br><br>薬草やハーブ類の同定<br>肥料の成分分析 | 8  | 残留農薬分析相談                                          | 3   |
| 土壌環境部       |                                                                                   | 1  | 生理障害診断・対策、土壌水質診断・対策<br>植物生理・栽培指導・試験手法<br>病害虫診断・対策 | 5   |
| 生物環境部       |                                                                                   | 2  | 野菜のバイテク技術                                         | 22  |
| 生物工学部       |                                                                                   |    | 水稻及び麦、大豆の品種、栽培管理、病害虫                              | 1   |
| 作物部         |                                                                                   | 2  | 就農品目、野菜病害虫、加工野菜、栽培管理、家庭菜園                         | 21  |
| 野菜部         |                                                                                   |    | 花きの栽培技術（趣味の花き含む）、品種<br>カンキツ、落葉果樹の栽培管理技術           | 73  |
| 花き部         |                                                                                   | 2  | 畑作物及び野菜の栽培技術                                      | 23  |
| 果樹部         |                                                                                   |    | 茶栽培技術、製茶加工技術、品種特性等                                | 42  |
| 畑作園芸支場      |                                                                                   | 2  | 亜熱帯性果樹・花木、カンキツの栽培管理相談                             | 18  |
| 茶業支場        |                                                                                   |    | 薬草やハーブの栽培・調製、利用法など                                | 47  |
| 亜熱帯作物支場     |                                                                                   | 14 | 病害虫診断・対策                                          | 435 |
| 薬草・地域作物センター |                                                                                   |    |                                                   | 17  |
| 病害虫防除・肥料検査課 |                                                                                   |    |                                                   | 66  |
| 計           |                                                                                   | 27 |                                                   | 773 |

## 13. 病害虫、生育障害診断件数

（単位：件）

| 品 目 | 内 容 | 病 気 | 虫  | 生育障害 | その他 | 計   |
|-----|-----|-----|----|------|-----|-----|
| 稲   |     | 1   | 1  | 5    | 10  | 17  |
| 野菜  |     | 51  | 5  | 9    | 12  | 77  |
| 果樹  |     | 12  | 17 | 8    | 138 | 175 |
| 花き  |     | 11  | 2  | 6    | 20  | 39  |
| 食品  |     | 0   | 0  | 0    | 0   | 0   |
| その他 |     | 19  | 25 | 5    | 6   | 55  |
| 計   |     | 94  | 50 | 33   | 186 | 363 |

# 1 4. 見学・視察者の年度別実績

(単位：人)

|             | 平26    | 平27    | 平28    | 平29    | 平30    | 令和元    | 令和2    | 令和3   | 令和4    |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 本 場         | 2,991  | 4,170  | 3,181  | 6,060  | 6,291  | 6,402  | 2,152  | 2,972 | 4,364  |
| 畑作園芸支場      | 566    | 407    | 574    | 389    | 512    | 453    | 91     | 241   | 193    |
| 茶 業 支 場     | 1,316  | 1,497  | 1,167  | 1,079  | 767    | 431    | 428    | 188   | 179    |
| 亜熱帯作物支場     | 33,338 | 28,623 | 25,392 | 21,453 | 14,346 | 13,184 | 3,731  | 2,669 | 6,503  |
| 薬草・地域作物センター | 7,459  | 10,157 | 9,964  | 8,480  | 7,086  | 8,885  | 4,018  | 2,899 | 4,922  |
| 計           | 45,670 | 44,854 | 40,278 | 37,461 | 29,002 | 29,355 | 10,420 | 8,969 | 16,161 |

注) 本場分については、各部間の重複有り。

亜熱帯作物支場は有用植物園を、薬草・地域作物センターは展示園来場者を含む。

## VI 総 務

### 1. 令和4年度派遣研修等実績

#### (1) 長期派遣研修

| 所 属 | 職名 | 名 前 | 研修の名称 | 実施機関 | 場 所 | 研修期間 |
|-----|----|-----|-------|------|-----|------|
| —   | —  | —   |       | —    | —   | —    |

#### (2) 短期派遣研修

| 所 属   | 職名   | 名 前    | 研修の名称                                    | 実施機関              | 場 所         | 研修期間                 |
|-------|------|--------|------------------------------------------|-------------------|-------------|----------------------|
| 生物工学部 | 主任技師 | 早日 早貴  | 農林水産関係若手研究者研修                            | 農林水産省<br>農林水産技術会議 | Web         | 令和4年<br>9月<br>(2日間)  |
| 果樹部   | 主任技師 | 松浦 祥太  | ブドウにおける光合成測定および樹液流動測定技術の習得及びその関連分析手法の習得等 | 農研機構<br>果樹茶業研究部門  | 茨城県<br>つくば市 | 令和4年<br>9月<br>(18日間) |
|       | 技師   | 宮廻 京平  | 農林水産関係若手研究者研修                            | 農林水産省<br>農林水産技術会議 | Web         | 令和4年<br>9月<br>(2日間)  |
| 茶業支場  | 技師   | 吉武 欣之介 | 主要病害虫の調査手法及び茶病害虫簡易抵抗性検定法の習得              | 農研機構<br>植物防疫研究部門  | 静岡県<br>島田市  | 令和4年<br>9月<br>(10日間) |
|       | 主任技師 | 新 正仙   | 農林水産関係中堅研究者研修                            | 農林水産省<br>農林水産技術会議 | Web         | 令和5年<br>1月<br>(2日間)  |

## 2. 令和4年度予算（本場・支場）

(1) 最終予算額  
 総合農業試験場費 545,533 千円 + 農業総務費他 82,051 千円 = 627,584 千円

(2) 内 訳  
 ①総合農業試験場費 令和5年3月31日現在（単位：千円）

| 事 項<br>区 分     | 最 終 予 算 額     |                   |            |                   |                      |         | 備考 |
|----------------|---------------|-------------------|------------|-------------------|----------------------|---------|----|
|                | 本 場<br>(本課含む) | 畑 作<br>園 芸<br>支 場 | 茶 業<br>支 場 | 亜熱帯<br>作 物<br>支 場 | 薬 草・<br>地域作物<br>センター | 計       |    |
| 管理運営費          | 393,835       | 11,306            | 13,075     | 33,928            | 10,254               | 462,398 |    |
| 管理運営費          | 393,835       | 11,306            | 13,075     | 33,928            | 10,254               | 462,398 |    |
| 試 験 研 究 費      | 68,292        | 3,256             | 8,746      | 1,528             | 1,016                | 82,838  |    |
| 農 事 試 験 費      | 20,980        | 1,056             | 3,345      | 1,528             | 1,016                | 27,925  |    |
| 受 託 事 業 費      | 17,357        | 550               | 1,601      | 0                 | 0                    | 19,508  |    |
| 特定研究開発等促進費     | 29,955        | 1,650             | 3,800      | 0                 | 0                    | 35,405  |    |
| 農業研究機能高度化推進対策費 | 297           | 0                 | 0          | 0                 | 0                    | 297     |    |
| 計              | 462,424       | 14,562            | 21,821     | 35,456            | 11,270               | 545,533 |    |

②農業総務費他 令和5年3月31日現在（単位：千円）

| 事 項<br>区 分 | 最 終 予 算 額 |                   |            |                   |                      |  | 計      |
|------------|-----------|-------------------|------------|-------------------|----------------------|--|--------|
|            | 本 場       | 畑 作<br>園 芸<br>支 場 | 茶 業<br>支 場 | 亜熱帯<br>作 物<br>支 場 | 薬 草・<br>地域作物<br>センター |  |        |
| 一 般 管 理 費  | 9,119     | 9                 | 205        | 140               | 2                    |  | 9,475  |
| 人 事 管 理 費  | 31        | 2                 | 11         | 26                | 1                    |  | 71     |
| 計 画 調 査 費  | 33        | 0                 | 0          | 156               | 0                    |  | 189    |
| 予 防 費      | 4         | 1                 | 6          | 1                 | 6                    |  | 18     |
| 環 境 保 全 費  | 98        | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 98     |
| 農 業 総 務 費  | 13,945    | 779               | 100        | 3                 | 502                  |  | 15,329 |
| 農業改良普及費    | 3,127     | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 3,127  |
| 農 業 振 興 費  | 78        | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 78     |
| 農作物対策費     | 2,484     | 933               | 1,553      | 152               | 0                    |  | 5,122  |
| 肥 料 対 策 費  | 2,057     | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 2,057  |
| 植 物 防 疫 費  | 19,803    | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 19,803 |
| 畜 産 振 興 費  | 373       | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 373    |
| 畜産試験場費     | 50        | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 50     |
| 土 地 改 良 費  | 0         | 663               | 292        | 0                 | 0                    |  | 955    |
| 林 業 総 務 費  | 180       | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 180    |
| 林業振興指導費    | 24        | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 24     |
| 狩 猟 費      | 168       | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 168    |
| 観 光 費      | 1         | 0                 | 0          | 0                 | 0                    |  | 1      |
| 県有施設災害復旧費  | 17,595    | 0                 | 0          | 6,321             | 1,017                |  | 24,933 |
| 計          | 69,170    | 2,387             | 2,167      | 6,799             | 1,528                |  | 82,051 |

### 3-1. 職員の配置

(令和5年3月31日現在)

| 役職名          | 氏名               | 備考    | 役職名          | 氏名     | 備考    |
|--------------|------------------|-------|--------------|--------|-------|
| 場長           | 東 洋一郎            |       | 作物部長         | 荒砂 英人  |       |
| 副場長（総括）      | 松下 直樹            | 4.1転入 | 副部長          | 押川 純二  |       |
| 副場長（研究担当）    | 川越 博             | 4.1転入 | 主任研究員        | 加治佐 光洋 |       |
| 副場長（専門技術担当）  | 戸高 知也            | 4.1転入 | 技師           | 柳田 健志  | 4.1転入 |
|              |                  |       | 技師           | 小島 雄太  |       |
| 管理課長         | 桐明 秀行            | 4.1転入 | 野菜部長         | 黒木 正晶  |       |
| 副主幹（総務）      | 仲村 康行            |       | 副部長          | 力武 弘   | 4.1転入 |
| 主査           | 家守 浩二            |       | 主任研究員        | 相見 直人  |       |
| 主査           | 吉屋 昌子            |       | 技師           | 沖野 圭志朗 |       |
| 主任主事         | 渡邊 由美            | 4.1転入 | 技師           | 沼田 晴香  | 4.1新規 |
| 主事           | 俵 葉月             | 4.1新規 |              |        |       |
| 副主幹（会計）      | 大森 香代子           |       | 花き部長         | 日野 宏俊  |       |
| 専門主幹         | 松尾 ゆりか           | 4.1転入 | 特別研究員兼副部長    | 中村 広   |       |
| 主事           | 桑原 秀幸            |       | 主任研究員        | 本田 由美子 |       |
| 主事           | 貴嶋 利乃            | 4.1転入 | 専門主事         | 寺田 昌浩  |       |
| 病害虫防除・肥料検査課  | (病害虫防除・肥料検査センター) |       | 主任技師         | 黒木 京   |       |
| 課長           | 倉富 文代            |       | 主任技師         | 田村 瑞紗  |       |
| 副主幹          | 久野 公子            |       | 主任技師         | 安田 早紀  |       |
| 主査           | 森下 勝             |       |              |        |       |
| 主査           | 榎本 清和            |       | 果樹部長         | 山口 秀一  |       |
| 専門技師         | 寺本 敏             |       | 副部長          | 末吉 浩二  |       |
| 技師           | 阿萬 祐樹            |       | 主任研究員        | 大西 智康  |       |
| 技師           | 椎葉 駿輔            |       | 主任研究員        | 山名 宏美  |       |
|              |                  |       | 主任技師         | 松浦 祥太  |       |
| 鳥獣被害対策支援センター |                  |       | 技師           | 宮廻 京平  |       |
| (兼)センター長     | 戸高 知也            | 4.1転入 |              |        |       |
| 主査           | 弓削 有子            | 4.1転入 | (兼)専門技術センター長 | 戸高 知也  | 4.1転入 |
| 技師           | 室屋 敦紀            |       | 主幹           | 程内 珠代  |       |
|              |                  |       | 主幹           | 藤井 真理  |       |
| 企画情報室長       | 甲斐 憲一            | 4.1転入 | 主幹           | 河野 昌晃  |       |
| 主任研究員        | 平田 力也            |       | 主幹           | 田村 真理子 |       |
| 主任技師         | 重松 法光            |       | 主幹           | 杉田 浩一  |       |
|              |                  |       | 副主幹          | 川崎 佳栄  |       |
| 生産流通部長       | 八代 賢             |       | 副主幹          | 吉山 健二  |       |
| 主任研究員        | 佐藤 美和            |       | 副主幹          | 福川 泰陽  |       |
| 主任研究員        | 松浦 絵美            |       | 副主幹          | 溝邊 真   |       |
| 主任研究員        | 野上 麻美子           |       | 主査           | 小田 弥生  |       |
| 主任技師         | 岩田 龍祐            |       | 主査           | 竹田 博文  | 4.1転入 |
| 技師           | 江里 直士            |       | 主査           | 山塚 裕美  | 4.1転入 |
|              |                  |       | 主査           | 鈴木 美里  |       |
| 土壌環境部長       | 野崎 克弘            |       |              |        |       |
| 副部長          | 甲斐 宏一            | 4.1転入 | 畑作園芸支場       |        |       |
| 主任研究員        | 吉留 悠太            |       | 支場長          | 永吉 嘉文  |       |
| 技師           | 田上 遊里            |       | 主任研究員        | 河野 健次郎 |       |
|              |                  |       | 主任研究員        | 中村 剛   |       |
| 生物環境部長       | 櫛間 義幸            |       | 技師           | 大辻 智子  | 4.1転入 |
| 副部長          | 後藤 弘             |       |              | 與田 眞音  |       |
| 専門主事         | 内倉 浩一郎           |       |              |        |       |
| 主任技師         | 竹原 剛史            |       | 茶業支場         |        |       |
| 主任技師         | 下大園 佳由           |       | 支場長          | 吉留 浩   |       |
|              |                  |       | 専門主幹         | 長友 博文  |       |
| 生物工学部長       | 杉村 和実            |       | 専門主事         | 龍野 利宏  |       |
| 副部長          | 徳満 理佳            | 4.1転入 | 主事           | 岩切 翔吾  | 4.1転入 |
| 主任研究員        | 武田 和宣            |       | 栽培加工科長       | 川越 洋二  | 4.1転入 |
| 主任技師         | 福元 啓介            |       | 主任技師         | 新 正仙   |       |
| 主任技師         | 早 貴              |       | 特研兼育種科長      | 佐藤 邦彦  |       |
|              |                  |       | 技師           | 吉武 欣之介 | 4.1新規 |

### 3-1. 職員の配置

(令和5年3月31日現在)

| 役職名                                                     | 氏名                                                           | 備考                                      | 役職名 | 氏名 | 備考 |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-----|----|----|
| 亜熱帯作物支場<br>支場長<br>主任<br>主任研究員<br>主任主事<br>技師<br>主事<br>技師 | 山口 和典<br>平原 雄一郎<br>内田 秀一郎<br>川添 詩浩<br>財津 燎<br>武田 美紅<br>久留 洸貴 | 4.1転入<br><br><br><br><br>4.1転入<br>4.1新規 |     |    |    |
| 菓草・地域作物センター<br>所長<br>主任<br>主任研究員<br>主任技師<br>技師          | 有簾 隆男<br>堤 省一朗<br>河野 尚子<br>中村 文昭<br>濱尾 達也                    | 4.1転入                                   |     |    |    |

### 3-2. 職員の配置 (会計年度任用職員)

(令和5年3月31日現在)

| 所属        | 氏名     | 備考      | 所属          | 氏名     | 備考      |
|-----------|--------|---------|-------------|--------|---------|
| 管 理 課     | 中村 久子  | 保健師     | 花 き 部       | 久保 知佳  | 会計年度支援員 |
| "         | 原田 弘子  | 事務支援員   | "           | 藺牟田 貴子 | ※       |
| "         | 郡司 義博  | ※       | "           | 隈江 英敏  | ※       |
| "         | 前迫 一夫  | ※       | "           | 中原 和紀  | ※       |
| "         | 新保 雅人  | ※       | "           | 佐々木 喬登 | ※       |
| 企 画 情 報 室 | 村岡 精二  | ○       | "           | 宮本 滉大  | ※       |
| "         | 木下 智美  | ○       | "           | 瀬戸口 博明 | ※       |
| 生 産 流 通 部 | 松田 政江  | ○       | 果 樹 部       | 伊藤 俊明  | ○       |
| "         | 渡邊 典子  | ○       | "           | 山内 廣昭  | ※       |
| "         | 潟山 富士弘 | ※       | "           | 菅原 秀昭  | ※       |
| "         | 水浪 珠世  | ※       | "           | 永峰 雄二  | ※       |
| 土 壌 環 境 部 | 上田 和美  | ○       | "           | 福永 憲一郎 | ※       |
| "         | 高木 忠信  | ※       | "           | 小宇都 行弘 | ※       |
| 生 物 環 境 部 | 工藤 英志  | ○       | "           | 圖師 裕二  | ※       |
| "         | 日高 透   | 会計年度支援員 | "           | 黒木 文人  | ※       |
| "         | 緒方 正和  | ※       | 畑作園芸支場      | 竹島 久善  | ○       |
| "         | 石山 洋介  | ※       | "           | 逆瀬川 美和 | 事務支援員   |
| "         | 川崎 恵子  | ※       | "           | 有川 貞美  | ※       |
| 生 物 工 学 部 | 福岡 千穂  | ○       | "           | 井手上 光房 | ※       |
| "         | 吉川 好徳  | ※       | "           | 黒石 明男  | ※       |
| "         | 杉尾 人志  | ※       | "           | 内山 直子  | ※       |
| 作 物 部     | 長小田 辰夫 | ※       | 茶 業 支 場     | 加治屋 正  | ※       |
| "         | 古澤 道久  | ※       | "           | 坂井 栄治郎 | ※       |
| "         | 河野 正人  | ※       | "           | 平塚 春城  | ※       |
| "         | 児玉 浩   | ※       | "           | 伊藤 章   | ※       |
| "         | 木村 雅俊  | ※       | "           | 岩村 貞昭  | ※       |
| "         | 日高 祐二  | ※       | 亜熱帯作物支場     | 武田 和典  | ○       |
| 野 菜 部     | 鈴木 良二  | ※       | "           | 大源 伸公  | ○       |
| "         | 福田 公徳  | ※       | "           | 河野 和年  | ※       |
| "         | 川野 靖代  | ※       | "           | 河野 福夫  | ※       |
| "         | 松原 さなえ | ※       | "           | 岩切 茂文  | ※       |
| "         | 永友 ちなみ | ※       | 菓草・地域作物センター | 有村 耕二  | ○       |
| "         | 福吉 修一  | ※       | "           | 田中 珠代  | 事務支援員   |
| "         | 小藏 崎 誠 | ※       | "           | 吉田 穂積  | ※       |
| "         | 佐々木 雄登 | ※       |             |        |         |

注) 備考の○は農業研究員、※は農業研究補助員

#### 4. 退職者・転出者

| 所属          | 職名        | 氏名     | 異動内容           | 在場期間 |
|-------------|-----------|--------|----------------|------|
| 【退職者9名】     |           |        |                |      |
| 生物環境部       | 主任研究員     | 小窪 正人  | 令和4年9月30日付     | 1.5年 |
| 野菜部         | 主任技師      | 中村 光彩  | 〃              | 5.5年 |
|             | 副場長（研究）   | 川越 博   | 令和5年3月31日付     | 1年   |
| 病害虫防除・肥料検査課 | 専門技師      | 寺本 敏   | 〃              | 5年   |
| 生物環境部       | 部長        | 櫛間 義幸  | 〃              | 5年   |
| 花き部         | 専門主事      | 寺田 昌浩  | 〃              | 5年   |
| 畑作園芸支場      | 支場長       | 永吉 嘉文  | 〃              | 2年   |
| 茶業支場        | 支場長       | 吉留 浩   | 〃              | 2年   |
| 亜熱帯作物支場     | 主任主事      | 川添 詩浩  | 〃              | 2年   |
| 【転出者20名】    |           |        |                |      |
|             | 副場長（総括）   | 松下 直樹  | 労働委員会事務局       | 1年   |
|             | 副場長（専門技術） | 戸高 知也  | 中部農業改良普及センター   | 1年   |
| 管理課         | 専門主幹      | 松尾 ゆりか | 中央福祉こどもセンター    | 1年   |
| 〃           | 主査        | 家守 浩二  | 企業局総務課         | 3年   |
| 〃           | 主査        | 吉屋 昌子  | 観光推進課          | 3年   |
| 〃           | 主事        | 桑原 秀幸  | 日向土木事務所        | 3年   |
| 病害虫防除・肥料検査課 | 主査        | 森下 勝   | 児湯農業改良普及センター   | 9年   |
| 〃           | 技師        | 椎葉 駿輔  | 農業普及技術課        | 3年   |
| 企画情報室       | 主任研究員     | 平田 力也  | 南那珂農業改良普及センター  | 3年   |
| 生産流通部       | 部長        | 八代 賢   | 畑作園芸支場         | 5年   |
| 〃           | 技師        | 江里 直士  | 児湯農業改良普及センター   | 2.3年 |
| 生物環境部       | 主任技師      | 下大園 佳由 | 児湯農業改良普及センター   | 6年   |
| 生物工学部       | 主任技師      | 早日 早貴  | 宮崎県経済農業協同組合連合会 | 4年   |
| 作物部         | 技師        | 小島 雄太  | 児湯農林振興局        | 3年   |
| 花き部         | 主任研究員     | 本田 由美子 | 農業大学校          | 6年   |
| 果樹部         | 技師        | 宮廻 京平  | 南那珂農林振興局       | 3年   |
| 専門技術センター    | 主幹        | 河野 昌晃  | 東臼杵農林振興局       | 2年   |
| 〃           | 主査        | 鈴木 美里  | 亜熱帯作物支場        | 2年   |
| 亜熱帯作物支場     | 主任        | 平原 雄一  | 農産園芸課          | 5年   |
| 薬草・地域作物センター | 主任        | 堤 省一朗  | 西諸県農業改良普及センター  | 8年   |

#### 5-1. 県有財産（土地）

単位：㎡

| 名 称        | 令和4.3.31<br>現 在 高 | 当年度中<br>増 減 高 | 令和5.3.31<br>現 在 高 | 増減明細 |
|------------|-------------------|---------------|-------------------|------|
| 本 場        | 609,513           |               | 609,513           |      |
| 畑作園芸支場     | 119,421           |               | 119,421           |      |
| 茶業支場       | 127,369           |               | 127,369           |      |
| 亜熱帯作物支場    | 378,586           |               | 378,586           |      |
| 薬草地域作物センター | 17,713            |               | 17,713            |      |
| 計          | 1,252,602         |               | 1,252,602         |      |

#### 5-2. 県有財産（建物）

単位：㎡

| 名 称        | 令和4.3.31<br>現 在 高 | 当年度中<br>増 減 高 | 令和5.3.31<br>現 在 高 | 増減明細 |
|------------|-------------------|---------------|-------------------|------|
| 本 場        | 31,076            |               | 31,076            |      |
| 畑作園芸支場     | 6,063             |               | 6,063             |      |
| 茶業支場       | 3,309             |               | 3,309             |      |
| 亜熱帯作物支場    | 7,029             |               | 7,029             |      |
| 薬草地域作物センター | 2,796             |               | 2,796             |      |
| 計          | 50,273            |               | 50,273            |      |

#### 6. 令和4年度購入備品（単価 1,000万円以上）

なし



